

山口大学大学院東アジア研究科
博士論文

妊娠期の夢に現れた母性に関する研究
—初産婦 5 人の夢分析から—

平成 23 年 3 月

山 根 望

学位論文要旨

学位論文題目 妊娠期の夢に現れた母性に関する研究—初産婦 5 人の夢分析から—

申請者氏名 山根 望

本研究では、母性について操作的に定義したうえで、初産婦 5 人から報告された合計 165 個の夢を分析し、妊娠期の夢に現れた母性の様態や母性の発達を明らかにすることを目的とする。夢分析を採用した主な理由は、①夢主の自由な語りを可能にし、より多くの情報を得ることができるため、②意識的側面だけでなく無意識的側面も現れるため、③自宅で調査協力者の都合に合わせて夢の内容や感想を記録用紙に書くので、身体的、精神的負担が少ないためである。

序章では、虐待の相談件数の増加、そして虐待の加害者の多くが実母で生後一月以内に死亡する事例が多いことを説明した。妊娠期からの相談体制の確立が急務であり、妊娠期からの妊婦に対する効果的な心理的支援を行うためにも、妊娠期における母性に関する研究が今後さらに求められる。

第一章「本研究の問題と目的」では、まず母性の概念を操作的に定義した。すなわち、本研究では、母性という概念は 4 つの要素から構成されたと考える。すなわち、①母性的身体機能（生理、妊娠、分娩、母乳）、②母性的感情（自分より弱いものに対する「かわいい」「愛おしい」といった親愛感）、③母性的行動（子どもの要求に応じた適切な行動）、④母性的意識（「私はこの子の母親である」「子どもに元気に育て欲しい」といった意識）である。①②③④の母性の構成要素が、妊娠期においてどのように夢に現れ、どのように発達していくのかについて分析する。次に、夢に現れた母性に関する従来の研究について概観し、それらの不足点（単事例研究で母性的行動や母性的意識の現れた夢について分析が不十分であることなど）を考慮し、本研究で行った改善点と目的について述べた。すなわち、本研究では、妊娠期における母性を明らかにするために、①複数の事例（5 人の初産婦）から報告された夢（合計 165 個）を縦断的に調査し、②夢のなかの感情は名島（2008）による 16 個のカテゴリーを用いて詳細に分析し、③赤ちゃんのメタファーと考えられる、夢のなかの動物の意味について検討し、④出産と母性的行動（授乳、おむつ換え、子どもの健康管理と安全管理、入浴、しつけ、あやす）が現れた夢を分析し、⑤妊娠の受容に関わる要素（受胎、胎動、妊婦検診、夫との関係性、共感性）や子どもの受容に関わる要素（性別・障害・育児生活に関する不安、母親としての自覚）について分析した。

第二章「夢の調査方法」では、本研究での調査方法、分析方法、および事例の説明を行った。調査方法と分析方法については調査協力者の内的枠組みを重視する能動的夢分析（名島，2003）を参考にした。分析はあくまで調査協力者の夢の記録や言葉をもとに母性の現れを分析した。調査期間と夢数は、A は夢の数は妊娠 6 か月から出産まで 3 個。B は妊娠 1 か月から出産まで 98 個。C は 2 か月から出産まで 31 個。D は妊娠 4 か月から出産まで 21 個。E は妊娠 5 か月から出産まで 12 個。A、C、D、E は筆者の知人である。B は筆者自身であるが、妊娠期間中、夢分析を専門とする心理臨床家による夢分析を行った。したがって、資料の客観性は保たれている。また、調査協力者 5 人は、①30 歳前後、②高学歴、③安定した生活状況、④夫との良好な関係、⑤順調な妊娠経過という共通した背景を持つ。したがって、本研究では限定された対象（社会的、経済的、心理的に安定しているとみなされる初産婦）の夢を分析する。

第三章「夢のなかの感情の検討」では、16 個の感情カテゴリー（名島，2008）をもとに分類した。また、わが子に対する感情としては、「楽しさ・喜び」といった感情には、①母親としての自分を受け入れつつあること、②胎動の喜び、③育児生活についての肯定的イメージが関係していると言える。

第四章「夢に現れた動物の意味の検討」では、夢に現れた動物（実際には登場していないものも含む）を妊娠初期、妊娠中期、妊娠後期に分けて吟味した。その結果、妊娠初期の夢に登場した動物は、①流産に対する夢主の不安、②慈しみの対象としての胎児の象徴、および③育児に対する不安であった。妊娠中期には、①妊娠によって体力が落ちてしまった夢主の自己イメージと②胎動に対する夢主の驚きを現わしていた。それから、妊娠後期には、①夢主の育児に関する男女観の象徴、②出産や陣痛に対する夢主の感情（不安・恐怖・楽しみ）、③妊娠による身体的変化に対する夢主の否定的感情が見られた。

第五章「夢に現れた未来場面の検討」では、夢主の行動に焦点を当て、出産場面と母性的行動が現れた夢を分析した。その結果、出産場面に関しては、夢主が出産に関する夢を内省することで、出産に対する心理的準備がより進んだ事例があった。母性的行動に関しては、それまでできなかった授乳が出産直前に成功し、その結果育児不安が軽減し、母性的意識の発達が見られた調査協力者がいた。また、授乳したいという願望夢であっても夢主がその夢について深く考えることで夢主の母性的意識が発達した事例があった。

第六章「母性を発達させる要因」では、①妊娠の受容、②子どもに関する不安、③母親としての自覚、④夫との関係性、および⑤共感性が現れた夢を分析した。その結果、5人に限って言えば、①妊娠初期から母性的意識が見られた初産婦がいたこと、②母性的意識や母性的行動の発達には胎動と超音波検査が関連していること、③子どもの性別や障害といった不安は夢主の内省を深め、母性的感情や母性的意識の発達を促す場合があること、④具体的な育児場面を提示することで夢主に育児に関するアドバイスを夢が与える場合があること、⑤夫との親密な関係性が妊娠の受容を促進させる場合があること、および⑥他の女性に対する深い考察や共感が母性的意識を発達させる場合があることが明らかとなった。母性的行動が現れた夢には夢主の母性を発達させる機能があるが（山根，2011）、他の女性に共感する夢など、母性的行動が現れていない夢にも母性を発達させる機能があることがわかった。

第七章「総合考察と今後の課題」では、本研究の結果についてまとめたうえで、妊婦の心理的支援における本研究の意義と今後の研究の課題について述べた。調査協力者5人のなかには、自分自身について質問された結果、母性の発達を促進させたと思える事例があった。また、調査者と調査協力者が育児不安や妊娠の喜びを共有できたという側面も本研究にはあった。したがって、妊婦に対して夢を聴取し、ともに吟味する作業は単に妊婦の心理状態を査定するというだけでなく、妊婦の心理的支援や母性の発達においても非常に有効である。また、産後の相談体制の充実にもつながるであろう。今後の課題として、本研究では高学歴で心身ともに健康な初産婦を限定的に調査したが、①若年層あるいは高齢層の妊婦、②低所得者層の妊婦、③精神疾患等の既往歴がある妊婦、④胎児の発育不良や妊娠高血圧症などリスクの高い妊婦などを対象にした妊娠期の母性に関する研究が必要である。

名島潤慈（2003）：臨床場面における夢の利用—能動的夢分析 誠信書房

名島潤慈（2008）：夢のなかに表れる感情の分類 山口大学心理臨床研究，8, 3-12.

山根望（2011）：妊娠期における夢の機能—初産婦5人の夢分析から 東アジア研究，9, 23-42.（初校校正済み）

目次

序章	1
第一章 本研究の問題と目的	2
第1節 本研究における母性の定義	2
第2節 妊娠期の夢に現れた母性に関する従来の研究	4
1. 武内（1984）の研究	4
2. 的場（1998）の研究	5
3. 原田（2006）の研究	6
第3節 本研究の目的	7
第二章 夢の調査方法	9
第1節 調査方法	9
第2節 調査期間	9
第3節 夢の分析方法	10
第4節 事例の概要	11
第三章 夢のなかの感情の検討	14
第1節 初産婦 A	15
第2節 初産婦 B	15
第3節 初産婦 C	17
第4節 初産婦 D	17
第5節 初産婦 E	18
第6節 わが子に対する感情	19
第7節 まとめ	20
第四章 夢に現れた動物の検討	21
第1節 妊娠初期	21
第2節 妊娠中期	22
第3節 妊娠後期	23
第4節 まとめ	25
第五章 夢に現れた未来場面の検討	27
第1節 出産	27
第2節 母性的行動	29
1. 授乳	29
2. おむつ換え	32
3. 子どもの健康管理と安全管理	33
4. 入浴・あやす・しつけ	34

第4節	まとめ	36
第六章	母性を発達させる要因	37
第1節	妊娠の受容	37
1.	受胎の判明	37
2.	胎動	38
3.	妊婦検診	41
第2節	子どもに関する不安	43
1.	子どもの性別に関する不安	43
2.	子どもの障害に対する不安	44
3.	子どもとの生活に対する不安	46
第3節	母親としての自覚	47
第4節	夫との関係性	49
第5節	共感性	51
第6節	まとめ	53
第七章	総合考察と今後の課題	54
第1節	夢のなかの感情	54
第2節	夢に現れた動物	56
第3節	夢に現れた未来場面	57
第4節	母性を発達させる要因	59
第5節	調査協力者の夢に現れた母性の特徴	62
第6節	妊婦に対する心理的支援における本研究の意義	63
第7節	妊娠期の夢に現れた母性に関する研究の今後の課題	65
引用文献		66
資料1	夢の記録用紙の書き方の説明	68
資料2	夢の記録用紙	69
資料3	調査協力者5人の夢の概要	70
あとがき		99

序章

最近では、核家族化や転勤など流動的な居住状況などから女性が実家などからの支援をほとんど受けられないなかで妊娠・出産・子育てをしなくてはならないケースが増えている。また、現在、高い教育を受けたり、専門職に就いたりする女性が増加し、妊娠・出産・子育てに関して大きな葛藤を抱える場合も多い（山根, 2006）。

厚生労働省によると、平成 21 年度の児童相談所によせられた児童虐待相談対応件数は、44,210 件で過去最悪であった。そのうち、虐待されて死亡した子どもは 107 件あり、死亡した子どもの合計は 128 人であった。そして、107 件のうち親子心中のケースは 43 件（死亡した子どもの数は合計 61 人）、親子心中以外のケースは 64 件（死亡した子どもの数は合計 67 人）であった。

死亡した子どもは、0 歳児が 39 人（59.1%）と最も多く、うち生後 1 か月未満の乳児が 26 人（66.7%）と集中している。この結果を受けて厚生労働省は、子ども虐待が発生する原因は、保護者や子どもの身体的側面、精神的側面、社会的側面、経済的側面等の要因が複雑に絡み合っており、虐待の発生予防や早期発見・早期対応の観点から、乳児家庭全戸訪問事業や養育支援訪問事業の着実な実施に加え、様々な機会をとらえて妊娠期からの支援を特に必要とする家庭に対して、必要な情報提供や支援を行うことが必要であると指摘している。調査の結果を受けて、厚生労働省は妊娠に悩むものへの相談の充実を地方公共団体と国に提言した。

平成 21 年度の調査では、母親が虐待者であった割合は明らかとなっていない。平成 18 年度に厚生労働省が詳しく実施した調査では、児童虐待相談対応件数合計 37,323 件のうち、虐待者のなかで最も多かったのは実母（23,442 件、62.8%）であった。この結果から、平成 21 年度でも主たる虐待者が実母である可能性は高いと推測される。母が主たる虐待者として一番多いことから最近の女性には母性が欠如していることを強調し、母親の無責任さや冷酷さに原因を帰する報道がなされる場合が多いように思われる。また、筆者は子育て支援センターや教育機関に勤務しているが、きちんと養育しているにもかかわらず自分には母性がないのではなかろうかといって悩む母親や、子どもとの関わり方や子どもの発達の一つ一つにこだわり、子どもの気がかりな面の多くを自分自身に帰する母親に出会うことがある。このように虐待する（してしまった）母親に対する激しい批判や母親自身による母性へのこだわりは、母性に対する過度の期待や理想が日本社会に根強く残っているからであると考えられる。このような社会的背景から、妊娠期における母性に関する研究がより一層求められるであろう。特に、初めて妊娠・出産・育児をする初産婦の母性に関する研究が必要である。

第一章 本研究の問題と目的

これまでの母性に関する研究は、出産後の育児期を対象とし、子どもの発達という視点から母親を分析・考察するものが多い。また、女性（母親）の立場から妊娠期における母性を研究したものは、Rubin（1984）、大日向（1988）、蘭（1989）、新道（1990）、および花沢（1992）くらいと非常に少ない。また、妊娠期における母性について、母性の無意識的な側面をも含めて調査した研究は、花沢（1992）が開発した M-SCT（妊婦用の文章完成テスト：Maternity- Sentence Completion Test）と M-TAT（妊婦用の主題統覚法：Maternity- Thematic Apperception Test）の他はないようである。本章では、本研究における母性の定義を行い、妊娠期の夢に現れた母性に関する研究の動向を述べたうえで、本研究の目的を述べたい。

第1節 本研究における母性の定義

母性という言葉は、女性や母親の特性を表わすものとして日本社会で一般的に受け入れられており、母親や母子と関わる場面で多くの人が口にする言葉である。しかし、母性の定義や概念は多義的でありまいである（大日向, 1988; 花沢, 1992）。英語では *motherhood* や *maternity* にあたる。日本語ではどちらも「母性」とか「母性愛」、あるいは「母であること」という訳語がつけられている。ただし、*maternity* は妊娠期を含めるという点で *motherhood* とは異なっている。欧米の論文を見ても、*motherhood* と *maternity* のどちらを使うかは研究者の判断に任せられているようである。日本に限らず、欧米でも母性という概念は多義的でありまいなものようである。さらに、母性という言葉だけでなく、母性意識、母親意識、母親同一性といった新しい言葉を見かけるようになり、それらの言葉が錯綜している現状がある（山根・藤井・名島, 2008）。

本節では、これまでの母性の定義づけを概観したうえで本研究での定義づけを行う。表1は、母性に関する従来の定義をまとめたものである。

表のなかにまとめた先行研究は母性（新道, 1990 では母性意識）について定義しているが、大日向（1988）と蘭（1989）は母性について独自の考えかたを述べている。大日向（1988）は、人間にとって子どもを産み育てることは、男女両性の成体における広義の養育欲求・養育行動として把握されるべきものであるとし、母性に代わる適切な概念として「育児性」という概念を提唱している。また、蘭（1989）は、母性をその心の中に確立するための新しいモデルとして「Co-セルフ」という概念を提唱している。Co-セルフとは、女性が妊娠したことを受け入れ、胎動を感じることによって子どもをはらんでいるというボディイメージを形成し、出産を終え、子どもが4歳になるくらいまでの間だけでもつ子どもとの共同感のことであり、自分と子どもを切り離せない存在のように感ずる心理である。Co-セルフを形成し、確立していくことが母性の確立に繋がると蘭は述べている。

以上のことから、母性という概念が非常に広義で、言葉は違っていても重なる部分も多く、わかりづらい概念であると言える。母性とは何かと考えた場合、母性という概念自体は、①身体的・生理的側面、②感情・情緒的側面、③行動的側面、④意識的側面といった4つの要素から構成されていると考える。本研究では、母性を操作的に定義すると、①に

関係するものを母性的身体機能、②を母性的感情、③を母性的行動、④を母性的意識と呼ぶことにする（表 2 を参照）。そして、これら①②③④の母性の構成要素が、妊娠期においてどのように夢に現れ、どのように発達していくのかについて分析する。

表 1 母性に関する従来の定義

研究者	定義
Deutsch, 1944	社会的・生理学的・感情的な統一体としての、母の子に対する関係を示すものである。
Rubin, 1984	女性の自己システムと自己概念のなかに子どもについての考え方や、この子の母親としての自己という考え方を取り込み、仕上げるのが起こる。この心理的取り込みは、胎児と妊娠の生物学的発達と相互依存的であり、つりあいのとれた並行関係にある。女性は、子どもをもつということと母になるということとの 2 つの側面の均衡化へ積極的に適応し順応していくなかで、この取り組みは、観念化と行動上での自己のひたむきな傾注であり、連続的な絆の形成を表している。
村井, 1989	母親の子に対する感情、行動、態度の背後にあつて、さまざまな養育行動を喚起し、維持するきゆうを持つ行動 - 情動複合体である。さらに、それを可能にするような、母親の心身の条件や知識 - 価値体系をも広義の母性に含めることも可能であろう。
新道, 1990	女性が子どもを、あるいは母親が自分の子どもを「可愛い」「好き」というような、子どもに対する特定の感情である。（著者注：新道は母性意識と表記している）
船橋, 1992	男性にはなくてとくに女性にのみ固有の部分を「母親役割」と呼び、母親にのみ固有の役割遂行の結果あらわれてくる特性を「母性」と呼ぼう。
花沢, 1992	児に対する母親としての関わり、あるいは母親らしい関わりに示される女性のパーソナリティの一部。
名島ら, 1997	女性の妊娠・出産・育児に関わる生理機能という身体的側面と、それらにまつわる心理的な側面との心身両面の性質。
前原, 2000	女性が次代を産み育てる課題を果たすために、備えている心身の特性を総称して母性と言う。
高石, 2003	いのちを産み、はぐくみ、小さく弱きものを慈しみ守る性質。
森田, 2005	妊娠・分娩・哺乳に関わり女性固有の生理的特性を意味するものから、わが子に対する慈悲や献身といった特定の態度および感情をさすものまで多義にわたっており、母性の概念は用いる人や領域で大きく異なる。

表 2 母性の構成要素

母性の構成要素	具体的説明
①母性的身体機能	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の成立と継続に必要な身体的機能（生理、排卵、受精、着床、胎盤、羊水）。 ・分娩の苦痛の受容。 ・乳児を養育するに必要な身体的機能（母乳）。
②母性的感情	<ul style="list-style-type: none"> ・自分より弱いもの（子どもや小動物）に対する「かわいい」「愛おしい」といった親愛感。
③母性的行動	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの要求に応じた適切な行動（授乳、おむつ換え、入浴、着替え）。 ・子どもの健康と安全に配慮した行動。 ・社会的・文化的に適切な行動を子どもに伝えること（しつけ）。
④母性的意識	<ul style="list-style-type: none"> ・「この子は私の子どもである」という意識。 ・「私はこの子の母親である」という意識。 ・母親としての自己の受容。 ・子どものために、あるいはよりよい母親になるために自分（性格、生活、行動様式）を変えようとする意識。 ・子どもに元気に育って欲しいという意識。 ・子どもを守らなくてはならないという意識。

第 2 節 妊娠期の夢に現れた母性に関する従来の研究

妊娠期の夢に関する研究はほとんどないのが現状で、しかも夢に現れた母性について分析しているものは、武内（1984）、的場（1998）、および原田（2006）しかない（山根・河合・八田・佐藤・渡邊・名島，2006）。

1. 武内（1984）の研究

武内は妊婦の夢を用いて、怒りや不安、喜びや混乱といった心理状態を分析している。また、夢内容や夢に表された心理状態が初産婦と経産婦とで異なるかどうか、時間的推移に伴う特徴があるかどうかについても吟味している。具体的には調査協力者を初産婦と経産婦に分け、妊娠時期（初期～16週、中期17～28週、後期29週～）の3回と出産後（1～4か月）の1回、合計4回の郵送による調査を行った。夢が報告された有効な調査協力者数は、妊娠初期17名、妊娠中期33名、妊娠後期14名、出産後16名であった。そのうち、夢を縦断的に4回報告した調査協力者は、初産婦3人、経産婦1人であった。報告された夢数は、初産婦49個（妊娠初期8個、妊娠中期19個、妊娠後期13個、出産後9個）で、経産婦42個（妊娠初期10個、妊娠中期20個、妊娠後期5個、出産後7個）であった。夢に現れた感情・情動はHall&Van de Castle（1966）の感情・情動の分類のやり方にしたがって、(1) 怒り、(2) 不安・恐れ・心配、(3) 喜び、(4) 悲しみ、(5) 混乱の5つと、(6) 不確定という計6つに分類された。

その結果、夢のなかの感情の分析を通して次のことが分かった。①数としては多くないが「怒り」が現れていた夢には、妊娠したことによって自分のやりたかったことが制限さ

れることに対するイライラなど、母親になることへの否定的感情が示されている。②妊婦の夢には不安や恐怖の夢が多い。妊娠中に多い不安夢は、子どもを持つということの大きな喜びと期待の裏側に潜む不安や心配を拡大して明らかにしてくれる。そして、そのような不安夢には来るべき事態への準備を促す働きをしているものもあるため、警告夢としての役目を果たしており、今後の妊娠生活、出産、および育児を考える上で積極的に活用することができる。③夢のなかには喜びの夢も出現しているが、その場合、初産婦では昔の友人や家族との楽しい会話といった、退行的な時間のなかでの楽しさが、一方経産婦では子どもの性が期待通りでうれしいといった感情がみられる。

夢内容にみられる特徴として、子どもが生まれる(た)夢には不安・喜び・混乱の情動の3型がある。初産婦の場合、子どものイメージがまだ現実的でないこともあって混乱や驚きを引き起こすが、経産婦の場合には「上の子と遊んでいる子ども」といったように、子どものイメージがより具体的・現実的なイメージとして夢のなかに現れることが多い。なお、初産婦・経産婦ともに夢のなかで実際の子どもの出会いを心理的に準備しているとのことである。④試験、課題、宿題の夢が合計3個(初産婦が2個、経産婦が1個)報告されたが、試験や課題に取り組むということは、子どもを生んで育てていく準備をしていくを現している。それがうまくできなくて焦っている姿のなかに夢主の人生の節目への取り組みや焦燥感をうかがうことができる。また、武内によると、妊婦に夢について話してもらくと、妊娠を知ってから幼い頃のことをよく思い出してそれを夢に見ると多くの妊婦が話したそうである。また、胎動がはじまってからは、赤ちゃんのことをよく夢で見たようである。妊婦の話した内容をふまえて、妊娠期において女性が母親になる心理的プロセスを明らかにするためには、妊娠初期(胎動がない時期)の夢での時間的退行と、胎動がはじまってからの赤ちゃんや将来についてのイメージアップに関する縦断的研究が必要であると結論付けている。

2. 的場(1998)の研究

武内と同様に的場も Hall & Van de Castle (1966) の分類を用いて、妊婦の夢のなかの感情について分析している。ただし、的場は妊娠・出産・育児という一連のプロセス全体を可能な限り明らかにするため、1人の健康な初産婦の夢を縦断的に研究した。具体的に言えば、夢のなかの情動は、①怒り、②不安・恐れ、③喜び、④悲しみ、⑤混乱・驚き、⑥不確定に分類し、時間の次元は過去・現在・未来で分類した。妊娠7か月から出産までの夢を5つの情動で分類した結果、不安・恐怖(30%)、喜び(35%)、混乱・驚き(48%)の3つが夢の中心部分を占める情動であった。不安・恐怖といった夢は、単にそのときどきの夢主の不安を反映しているだけでなく、来るべき事態に備えるといった側面を有しているであろうとの場は推測している。混乱・驚きの情動が多かった理由として、この時期が特に心理的・身体的に急激に変化する時期であることが挙げられる。ちなみに、喜びの情動を表した夢もかなり多く見られたが、的場によるとこれは夢主が強く妊娠を望んでいたからである。

妊娠7か月から出産までの間に報告された23個の夢のうち約半分が「妊娠・出産・赤ちゃん」に関する夢であった。夢内容としては、①赤ちゃんをイメージ化する夢、②授乳などの母性的行動の練習の夢、③赤ちゃんに関する興味や関心、つまり母性的意識が現れ

た夢、④身体的変化、つまり母性的身体機能に対応して現れた夢が見られた。母性的行動が現れた夢は、妊娠 9 か月に「赤ちゃんが生まれて授乳するという夢」が報告された。的場によると、授乳するとかおむつを取り替えるといった内容の夢は、妊婦に対して母親役割を練習させる働きがあるという。この視点は大変興味深い。母性的行動を練習する夢は母性の発達状況を知るために貴重な資料になると的場は指摘している。母性的意識に関して、的場（1998）の調査によると、夢主は妊娠 7 か月のときに「赤ちゃんを土のなかから掘り出すという夢」を見た。これは、出産より前に母親になる決意を現した貴重な夢であるとの的場は述べている。

3. 原田（2006）の研究

原田は、妊娠・出産・育児期における女性の心理的プロセスを明らかにするために、ある 1 人の初産婦を対象にして、妊娠 5 か月ころから出産後 3 か月までの計 8 か月間にわたって縦断的な夢の調査を行った。調査方法は調査協力者に夢を記録してもらい、それと平行して、記録された夢についてのインタビューを 1 か月に 2 度ほど行った。その結果、55 個の夢を聴取することができた。そのうち、妊娠期の夢は 44 個であった。原田は 55 個の夢を第 1 期（4 か月から 5 か月）、第 2 期（6 か月から 7 か月）、第 3 期（8 か月から出産）、第 4 期（産後 3 か月）の 4 期に分けて考察している。また、原田は、夢のなかの感情を、①怒り、②恐怖、③不安・心配、④悲しみ、⑤喜び、⑥不快・嫌悪、⑦驚き、⑧不明という 8 個に分類して分析している。その結果、調査協力者の夢のなかには、不安・心配の感情が最も多く現れていた。

原田は夢内容およびインタビューで得られた情報から調査協力者の心理的テーマを抽出している。その結果、妊娠期の重要なテーマの一つとして、受胎後の瀕尿や胎動、体重の増加といった身体的変化への思いがあった。身体的変化に関する夢は、「太って醜い自分を鏡で見て嫌になるという夢」に代表されるように、主に身体の外見に対する夢主の嫌悪感であった。この嫌悪感は妊娠 5 か月ごろから見られ、妊娠の経過とともに出産までの間徐々に大きくなっていった。母性的行動が現れた夢は、妊娠中期前半に見られた「男の子に授乳して愛おしく思う夢」があった。原田は、夢のなかで調査協力者が授乳という母性的行動を行っていることは、調査協力者の母性が発達の過程にあることを現していると分析している。原田が行った分析の結果、調査協力者は妊娠 5 か月ごろには、胎児への愛着は形成されておらず、母性的意識が低かった。その理由として、①仕事で忙しい夫に対する不満、②妊娠による身体的変化を受容できないこと、および③女兒を希望していたが男児であることが判明したことを挙げている。調査協力者は妊娠 6 か月ころから現実生活で胎児を意識した行動（食事や運動の管理）を行うようになり、性別に関わらず子どもを受け入れたいという母性的意識が見られるようになった。これは、胎動によって胎児の存在を感じられるようになったことが関係している。妊娠後期には、子どもが無事に生まれて欲しいという母性的意識や、「子どものために自分が健康でありたい」という母性的意識が発達していた。

第3節 本研究の目的

これまでの妊娠期の夢に現れた母性に関する研究から、①初産婦の夢には「不安・心配」や「驚き」といった感情が多く現れること、②胎動が母性的意識の発達と関連があること、③妊娠中期以降に母性的行動が夢に現れる場合があること、および④妊娠期の夢には出産に対する心理的準備を促す機能があることが明らかとなった。また、的場や原田は女性が母親になるプロセスを明らかにするために妊娠期における初産婦の心理や母性に関する縦断的研究の重要性を述べている。

これまでの研究の結果は大変意義深いものであるが、調査協力者（初産婦）数と夢数を見ると、的場（1998）が1人から合計23個、および原田（2006）が1人から合計44個の夢で、ともに単事例のみである。したがって、単事例のみでは他の事例との比較ができないため、分析結果が個人的側面なのか、それとも多くの初産婦が有する一般的側面なのかどうか不明である。したがって、単事例ではなくできるだけ多くの初産婦に対して縦断的調査を行う必要がある。

これまでの先行研究は、妊娠期の夢のなかの感情と夢内容に焦点を当てて妊娠期の心理を明らかにしようとしている。確かに、夢のなかの感情には夢主のパーソナリティやその時期の心理状態が現れるので、今後の研究においても重要な要素である。しかし、Hall & Van de Castle（1966）をもとにした6個から7個のカテゴリーでは妊娠期の心理状態を明らかにするには不十分であると思われる。また、これまでの研究では、子どもやか弱いものに対する「親愛感」といった母性的感情についての吟味が不十分である。また、これまでの研究において、妊娠期の夢には「不安・心配」の感情が多く出現しているが、これは妊娠・出産・育児に対する不安を現しているだけではなく、母性の発達と何か関連があるかもしれない。加えて、夢内容に関しても、母性的行動は授乳やおむつ換えだけでなくもっと多岐にわたって現れているはずである。また、夢はメタファーなので、赤ちゃんや子どもが姿を変えて夢に登場しているかもしれない。したがって、夢のなかの素材と、それに対する夢主の感情や行動にも注目すべきであろう。また、夢の内容としては一見母性に関連がないような夢であっても、夢主に丁寧に質問していくことで母性との関連が明らかになるかもしれない。

以上のことから、妊娠期の夢に現れた母性に関する今後の研究では、①単事例ではなくできるだけ多くの初産婦から夢を調査すること、②夢のなかの感情のカテゴリーを増やして妊娠期における調査協力者の母性的感情の特徴や心理状態を明らかにすること、③夢に現れた胎児や子どものメタファーについて分析すること、④夢に現れた未来場面を吟味し、そこに現れた母性的側面を分析すること、および⑤母性と関連のある他の要素を明らかにすることが求められるだろう。したがって、本研究では、①5人の初産婦の夢を縦断的に調査し、②夢のなかの感情は名島（2008）による16個のカテゴリーを用いて分析し、③妊娠期の夢によく登場した動物の意味について検討し、④出産と母性的行動（授乳、おむつ換え、子どもの健康管理と安全管理、入浴、しつけ、あやす）が現れた夢を分析し、⑤妊娠の受容に関わる要素（受胎、胎動、妊婦検診、夫との関係性、共感性）や子どもの受容に関わる要素（性別・障害・育児生活に関する不安と受容）について分析するという改善を行った。

次に、母性を研究するのに夢分析を採用した理由について述べたい。第1の理由は、夢が夢主に関する情報を豊かに含み持っているからである。たとえば、Ablon (1994) はある初産婦の夢分析を通して、妊娠期における夢が初産婦の心理的葛藤や発達の課題を現していると指摘している。名島 (2003) は、「臨床場面において夢は、①夢主が現在直面している心理・社会的危機の様態、②夢主の心理・性的・社会的発達水準、③パーソナリティ構造、④対人関係の様態、⑤自我同一性の様態、⑥心理療法の進み具合や効果などについての情報を豊かに含み持っている」と述べている。つまり、初産婦の夢には、妊娠・出産によって生じる心理・社会的危機の様態や、妊娠期における母性の様態や発達が現れるはずである。

第2の理由は、質問紙票では調査協力者が理想的な回答をする場合があるが、一種の投射法である夢分析は調査協力者の自由な語りを可能にするため、調査協力者の内的世界が現れやすい。第3の理由は、夢分析は何度も調査可能なうえに、図版などの検査道具を必要としない。調査協力者の体調に合わせて調査・分析をすることが可能なので、調査協力者の体力的・精神的負担が少ないからである。

以上のことから、本研究では初産婦5人から報告された合計165個の夢を分析し、①夢のなかの感情、②夢に現れた動物の意味、③夢に現れた未来場面の検討、および④妊娠の受容と子どもの受容を促す要因という観点から妊娠期の夢に現れた母性について研究することを目的とする。

第二章 夢の調査方法

第1節 調査方法

夢主が夢を見たら、能動的夢分析（名島，2003）の考え方をもとに作成した夢記録に記録してもらった。能動的夢分析とは夢主中心の夢分析で、「夢主自身が夢の意味を発見できるような環境を、セラピストが質問という形で能動的に整えてあげる」というものである。この質問には、①夢の各構成素材について問う「夢素材連想質問」、②夢全体についての感想を問う「全体感想質問」、③夢のなかのポイントないし強調点を問う「夢ポイント質問」、④夢の伝達の・警告的側面について問う「伝達－警告質問」、⑤夢と夢の関連性（共通点ないし相違点）について問う「夢関連性質問」、⑥夢自己と覚醒自己との対応性について問う「対応性質問」、⑦夢のなかの潜在感情について問う「潜在感情質問」、⑧夢の抽象的・質的側面について問う「抽象性質問」、⑨夢素材と覚醒素材とを対提示する「対提示質問」がある。名島によると、①②の質問は従来からよく行われている質問で、①②の質問で有益な連想がなされなかった場合、③④の質問を行う（①②③④の質問を一般的介入技法という）。それでも、有益な連想が行われなかった場合、⑤⑥⑦⑧⑨の質問を行う（⑤⑥⑦⑧⑨の質問を特殊的介入技法という）。セラピストがいろいろな質問をしても夢主の反応がきわめて乏しい場合であっても、可能な限り夢主の内的枠組みに沿って解釈を行う。本研究でも、筆者（調査者）の理論や知識で夢を解釈するのではなく、できるかぎり夢主自身が夢の意味を発見することができる質問を調査協力者に行った。

能動的夢分析を採用した理由として、夢のイメージはそれまでの夢主の経験や知識、また価値観をもとに作られているので、調査者が調査者自身の枠組みから勝手に解釈することは夢主にとっての夢の意味を損ねる可能性があると考えからである。加えて、調査者主導の夢分析を実施することは、夢主が夢の意味を調査者に委ねる形となりやすく、夢主自身の自由な語りや深い自己内省を妨げられるからである。

本調査では、初産婦に調査協力の承諾を得たあと、各質問の説明を書いた書類と、夢を記録してもらう用紙をメールにて添付して送った。夢の記録用紙には、①夢を見た日時と場所、②夢内容、③夢のなかで夢主が体験した感情、④夢から覚めた時の感想、⑤全体感想質問、⑥夢ポイント質問、⑦伝達－警告質問についての項目が書かれている。調査協力者は夢を見たあとできるだけ早くに記録用紙に記述してもらうよう依頼した。夢の記録が送られてきたら、後日メール、電話、あるいは家庭訪問をしてその夢に関する夢素材連想質問や対応性質問を行い、また記録の内容や妊娠経過などについて質問した。

表3は、能動的夢分析を参考にした質問内容についてまとめたものである。また、資料1と資料2は、調査協力者に配布した夢の記録の付け方を説明した用紙と記録用紙である。

第2節 調査期間

妊娠2か月頃から出産までに見た夢を報告してもらった。初産婦Aの調査期間は2005年6月から7月の2か月間、初産婦Bの調査期間は2006年4月から同年12月までの9か月間、初産婦Cの調査期間は2007年2月から同年9月までの8か月間、初産婦Dの調査期間

は 2008 年 4 月から同年 10 月までの 7 か月間、初産婦 E の調査期間は 2008 年 10 月から翌年 4 月までの 7 か月間である。調査を依頼した時点より前の夢に関しては思い出せる限り思い出してもらった。したがって、収集した夢のなかには回想夢も含まれる。ただし、A と C 以外の調査協力者の夢には回想夢は含まれていない。

表 3 能動的夢分析における質問名、定義、質問内容

質問名	定義	質問例*
夢素材連想質問	夢の素材についての連想を促す質問	<この夢のなかのおむつ換えについて、何か思い当たることはありますか？> <美術館から連想することは何ですか？>
全体感想質問	夢全体についての感想を問う質問	<この夢についてどう思われますか？> <この夢についてのあなたの感想はいかがですか？> <この夢全体を振り返ってどう思いますか？>
夢ポイント質問	夢のなかのポイントないし強調点を問う質問	<この夢のポイントはどう思われますか？> <この夢の強調点はどこでしょうか？> <この夢のなかで特に大事なところはどこですか？>
伝達－警告質問	夢の伝達の・警告的側面について問う質問	<この夢が何かをあなたに警告しているとしたら、それは何でしょうか？> <この夢のメッセージとは何だと思えますか？>
夢関連性質問	夢と夢との関連性について問う質問	<今日の授乳の夢は前にもありました。ただ、以前は授乳がうまくできずに焦っていましたが、今回の夢では授乳が上手にできていました。このような違いについてどう思われますか？>
対応性質問	夢自己と覚醒自己との対応性について問う質問	<あなたは夢のなかで大変焦っていましたが、現実の生活場面のなかで思い当たることはありますか？>
抽象性質問	夢の抽象的・質的側面について問う質問	<あなたにとって雪のように白くて清らかだけれど、同時に困ったと思うものと聞いて、何か思い浮かびますか？>

*質問例は筆者が用いたものである。

第 3 節 夢の分析方法

能動的夢分析の考え方にに基づき、夢の分析はできる限り夢主の記録と面接内容に依拠した。妊娠・出産に関係がない夢内容であっても、夢主がその夢の記録に妊娠・出産について記述しているものはすべて妊娠・出産に関わる夢として検討対象に含めた。

名島（2003）は、夢に関する伝達－警告質問が臨床場面において非常に有効であると述べている。本研究では、妊娠、出産、および子育てに関する夢があった場合、夢主が夢からの伝達をどのように解釈し、今後の子育てや母親としての生活についてどのように考え

たのかについて焦点を当てる。妊娠・出産に関係がない夢内容であっても、夢主がその夢の記録に妊娠・出産について触れているものはすべて妊娠・出産に関わる夢として検討対象に含めた。

名島（2003）は、夢に関する伝達－警告質問が臨床場面において非常に有効であると述べている。確かに、伝達－警告質問に対して調査協力者が書いた内容を見ると、妊娠生活に適応しようとしたり、あるいは出産や育児に対して準備しようとしたりする初産婦の心理が多く現れていた。本研究では、夢の機能について論じる場合、主に伝達－警告質問に対する調査協力者の記述をもとに分析する。ただし、他の質問であっても、母親としての自己についての夢主の内省が深まったり、育児や出産に対するイメージや指針を得たりしたものなどについても、夢が夢主に対して何らかの働きかけをしたものであるとみなし、それを夢の機能と考える。たとえば、赤ちゃんに授乳する夢を見て、夢主が伝達－警告質問に対し、「授乳は心配しなくていい」と書いていれば、夢を見たことによって夢主の授乳に対する不安が軽減したとみなす。つまり、この夢には授乳という母性的行動に対する不安を軽減させる機能があったと捉える。また、全体感想質問や他の質問で、「授乳しているときにはとても幸せな気持ちだった。赤ちゃんが愛おしかった」と書いていれば、夢を見たことで夢主の母性的感情が発達したと考える。したがって、この夢には母性的感情を発達させる機能があったとみなす。夢主の内省がなかなか深まらなかった場合には、夢内容、記録、現実生活での出来事、および夢主の生育歴等を考慮し、夢の意義や母性との関連性について推測した。

第4節 事例の概要

5人の調査協力者の概要は、以下のようなものである。本人の希望により、職業など表現をあいまいにしている箇所がある。

初産婦 A: 妊娠時 27 歳。父、母、姉の 4 人家族。A は大学院修了後、英語の教員をしていた。そして、高校時代から付き合っていた男性と結婚し、妊娠した。夫は大学院卒で企業の技術職である。妊娠経過は順調。普通分娩にて男児を出産した。夢の数は妊娠 6 か月から 8 か月までで合計 3 個である。なお、A の場合は最初の夢のみ回想夢で、夢を見た時期から 2 か月後に報告された。D1 は回想夢だが、2 か月間も覚えていたという点で A にとって非常に意義深い夢であったと言える。客観性に欠けるかもしれないが、A の内的世界を映し出しているという点から検討対象に含めた。A は家庭訪問を行って調査した。夢数は少ないが、一般的介入だけでなく、夢関連性質問や対応性質問といった特殊的介入技法の質問を行うことができた。

初産婦 B: 妊娠時 29 歳。父、母、兄 2 人の 5 人家族。B は文学系の大学院に在籍していたが、結婚を機に退学した。夫は大学卒で高校教員である。その後、心理学系の大学院に在籍中に妊娠し、普通分娩にて男児を出産した。B は女兒の出産を強く望んでいた。学生時代にアメリカに留学した経験を持ち、アメリカに対して親近感を持っている。夢の数は、妊娠 1 か月から出

産まで 98 個である。B は筆者自身である。能動的夢分析を専門とする臨床心理士に面接による夢分析を依頼した。したがって、資料の客観性は保たれている。また、一般的介入技法だけでなく、必要に応じて抽象性質問、対応性質問、および夢関連性質問が行われた。

初産婦 C: 妊娠時 30 歳。父、母、双子の妹の 5 人家族。C は大学卒業後、英語教育関係の仕事をしていて結婚を機に退職した。夫は大学院卒で企業の研究職である。結婚した直後、実父が他界した。妊娠判明時は専業主婦であった。高校生ときから弓道をしている。普通分娩にて女兒を出産した。夢の数は、妊娠 2 か月から出産まで 31 個である。調査を開始した時期は妊娠 3 か月に入った直後である。したがって、D1 から D4 まで回想夢である。日にちは明確でないが、「1 月の第 2 週」と時期がはっきりしており、夢内容や夢のなかの感情なども鮮明である。また、C の場合にも、これだけ詳細に記憶していたということはこれらの 4 つの夢が C の内的世界を現し、C にとって意義深いものであったからであると考えられる。したがって、D1 から D4 の夢も検討対象に含めた。C の場合は、メール、電話、および家庭訪問による追調査を行った。C の場合、一般的介入技法の質問で有益な連想が得られた。特殊的介入技法のなかでは、抽象性質問と対応性質問を行った。

初産婦 D: 妊娠時 31 歳。父、母、弟の 4 人家族。D は大学卒業後、金融会社に勤めていたが、結婚を機に退職した。夫は大学院卒で消防士である。持病を患っていたが、治療が終わった後に妊娠した。妊娠判明時には専業主婦。普通分娩にて男児を出産した。夢の数は、妊娠 4 か月から出産まで 21 個である。D は遠方に住んでおり、メールと電話による追調査を行った。一般的介入技法による質問と、抽象性質問および対応性質問を行った。

初産婦 E: 妊娠時 34 歳。祖父母、父、母、弟の 6 人家族。E は看護系短大卒業後、看護師をしていたが、結婚を機に退職した。アメリカ人の夫とともに英会話教室を運営している。普通分娩にて男児を出産した。夢の数は、妊娠 5 か月から出産まで 12 個である。E の居住場所は筆者と近かったが、筆者と都合が合わず面接や電話をすることができなかった。したがって、メールによる追調査を行った。一般的介入技法の質問では有効な連想がなされなかったため、抽象性質問や対応性質問を行った。追調査では現実生活での困難感や妊娠にまつわる印象的なことなどについても質問した。

結局、5 人から合計 165 個の夢を収集することができた。A、C、D、E は筆者の知人である。。資料 3 は 5 人の夢の概要である。表 4 は 5 人の年齢や夢の数などをまとめたものである。表にある妊娠期間の区分は、医学的な区分に基づいている。すなわち、妊娠初期は 1 か月から 4 か月まで、妊娠中期は 5 か月から 7 か月まで、妊娠後期は 8 か月から 10 か月(出産)までである。A と E は最後の夢がそれぞれ妊娠 8 か月と妊娠 9 か月となっているが、調査は出産まで実施している。

5 人の全体的な特徴としては、①全体的に高学歴で専門的な職業を持ったことがあること、②20 代後半から 30 代半ばで社会的にも精神的にも安定していたこと(夫も共通した背景を持っている)、③妊娠を希望していたこと、④妊娠経過が順調であったこと、および⑤夫婦関係が安定していたことが挙げられる。つまり、本研究では共通の背景を持った

初産婦の夢分析を行うことができた。

結果的に調査協力者 5 人は心身ともに心身ともに健康であった。また、妊娠経過が順調に進むかどうかは調査を依頼した時点では不明であったが、結果的に 5 人とも順調であった。さまざまな背景を持つ初産婦に対する研究が必要であるが、妊娠期の夢に関する研究や女性が母親になる心理的プロセスに関する研究がまだまだ不十分であるので（山根ら，2006；山根ら，2008）、適切に母親へと移行したと推測される対象を調査できたことは研究として意義あるものとする。

表 4 調査協力者の内訳と夢

夢主	年齢*1	妊娠前(中) の職業	夢が見られた時期	夢の数			
				初期	中期	後期	合計
A	27	高校教員	妊娠 6 か月～ 8 か月	0	2	1	3
B	29	大学院生	妊娠 1 か月～10 か月	39	27	32	98
C	30	英語教育関係	妊娠 2 か月～10 か月	13	13	5	31
D	31	金融会社	妊娠 4 か月～10 か月	2	13	6	21
E	34	英語教室運営	妊娠 5 か月～ 9 か月	0	9	3	12

*1 妊娠時の年齢

第三章 夢のなかの感情の検討

夢のなかに現れた情動や感情は、夢主のパーソナリティや夢を見た時期における夢主の心理状態を理解する重要な手がかりになる。また、女性が母親になっていく心理的プロセスを理解するさいにも重要な手がかりに成り得る（名島・山根，2008）。したがって、ここでは夢のなかに現れた感情を分析しながら、5人のパーソナリティや妊娠期各時期における心理状態について分析する。

先行研究では夢のなかの感情を5個、6個、あるいは7個のカテゴリーに分類していた。しかしながら、調査協力者5人の夢を収集するなかで筆者はこれまでの分類では少なすぎると考えた。名島（2008）は、自身が収集した701個の夢資料に記述された感情表現を分析し、16個のカテゴリー分けをしている。したがって、ここでは、名島（2008）による感情の分類をもとに5人の感情を分類し、考察する。表5は名島（2008）による感情の分類をまとめたものである。

表5 夢のなかの顕在感情の分類（名島，2008）

感情のカテゴリー名	具 体 的 な 感 情 語
①幸福感 (happiness)	幸せな (happy). すばらしい (wonderful). 心が満ち足りた (gratified).
②興奮 (excitement)	興奮した (excited). わくわくした (exhilarated, jazzed). 感動的な (moving).
③楽しさ (pleasure)・喜び (joy)	楽しい (pleasant). うれしい (glad). 気持ちいい (good). さわやかで生き生きとした・爽快な (refreshed).
④親愛感 (affection)	心温まる (heartwarming). 親しみのこもった (friendly). なじみ深い・なつかしい (familiar). いとしい (beloved).
⑤安心感 (security)・落ち着き (calmness)	ほっとした・安堵した (relieved). 落ち着いた (calm). 安心な (secure). 安らかな (easy). くつろいだ (relaxed).
⑥驚き (surprise)	驚いた (surprised). 仰天した・愕然とした (amazed, astonished).
⑦ 困 惑 (embarrassment)・混乱 (confusion)	まごついた (perplexed). 困惑した・とまどった (puzzled). うろたえた (perplexed). あわてふためいた (panicky). 混乱した (upset). 途方に暮れた (lost). 思い通りにならずにもどかしい (frustrated). ばつの悪い・当惑する (embarrassed).
⑧不安 (anxiety)・心配 (worry)	不安な (anxious). 心配な (worried). 気になる (concerned). 落ち着かない (uneasy). 居心地が悪い (uncomfortable). 心細い (helpless).
⑨悲しみ (sadness)	悲しい (sad). 落胆した (disappointed). うつうつとした・しよげた (depressed). 独りぼっちでさみしい (lonely). 苦しくてつらい (distressed). みじめでわびしい (miserable). 悲しみにうちひしがれた (heartbroken). 絶望した (hopeless).
⑩怒り (anger)	怒った (angry). 怒り狂った (furious). 腹が立つ (enraged). 頭にくる (mad). むかつく・しゃくにさわる (irritated). 敵意に満ちた (hostile, belligerent). くやしい (mortified).
⑪恐怖 (fear)	恐ろしい (fearful). ぞっとする (horrified). 身の毛がよだつほど恐い (horrible, dreadful). おびえた (scared).
⑫不快 (discomfort)・嫌悪 (aversion)	不愉快な (unpleasant). 嫌な (bad). 吐き気がするほどむかつく (nauseating). うす気味悪い (uncanny). 気持ち悪い・吐き気がする (sick). 苦々しい (disgusting).
⑬焦り (impatience)・緊張 (strain)	焦った・はがゆい (impatient). せき立てられた (pressed). 張りつめた (strained). 緊張した (tense). 神経質で気がいらいらした・はらはらした (nervous).
⑭罪悪感 (guilt)	すまない (sorry). 申し訳ない (apologetic). うしろめたい (guilty). くやむ (regretful).
⑮嫉妬 (jealousy)・羨望 (envy)	嫉妬している (jealous). うらやむ (envious).
⑯劣等感 (inferiority)・恥 (shame)	劣った (inferior). 恥ずかしい・情けない (ashamed). 侮辱された (affronted).

第1節 初産婦 A

A は調査開始時点ですでに妊娠 6 か月であった。夢内容は、「育てたトマトを姉に全部調理される夢」(D1) で、夢のなかの感情は「楽しさ・喜び→悲しみ」であった (D は Dream の頭文字)。A が妊娠 7 か月のときに見た夢は「火事を見に屋上に上がって、それから塾にいる夢」で、夢のなかの感情は塾で居心地が悪いという「不快・嫌悪」(D2) と、妊娠中に火事を見てしまって赤ちゃんにあざができるのではないかという「不安・心配」であった。妊娠 8 か月に見た夢は「ふぐ汁を食べなかったことに満足する夢」(D3) で、夢のなかの感情については、胎児のためにふぐ汁を食べない自分に満足するという「満足感(幸福感)」が現われた。したがって、妊娠中期には、「楽しさ・喜び」「悲しみ」「不快・嫌悪」「不安・心配」「幸福感」がそれぞれ 1 個であった。

A の場合夢の数が 3 個と少なく、量的な分析はできない。D1 の夢の感情について尋ねると、赤ちゃんを映すためのビデオカメラを両親に援助してもらったつもりだったが、帰省した姉が両親にいろいろなものを買ってもらっているのを見て言い出せずに悲しかったと答えた。D1 に現れた感情は、現実生活で起きた A にとって悲しかった出来事と、姉に対する A の複雑な感情を表していると言える。次に、D2 では、「不快・嫌悪」については、妊娠して採用試験が受けられないなかで若い男性たちが採用試験に受かっていくことに対する不快感 (A は「居心地の悪さ」と表現) と関連があった。つまり、D2 には妊娠によって変化してしまった A の社会的状況と、それに対する A の不快感が現れていた。次に、D3 の夢を見て A は、母親になったことで満足感の内容が変化したことを確認した。夢と面接中の A の言葉から、妊娠後期に入り胎動を通して赤ちゃんの存在を実感できるようになったことで、A の母性的意識がかなり形成されつつあることが夢から読みとれる。ただし、夢から目覚めたあとの感情としては、「夢のなかでは母親の自己犠牲的な喜びに満足してただけど、起きたらそれだけでいいのかって思った。どこまでも子ども中心でいる自分を諫める夢のような気がする」と述べている。つまり、母親としての自分に過適応することに対して諫める夢であると A は解釈している。A の自己犠牲的な喜びは、Deutsch (1944) が指摘している母性のマゾヒズム的要素と関連があるだろう。また、その自己犠牲的な自分に対する批判的な A の分析は、女性の生き方や生きがいと母性と大きく関連があるという大日向 (1988) の指摘を裏付けるものと言える。

第2節 初産婦 B

B の夢は、妊娠初期で 39 個 (D1~D39)、妊娠中期で 27 個 (D40~D66)、妊娠後期で 32 個 (D67~D98)、合計 98 個と非常に多い。表 6 に妊娠各期と妊娠期全体における感情の割合を示した。

母性的感情である「親愛感」は妊娠初期に最も多く出現し、いったん中期に減少し、後期に再び増加している。妊娠中期に B が修士論文作成や実習で忙しく胎児に対する意識が低かったためと思われるが慎重な吟味が必要である。「驚き」は妊娠期全体で最もよく出現している。また、妊娠経過が進むにつれて増加している。「胎動が始まりお腹が焼き餅のようにふくれる夢」(D84) の感想に「最近胎動が激しくて、お腹のなかに人間がいるのがわ

かる。あまりに激しいので戸惑うことも多い」と書かれているが、妊娠中期からの胎動とお腹の膨らみと「驚き」の感情は関係していると思われる。妊娠期全体を見ると、「驚き」に次いで「不安・心配」が多く出現しており、妊娠経過が進むにつれて増加している。夢記録でも出産や育児に対する不安についての記述が増えていることから、出産や育児に対する B の不安が増加していたことの現われであると言える。それから、「恐怖」は妊娠初期にもっとも出現し、妊娠中期で減少している。このことは、B の夢記録から考えると、流産や障害に対する恐怖が減少したことと関係があるかもしれない。また、妊娠後期に増加したのは、出産に対する B の恐怖が増加したことと結びついているかもしれない。

表 6 B の夢に現れた感情の割合

	妊娠初期	妊娠中期	妊娠後期	妊娠期全体
幸福感	6(7.1)	5(6.0)	6(5.7)	17(6.2)
興奮	3(3.5)	3(3.6)	4(3.8)	10(3.6)
楽しさ・喜び	13(15.3)	9(10.7)	10(9.5)	32(11.7)
親愛感	5(5.9)	1(1.2)	4(3.8)	10(3.6)
安心感・落ち着き	6(7.1)	5(6.0)	12(11.4)	23(8.4)
驚き	6(7.1)	12(14.3)	18(17.1)	36(13.1)
困惑・混乱	3(3.5)	7(8.3)	4(3.8)	14(5.1)
不安・心配	9(10.6)	11(13.1)	15(14.3)	35(12.8)
悲しみ	7(8.2)	7(8.3)	10(9.5)	24(8.8)
怒り	3(3.5)	0(0.0)	6(5.7)	9(3.3)
恐怖	9(10.6)	2(2.4)	5(4.8)	16(5.8)
不快・嫌悪	4(4.7)	6(7.1)	2(1.9)	12(4.4)
焦り・緊張	11(12.9)	13(15.5)	6(5.7)	30(10.9)
罪悪感	0(0.0)	2(2.4)	2(1.9)	4(1.5)
嫉妬・羨望	0(0.0)	1(1.2)	0(0.0)	1(0.4)
劣等感・恥	0(0.0)	0(0.0)	1(1.0)	1(0.4)
合計	85	84	105	274

() 内は%

「焦り・緊張」は妊娠の初期・中期で高い割合で出現している。B が妊娠初期と中期にはつわりや体調不良で思うように研究が進まなかったことと関係があるだろう。また、妊娠後期に減少しているが、それは、妊娠後期に入って修士論文が一段落し、B が出産や育児について考える時間が多くなったためであると思われる。

B の場合、「楽しさ・喜び」「驚き」「不安・心配」の割合が大きく、的場 (1998) の研究結果と類似したものであった。ただし、B の場合、「焦り・緊張」も出現回数が多い。これは、B の社会的自分と母親になろうとしている自分との間の葛藤が大きいことを示しており、また修士論文提出や就職をひかえていたという B の社会的状況と大きく関係していると思われる。

第3節 初産婦 C

Cの夢は、妊娠初期で13個(D1~D13)、妊娠中期で13個(D14~D26)、妊娠後期で5個(D27~D31)、合計31個である。初産婦Cに関しても感情の分類を表7にまとめた。

Cの夢に現れた感情を見ると、「楽しさ・喜び」と「安心感・落ち着き」が妊娠期全体を通して多く出現している。妊娠初期からCの夢には母親として子どもとうまく関わっているCの姿が現われていることから(D3、D6、D10)、妊娠以前から育児に対する不安が少なかったと推測できる。それは、Cの妹がすでに兄妹を産んでおり、出産・育児について

表7 Cの夢に現れた感情の割合

	妊娠初期	妊娠中期	妊娠後期	妊娠期全体
幸福感	1(3.6)	1(5.2)	0(0.0)	2(3.7)
興奮	0(0.0)	2(10.5)	0(0.0)	2(3.7)
楽しさ・喜び	4(14.3)	3(15.9)	2(28.9)	9(16.7)
親愛感	2(7.1)	1(5.2)	0(0.0)	3(5.6)
安心感・落ち着き	3(10.7)	3(15.9)	1(14.3)	7(13.0)
驚き	2(7.1)	2(10.5)	1(14.3)	5(9.3)
困惑・混乱	2(7.1)	1(5.2)	0(0.0)	3(5.6)
不安・心配	5(17.9)	2(10.5)	1(14.3)	8(14.8)
悲しみ	2(7.1)	0(0.0)	0(0.0)	2(3.7)
怒り	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
恐怖	2(7.1)	2(10.5)	0(0.0)	4(7.4)
不快・嫌悪	1(3.6)	1(5.2)	1(14.3)	3(5.6)
焦り・緊張	2(7.1)	1(5.2)	1(14.3)	4(7.4)
罪悪感	1(3.6)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.9)
嫉妬・羨望	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
劣等感・恥	1(3.6)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.9)
合計	28	19	7	54

()内は%

の知識と経験があったことと関係があるだろう。また、「焦り・緊張」が少ない背景として、妊娠判明時に専業主婦であったので、AやBのように妊娠を機に社会的立場が変わったり、職業に関する葛藤を抱えたりすることが少なかったこととも関係しているかもしれない。また、元来物事を楽観的にとらえる傾向の強いCの性格も関係しているであろう。

第4節 初産婦 D

Dの夢は妊娠初期で2個(D1~D2)、妊娠中期で13個(D3~D15)、妊娠後期で6個(D16~D21)、合計21個である。Dの場合、妊娠4か月から調査を開始したので妊娠初期の夢数が極端に少ない。したがって、妊娠初期、中期、後期、および妊娠期全体を通し

て感情の推移を分析することは困難である。しかしながら、妊娠期全期にわたって夢が収集できたので、Dの夢に現れた感情についても表を用いる（表8）。

Dの特徴としては、妊娠中期以降、「焦り・緊張」と「楽しさ・喜び」の割合が比較的高いことが挙げられる。「楽しさ・喜び」は全期にわたって多く出現していることは、Dが妊娠を希望していたことや、Dの記録によると夫や実家のサポートが多かったことと関係があるかもしれない。このような心理的背景はCの場合と共通している。しかし、妊娠期全体を通して「焦り・緊張」の出現が最も多かった。このことは、Dが現実生活でカル

表8 Dの妊娠期の夢に現れた感情の割合

	妊娠初期	妊娠中期	妊娠後期	妊娠期全体
幸福感	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
興奮	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
楽しさ・喜び	1(25.0)	3(14.2)	2(25.0)	6(18.1)
親愛感	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
安心感・落ち着き	0(0.0)	2(9.5)	1(12.5)	3(9.0)
驚き	0(0.0)	1(4.8)	0(0.0)	1(3.0)
困惑・混乱	0(0.0)	0(0.0)	1(12.5)	1(3.0)
不安・心配	0(0.0)	3(14.2)	0(0.0)	3(9.0)
悲しみ	0(0.0)	0(0.0)	1(12.5)	1(3.0)
怒り	0(0.0)	0(0.0)	1(12.5)	1(3.0)
恐怖	0(0.0)	1(4.8)	0(0.0)	1(3.0)
不快・嫌悪	2(50.0)	2(9.5)	1(12.5)	5(15.1)
焦り・緊張	0(0.0)	6(28.6)	1(12.5)	7(21.2)
罪悪感	0(0.0)	1(4.8)	0(0.0)	1(3.0)
嫉妬・羨望	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
劣等感・恥	1(25.0)	2(9.5)	0(0.0)	3(9.0)
合計	4	21	8	33

()内は%

チャーセンターの展覧会に出す絵を出産前に仕上げねばならなかったことと関係があるかもしれない。また、「劣等感・恥」や「罪悪感」など他の初産婦にはほとんど現れなかった感情が出現している。これは、物忘れが多いことや「人の先頭に立ちたくない」というDの性格特性と関係があるかもしれない。

第5節 初産婦E

Eの場合、妊娠中期（5か月）から調査を始めたので、妊娠初期の夢記録がまったくない。Eの夢の数は、妊娠中期で9個（D1～D9）、妊娠後期で3個（D10～D12）、合計12

個である。

妊娠中期には、「焦り・緊張」が3個(30.0%)、「楽しさ・喜び」「怒り」がそれぞれ2個(20.0%)、「安心感・落ち着き」「不安・心配」「怒り」「不快・嫌悪」「劣等感・恥」がそれぞれ1個(10.0%)であった。妊娠後期では、「焦り・緊張」が2個(50.0%)、「不安・心配」と「恐怖」が1個(25.0%)であった。妊娠期全体では、「焦り・緊張」が5個(36.3%)と一番多く、次いで「楽しさ・喜び」と「不安・心配」、が2個(14.2%)、「安心感・落ち着き」「不安・心配」「怒り」「恐怖」「劣等感・恥」がそれぞれ1個(7.1%)であった。

Eの夢に現れた感情を見ると、「焦り・緊張」が最も多かった。「学校に遅刻しそうな夢」(D2)や「患者の点滴や尿の管が取れてしまって急いでやらなくてはならない夢」(D5)など仕事に関係するものが多い。Eの記録には、出産時期が4月で夫と共同経営している英会話教室の運営が非常に忙しい時期と重なっており、新しい年度に向けた準備で忙しかったと記述されている。妊娠で思うように動けないなかで出産と新年度(英会話クラス)のはじまりというタイムリミットが刻々と迫っているという妊婦独特の心理的葛藤が表れていると言える。

EのD8は、英語教室の生徒の身長を穏やかな気持ちで楽しく測っている夢である。親愛感には分類していないが、全体感想質問で、「お腹がかなり大きくなってきたので、その成長を楽しみにする気持ちと夢の中で子どもの身長を測っていたのには何か関係があるのかもしれない」と書いている。したがって、「愛おしい」といった感情は明記されていないが、D8でEが感じていた感情は母性的感情とみなされるだろう。つまり、D8は日頃関わることの多い英語教室の生徒との関わりを通してEの母性的感情を発達させたと考えられる。

第6節 わが子に対する感情

妊娠期の夢で非常に興味深いことは、まだ見ぬわが子が夢に現れることである(乳幼児の姿が多い)。自分の子どもがまったく登場していないE以外の4人の夢(合計153個)のうち、自分の子どもが登場した(胎児・胎動も含む)夢は合計25個(16.3%)で、出現した感情は合計46個であった。

子どもが登場する夢においては、「楽しさ・喜び」(7個, 15.2%)、「幸福感」(5個, 10.9%)、「安心感・落ち着き」(6個, 13.0%)がよく現れた。例えば、Aでは「赤ちゃんのためにふぐ汁を食べなかった自分に満足する夢」(D3: 幸福感)、Bでは「酪農家で甘いピザを食べたら胎動を感じる夢」(D49: 嬉しい・楽しい→幸福感→驚き、楽しさ・喜び)や「託児所で男の子の赤ちゃんに授乳したらよく吸ってくれた夢」(D96: 幸福感、親愛感)など、Cでは「2歳くらいの女の子と弓道場に行って練習する夢」(D3: 楽しさ・喜び)、「男の子が甥や姪と遊んでいて安心する夢」(D10: 安心感・落ち着き)、「自分も友人も無事出産して嬉しい夢」(D12: 楽しさ・喜び)があった。「楽しさ・喜び」といった感情には、①母親としての自分を受け入れつつあること、②胎動の喜び、③育児生活についての肯定的イメージが関係していると言える。

筆者は「親愛感」が母性において非常に重要な要素であると考えているが、「親愛感」(4

個, 8.7%) が現われた夢は、B の「大雪のなか中学生の息子が自力で帰ってきて愛しく思う夢」(D15: 3 か月。親愛感) や同じく B の「出産したら子ども (5、6 歳の男の子) が水頭症でショックを受けるがぎゅっと抱きしめる夢」(D92: 10 か月。驚き→親愛感) があった。2 つの夢に共通していることは、希望した性別でない場合や障害を持っているなど、B にとって望ましくない状況であったことである。D92 の記録に、「赤ちゃんが男であろうと女であろうと、障害かあろうとなかろうと自分の子どもとして受け入れる心の準備ができつつあるのかもしれない」と B が記述している。つまり、「親愛感」が現れた夢には「性別や障害の有無に関係なく子どもを受け入れたい」という母性的意識を促す機能があると言える。

夢のなかには「不安・心配」(6 個, 13.0%) や「焦り・緊張」(6 個, 13.0%) もよく現れていた。例えば、A の「妊娠中火事を見て不安に思う夢」(D2: 不安・心配)、B の「裸の赤ちゃんを抱いていたら下痢をして病院に行こうとする夢」(D60: 7 か月。驚き→不安・心配→困惑・混乱)、「赤ちゃんに授乳しようとするが飲んでくれず、熱もあって心配する夢」(D69: 8 か月。驚き→心配・不安→焦り・緊張→困惑・混乱)、C の「女の赤ちゃんのおむつを確認し、授乳する夢」(D4: 2 か月。困惑・混乱、不安・心配)、D の「夫とレストランに食事に行き、3 歳くらいの男の子に大人用の食事を食べないように説得する夢」(D19: 9 か月。焦り・緊張) など。「不安・心配」といった感情には、授乳や病気など育児に対する不安や、赤ちゃんを守らなくてはならないという母性的意識の発達が関係していると思われる。また、的場 (1998) が指摘しているように、出産や育児という、来るべき事態に備えるという側面も有しているだろう。

第7節 まとめ

5 人の夢には「楽しさ・喜び」「不安・心配」「焦り・緊張」が多く見られたが、これは、武内 (1984)、的場 (1998)、原田 (2006) の結果と類似している。「楽しさ・喜び」の割合が高かった理由としては、5 人とも①妊娠を希望していたこと、②胎児の発育が順調だったこと、③妊娠経過が順調だったこと、④夫婦関係が良好で身体的、心理的サポートが得られていたことと関係があるだろう。また、そのように恵まれた状況下だったので妊娠生活に適応しやすかったためと思われる。一方で、「焦り・緊張」は B、D、E の夢のなかで高い割合で出現している。これは、3 者ともに出産までに終えなくてはならない課題や仕事があり、妊娠による生活の制限や社会生活に対する焦りが大きかったためと思われる。「親愛感」は B と C で現われた。B が子どもと関わるが多かったことや、C が妊娠前から甥や姪の面倒をよくみていたことと関係があるように思われる。しかし、E も職業上子どもと関わる機会が多かったが「親愛感」は出現しなかったため、さらなる調査・分析が必要である。

第四章 妊娠期の夢に現れた動物の検討

新道（1990）は、母性の発達を促進させる要因の一つに、乳幼児期におけるか弱いものに対する思いやりの形成を挙げている。その思いやりの形成には、自分より幼いものや小動物を慈しみ、世話をする経験が必要であると指摘している。新道が指摘する「思いやりの形成」とは、本研究でいう母性的感情に含まれるだろう。確かに、5人の夢のなかにも動物が現れた夢がいくつかあった。筆者は山根・名島（2009）で、初産婦 A、B、C、D（妊娠8か月に見た D15 までが検討対象であった）の夢に現れた動物の意味について吟味した。ここでは、改めて D の D16 以降の夢と E の夢を含めて夢に現れた動物を吟味し、母性的感情や他の母性的要素との関連があるかどうかについて、また妊娠期特有の心理がどのように表れているのかについて考察する。

ただし、本章では夢主と夢に現れた動物の関係性や夢主の連想に注目して、実際には夢のなかで登場しておらず夢主のイメージとしてだけ登場している動物についても検討対象としたい。なぜなら、実際に登場せずとも夢主のなかで確かにその動物は存在していたわけであり、その動物が夢内容の主要な要素の場合、検討対象から除外することは初産婦の無意識的側面をとりこぼしてしまう恐れがあるからである。

第1節 妊娠初期

妊娠初期に現れた動物は、B の夢のなかでは、①「私を狙っている大きくて黒いスズメバチ」（D3：2か月。その姿はまったく見えないがイメージで分かる）、②「黄色いインコの子に襲いかかろうとする黒っぽい猫」（D29：4か月。従姉の女の赤ちゃんがインコの子どもに変わっていた）、③「私と夫に甘えてくる小さなトラ猫」（D39：4か月）、また、初産婦 C の夢には、④「知人から飼うように頼まれた目がくりくりしたグレーのウサギ」（D1：2か月。山根・名島（2009）では妊娠1か月と記載されているが、妊娠2か月の誤りである。ここで訂正し、陳謝する。）が登場した。

初産婦 B は、①の夢のなかでいつ襲ってくるのかわからない大きくて黒いスズメバチに対して不安と恐怖を感じていた。スズメバチの連想については、「怖い。いつ襲ってくるのかわからない。襲われたら、自分ではどうすることもできない」であった。また、夢全体に関する感想のなかで、「夢のなかで感じた不安は、流産するんじゃないかという不安の現れだろうと思う。流産し始めたら、自分ではどうすることもできないから、すごく不安」と書いている。つまり、大きくて黒いスズメバチはいつはじまるかわからない流産に対する B の不安や恐怖を現わしていると言える。

次に、②の夢内容は、仲の良い従姉が産んだ赤ちゃん（女兒）が黄色いインコの子どもになってしまい、そのインコに黒っぽい猫が襲いかかろうとしていて B が必死になって猫を追い払うというものであった。インコから思い浮かぶことは、「インコは可愛いと思うけれどあまり好きじゃない。実家で飼っている。黄色は幸せとか希望の色。黄色いインコの子どもはささやかな幸せ？胎児の象徴？」で、「黒い猫が襲う」という連想では、「突然の不幸。忍び寄る悪意。黒は不幸とか死とか悪意」であった。全体感想では、「従姉の赤ちゃんがインコの子どもになったけれど、あれは私の赤ちゃんかもしれない。検診が4週間に

1 回になって超音波で赤ちゃんを長く見ていないし、つわりも終わったし、特に異常もないので、本当に赤ちゃんがいるのかなと思うことがある」というものであった。②の黄色いインコは従姉の赤ちゃんが変化したものであるが、インコに関する連想で B が「胎児の象徴？」と書いていることと、B が現実生活で「本当に赤ちゃんがいるのかな？」と子どもがいることになかなか実感が持てないでいたことを考えると、おそらく黄色いインコ(従姉の赤ちゃん)は、B の胎児の象徴で、従姉の赤ちゃんであったことは胎児に対する B の心理的距離を現わしていると考えられる。また、「不幸とか死とか悪意」を現わす黒猫からインコを守ろうとした B の行動を考えると、わが子を守りたいという母性的意識が B に育ちつつあったことがうかがえる。

③の夢のなかでトラ猫は、風通しのために開けておいたアパートの玄関の隙間から入ってきて、夢主やその夫に甘える。大変可愛らしくて、夢主と夫はトラ猫をお風呂に入れて体を洗ってやり、そのあと夢主がトラ猫をタオルで拭いてやると、体が乾いたトラ猫はまた夢主に甘えてくる。このトラ猫についての B の連想は、「夢のなかで夫と 2 人で子猫をお風呂に入れていたので、赤ちゃんの象徴かもしれない」というものであった。また、「夢のなかで子猫が可愛くてしかたなかった。でも、飼うとなると面倒なことも増えるな、と思っていた。子どもは可愛くて仕方ないけれど、いざ生まれたら面倒なことも多いだろうな、ということと似ている」と書いている。B の記述を見ると、夢のなかで夢主に甘える小さなトラ猫は、夢主のお腹のなかにいる胎児と結びついていると言える。また、トラ猫は夢主にとって慈しみの対象であることと、夫と共同して世話しなくてはならない対象であることから胎児の象徴であることは明らかであろう。また、赤ちゃんを沐浴させるという出産後の母性的行動を練習させる夢であったと思われる。

④の夢のなかで C は、知人からグレーで目がくりくりした、かわいらしいウサギを飼うように頼まれ、不安ながらも承諾する。ウサギから連想することは、「かわいい。小さい。ペットのウサギは自力では生きていけない」で、グレーに関しては、「最初は、性別が分からない、ということかと思った。妊娠したことはとても嬉しかったが、ほぼ 3 年間夫婦だけで暮らしていたので生活が変わることに戸惑いもあったし、子育てに対する不安も大きかったので、そういう気持ちを反映したのかなとも思う」と書いている。ウサギの色は、胎児が男か女かわからない不明瞭さと、育児に対する C の不安を現わしたものであると言える。C はウサギに対する連想のなかでウサギが胎児であると明言していない。しかし、「かわいい。小さい。自力では生きていけない」という連想を見ると、赤ちゃんとのウサギとが関連があるように思われる。

第 2 節 妊娠中期

妊娠中期に B が見た夢のなかに現れた動物は、①「病気にかかっているような白い猫」(妊娠 D52: 6 か月)と、②「2 匹の黒蛇と青と赤のまだら模様のある 3 匹の白蛇」(D56: 6 か月)であった。C は妊娠中期には動物が登場しなかった。D については、③「幼稚園に失くした書類を捜しに入ろうとすると、園児がウサギになっていた夢」(D5: 妊娠 5 か月)と、④「黒いエイリアンに追いかける夢」(妊娠 D6: 5 か月。ビニールハウスにいたおじさんが途中で黒い物体のエイリアンになった)というものがあるが、エイリアン

は黒い物体ということでそれ以上わからなかった。非常に漠然としているのでここでは対象から除外する。E では、「海に入っていると魚が水面近くをジャンプしながら泳いでいる夢」(D6：妊娠5か月)があった。

B が見た①の夢は、白い猫が病気になってしまい、外出先からかかりつけの動物病院に必死で行こうとするが場所が思い出せないというものであった。白い猫は実際に飼っていた猫で数年前に何者かによって毒殺された。B にとって猫の世話をすることは飼い主としての責任が生じるものの、同時に楽しいものであったようである。また、このころ B はつわりと夏の暑さで体力が落ちてしまっていたようである。夢記録には、「病院にはこの日の午前中に行った。前日、前歯のはぐきがじんと痛み出して、夜には腫れてしまった。これは病院に行かないといけないと思った。それで、こういう夢を見た可能性が高いかもしれない」「今まで元気だった白い歯の調子が悪くなっているよ。病院に行きなさいね」という夢のメッセージかもしれない」と書かれている。このことから、病院で適切な治療を受けなくてはならない白い猫と、歯科治療を要する夢主とが重なっていると思われる。

②の夢では、まず黒蛇2匹がBの布団のそばを這って押入れのなかに入り、次いで赤と青のまだらの白蛇3匹がBのお腹の上を這って押入れのなかに入るという奇妙な夢であった。白蛇についてB自身の連想は、「赤ちゃんの性別がわからないので、青と赤のうろこがあったのだと思う。お腹を這って行ったのは胎動を表わしているように思う。「うわ～」とびっくりしたのが、胎動があるときと似ている」というものであった。Bにとって黒い色は死や悪といったイメージらしいが、2匹の黒蛇に関しては肉体的な夫婦の関係という連想であった。Bが蛇がお腹の上を這う驚きと胎動の驚きを結びつけていることから、白蛇は胎児と結びついている。おそらくBにとって、胎児がお腹のなかでぐるぐるとうごめく感覚と、とぐろを巻いたり、くねくねと移動したりする蛇の動きとは共通したのがあると思われる。

③に登場したウサギに関する連想では、「人間と意思疎通できない感じ」と回答している。幼稚園にいる小さくて人間とは意思疎通ができないようなものとは、筆者からすると子どもを思い浮かべるが、D本人はそれ以上の連想は進まず、子どもとの関連性はないものと結論付ける。

Eの④の夢には40cmから50cmの魚が登場しているが、全体感想質問に対して「変な夢だなと思った。以前、おすし屋さんで大きなマグロを目の前でさばいているのを見たことを思い出した」とだけ書いており、「魚」に対する連想では、「生命」であった。それ以上のことはわからなかった。

第3節 妊娠後期

Aの夢には、①「海のなかに浮かんでいたが漁師たちにふぐ汁にされたふぐ」(D3：8か月)が登場した。次に、Bは②「体育館のなかにいる牛や馬や象などのたくさんの動物」(D67：8か月)、③「つながれた黒い熊とそのまわりで吠える茶色の日本犬」(D83：9か月)、④「実家の前の道路に山積みされた生魚と湯がいた蟹」(D83：9か月)、および⑤

「Bに向かってくるティラノザウルスと小型で獰猛な恐竜」(D86:9 か月)が報告された。D では、⑥「川に潜ってみると、熱帯魚がたくさんいた夢」(D16: 妊娠 8 か月)、⑦海沿いの道を夫とドライブしていたら、突然イルカが 2、3 匹ジャンプして車の方に近寄ってきた夢」(D21: 妊娠 10 か月)であった。C と E に関しては動物が現れた夢はなかった。

①の夢のなかで A は、海のなかに浮かぶ 1 メートルくらいのとらふぐを見つける。そのとらふぐは漁師たちによってふぐ汁にされたが A は妊娠していることを思い出して食べなかったという内容であった。①に登場したとらふぐは胎児の象徴ではなく、妊娠によって生活が変わる女性と生活が変わらない男性という A の男女観と関連がある(山根, 2006)。

次に、②の夢のなかで B は大勢の人だけでなく牛、馬、象などたくさんの動物がいる体育館にいた。あたりはざわざわとしていたが、楽しげな様子だった。ある男性が「ノアの箱舟を知っているか？」と大声で叫んで、B はノアの方舟の物語を思い出そうとしたところで夢は終わる。夢に登場した動物に対する連想は、「牛は乳製品とか大きいとか、気性がやさしいというイメージ。人間の生活には欠かせない存在。馬はかっこいい、機敏、運搬に必要な動物。象は大きい、優しい、頭がよい、荷物の運搬に必要。どの動物も人間とのかかわりが深い動物だと思う」であった。また、ノアの方舟に関しては、「旧約聖書。大洪水。生き残り。大洪水から思い浮かぶことは、羊水とか破水とか」と書かれていて、「この夢を見た日、8 か月に入った。まだ大丈夫だろうと思っているけれど、破水したらと思うととても不安になる。尿と区別がつかない場合もあるらしいから、いざ破水してすぐに病院に行けるかどうか不安なのかもしれない」と書かれていた。牛、馬、象といった動物が妊娠期特有の事柄と結びついているかどうかはわからない。以上のことから、破水に対する B の不安がノアの箱舟の状況と類似した体育館に現れたと言える。

③の夢(夢内容:甥や姪と遊びに行ったらすり鉢状の遊び場にクマがつながれていて茶色の日本犬が吠えている)に現れた犬や熊に関して B は、「(熊は)エネルギーのある動物。同時に熊に遭遇したらすごく怖いだろうなと思う。(日本犬は)凛々しい。小さいけれど頭のよい感じがする」であった。それ以上の考察はないので、③に登場した犬や熊は妊娠に関係したものではないと思われる。

④の夢に登場した魚のあらや湯がいた蟹は実家の向かいに住む漁師が実家の前の道路に山積みにしたものである。魚のあらや蟹に関して、「蟹やら魚は好きだけど、今はあまり食べられないもの。漁師さんの家にお邪魔すると強い魚のにおいがしていた。蟹はスーパーで、いわゆるガザメ(著者注:地元のかにの呼び名)を見たので地元を思い出したのだろうと思う。それと、妊娠して分泌物が増えたり代謝がよくなったせいか、自分の体臭が増している気がする。人に会うときに気になるので、こういう夢を見たのかもしれない」と書かれている。つまり、漁師をしている向かいの家の臭いと妊娠後期になって気になりだした B の体臭が結びついている。つまり、魚のあらや湯がいた蟹は、自分の体臭に対する B の懸念を現わしている。

⑤で登場したティラノザウルスは大学に現れ B も含めて大学中をパニックに陥れる。B が学食にたどり着き、安堵して食事をしはじめたら獰猛な小型の恐竜が現われ B は民家に逃げ込んだ。恐竜に関する B の連想は、「獰猛。情け容赦ない。肉食。恐怖。自分ではどうすることもできない巨大な力。陣痛のこと？」であった。夢全体の意味については、「ただ、恐竜に追いかけて怖かったという場面には、陣痛が来たらどうしようとか痛い

は嫌だな、怖いなどという気持ちが表れていると思う。隠れたいけれど隠れても無駄だろうというところも、ここまで来たら陣痛から逃げられないという気持ちと共通している」と書いている。恐竜の突然の登場によってパニックとなる B や周囲の人々には、出産に対する B の不安や恐怖がよく現われている。「恐竜の来襲＝陣痛」という B の捉え方は、いかに初産婦にとって出産が突発的で危機的なものであるかということを見せてくれる。

⑥の夢では、鴨川に友人と川遊びに行くと、水が濁っていたが上流の方は水が澄んでいて、熱帯魚がうようよいた。D はうきうきしてさらに上流を目指そうとしたという内容であった。熱帯魚についての連想では、「観賞用の魚」であった。「濁った川」や「うきうきすること」など思い浮かぶことを尋ねたが、妊娠に関係するような連想はなかった。C は実際に妊娠中に友人と出かけた川遊びとこの夢とを関連付けている。

⑦では、D の夫が「この辺にはイルカがいる」と言ったので、D が外を見るとイルカが 2、3 匹ジャンプし、D は非常に楽しい気持ちになって、イルカと一緒に泳ぎたいと思ったという内容であった。イルカについての連想は、「人懐っこそう」であった。D はイルカが現れたこの夢を妊娠と関連付けることはなかった。「一緒にいたいもの」という連想に対しては、「夫」であった。また、イルカが車と同じスピードで泳いでついてくる姿を楽しみ気持ちで D が見ていたことを取り上げ、「今楽しみなこと」を質問すると、「夫とランチすること」であった。したがって、D21 は D と夫との関係性を現す夢であったと言える。

第4節 まとめ

妊娠初期の夢に登場した動物は、①流産に対する夢主の不安、②慈しみの対象としての胎児の象徴、および③育児に対する不安であった。妊娠中期には、①妊娠によって体力が落ちてしまった夢主の自己イメージと②胎動に対する夢主の驚きを現わしていた。それから、妊娠後期には、①夢主の男女観の象徴、②出産や陣痛に対する夢主の感情、③妊娠による身体的変化に対する夢主の感情が見られた。

Garfield (1990) と Maybruck (1990) は、動物の夢が増え、動物の種類も妊娠経過とともに変化すると述べている。例えば、妊娠初期の女性の夢には、オタマジャクシやサンショウウオなどの水生動物が現れる。また、妊娠中期には、子猫や子犬などの非常に可愛い動物が夢に現れ、妊娠後期になると、猿のような動物もしくは他の大きな動物が夢に現れる。彼らによると、妊娠の経過とともに夢に現れる動物が大きくなっているため、これらの動物の夢は胎児を象徴しているという。本論文では、夢に現れた動物の種類（夢主が妊娠と関連付けたもののみ）は、妊娠初期が①スズメバチ、②ウサギ、③トラ猫、妊娠中期が①白猫、②蛇、妊娠後期が①ふぐ、②死んだ魚、③死んだかにであった。本研究では、Garfield (1990) や Maybruck (1990) が述べているように、妊娠経過が進むにつれて動物が大きくなるという変化は見られない。比較的夢が多かった B を見ると、確かに動物自体は妊娠経過が進むにつれて大きくなっている。しかし、大きくなっているから胎児の象徴であるという Garfield (1990) や Maybruck (1990) の主張は見直しが必要であろう。なぜなら、妊娠期の夢に現れた動物は胎児を現わしているばかりでなく、その時々々の夢主の身体的・心理的・社会的様態を現わしている場合があり、より慎重な調査と分析を要するからである。例えば、動物が大きくなっているとはいえ、ティラノザウルスは胎

児の象徴ではなく陣痛に対する夢主の不安や恐怖を現わしている。

Garfield (1990) は羊水が増加するにつれて水に関する夢が増加すると述べている。確かに、海や川に関連する夢が見られており、また熱帯魚、40cm ほどの魚、イルカなど水に関する動物も登場している。しかし、本研究においては増加しているとは言えない。また、夢主が妊娠とそれらの動物と胎児とを関連付けていないので、さらなる調査・研究が必要である。

第五章 夢に現れた未来場面の検討

5人の夢には、まだ経験していないにも関わらず、夢主が出産や授乳といった具体的な母性的行動を行うものがあった。母性的行動について新道（1990）は、妊娠期を母性的行動の取得過程（著者注：原著では母親役割取得過程）の第一段階と位置づけている。新道によると、初産婦は母親としての自己像を形成し、母性的行動に関する知識を得ながら、さらに育児用品を整えたり、母親学級等で人形を使った沐浴指導を受けたりするなかで母性的行動に必要な技術を習得し、出産後に備える。本章では、5人の夢のなかに現れた、①授乳、②おむつ換え、③子どもの健康管理と安全管理、④入浴、⑤あやす、⑥しつけについて分析する。

第1節 出産

出産に関する夢は、Bでは合計4個、Cでは合計3個であった。A、D、Eについては出産に関する夢はなかった。表9は出産に関する夢を見た調査協力者・夢番号・妊娠月数・夢内容をまとめたものである。

BのD26は妊娠初期であったが、分娩台という具体的な出産の場面が現れている。ただ、胎児が生まれる瞬間は現れなかったようである。現実に出産を経験していないためであろう。Bは記録に、「3人目は2時間で生まれたという知人の話を聞いたためこのような夢を見た」と書いている。また、「夢のように2時間くらいで生まれたら楽でいいだろうなと思う」と書いていることから、D26は夢主の願望を現している夢と言える。

次に、D44は、夢のなかで前駆陣痛を経験していることが興味深い。「分娩に対する不安の現れだと思う。夢のなかでも本当にお腹が痛かった。陣痛ってどんな痛みなのかな、思う時があるのでこういう夢を見たと思う。出産の準備かもしれない」と書いている。妊娠5か月に見た夢なので、Bに実際の子宮の収縮があったとは考えにくい。おそらく、Bが書いているように、D44はこれから起こるであろう出産という危機に備える機能があったと思われる。

D44と同様にD76の記録にも、「8か月も終わって、いつ何があってもおかしくない。夢のなかでは本当に痛かった。夢のなかで出産の準備をしているように思う」と書かれていることから出産に備える機能があったと言える。しかも、D26のように、分娩台に上がっていつのまにか出産したのではなく、D76では激しい痛みのなか心配する夫とともに分娩室に呼ばれるのを待っている。夫の立会い出産を希望していたので、夫とともに分娩を待つという場面設定は現実的である。

D92の全体感想質問に対してBは、「足の付け根の痛みなど他の出産の兆候も現れている。そういうことがあったのでこういう夢を見たのだと思う。いよいよお産が近づいてきたと思う」と書いている。Bは前駆陣痛など出産の兆候が頻繁にあり、出産に対する意識が強くなっていったためこのような夢を見たと考えられる。この夢を見て、「いよいよお産が近づいてきたと思う」と書いていることから、D92は出産に対する心理的準備をさせていたと言える。また、「夢を見ると水頭症じゃないかという不安が自分で思っているより大きいかもしれない。しかし、夢のなかの男の子の頭は普通の大きさだったし、知的障害が

表9 出産に関する夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D26	4か月	分娩台上がって2時間で出産し、拍子抜けする。(詳細は既述)
	D44	5か月	いきなり陣痛らしきお腹の痛みが来たが、しばらくしたら痛みがなくなった。その後、実母と喫茶店で、前駆陣痛があったけど、本当に痛かったというような話をする。
	D76	8か月	病院らしきところで、陣痛がはじまっていてかなりお腹が痛い。赤ちゃんが下がるように廊下を歩く私の後ろを夫が心配そうについてきていた。他の妊婦が分娩室に呼ばれるが、自分はなかなか呼ばれないので焦る。
	D92	10か月	妊娠検診に行ってそのまま入院する。夫が心配そうにしていた。36週なのに助産師から産んでよいと言われる。助産師のとなり5、6歳の男の子がいた。助産師から赤ちゃんは男の子で水頭症だと告げられる。私は男の子だったのと水頭症だということを聞いてショックだったけれど、男の子が可愛くてぎゅっと抱きしめた。
C	D12	4か月	出産後病院に入院していて、両隣の部屋に友人も入院していた。それぞれ子どもが生まれた直後で、お互いの部屋に赤ちゃんを見に行ったりした。
	D20	6か月	伯母と私の二人で話していた。子どもが生まれた後で、「3045グラムだったんだね。思ってたより大きい子だったね」と伯母から言われた。
	D22	6か月	病院から予定日だから入院するように言われ、陣痛も何もなかったが入院した。入院してからも出産がはじまる様子はない。看護師から帰ってもよいと言われたので、母と妹と一緒に買い物に出かけた。

あるような感じでもなかった。それと、夢のなかの子どもが男の子だったことは、夢が男の子の場合に私がいかにあまりにがっかりしないように心理的に準備させているのかもしれないと思う」とも書かれている。Bは出産を直前にし、赤ちゃんの性別と障害の有無に関する不安が大きかったことがわかる。Bに限って言えば、そのような出産に関わる心理的危機に備える機能がD92にあったと思われる。

CのD12は中学時代からの仲の良い友人たち(そのうち一人は結婚して間がない)と温かな雰囲気の中でお互いの子どもたちについて話している夢である。具体的な出産場面もないし、赤ちゃんの性別もわかっていない。しかし、ともに無事に出産し、母親になった喜びに満ちた夢である。Cは出産の連想について、「楽しみ。うれしい。未来が開けていくような感じ。少し不安」と書いている。D12が微笑ましい内容であったことは、Cが出産に対してそれほど不安に思っていなかったことと関係があるだろう。「未来が開けていくような感じ」ということから、出産後の育児生活に対してもCが肯定的に考えているこ

とがわかる。

次に、CのD20の夢について吟味したい。夢のなかの感情では、「元気な子どもが生まれてホッとしていた」と書かれていて、全体感想では「5か月の検診の時に子宮底が小さいと言われ、周りの人にもお腹が小さいと言われたりもして、子どもも小さくなるのでは、と少し気にしているせいかも」と書いている。つまり、D20は胎児の発育に対する夢主の不安が現れていたと言える。ただ、夢のなかでは3045gと標準的な新生児の体重であるので、D20はCの不安を拡大させたのではなく、標準体重の赤ちゃんを提示することによって夢主の不安を軽減させる働きがあったと思われる。また、「元気な子どもが生まれて欲しい」というCの願望が夢に現れたと考えられる。

D12やD20と同様に、D22においても、夢主は夢のなかで恐怖や不安といった感情は抱いていなかった。D22の記録には、「予定日はまだ4か月も先なのに、なんで予定日の夢を見たんだろう？出産のための入院は一大事な気がするのだが、夢の中では、日常生活の一部みたいな感じがした。入院してくださいと言われても慌てた気分になることはなかったもので、出産に向けて心の準備ができつつある、ということなのかなと思った」と書いてある。つまり、Cは出産を非日常的な特別な経験ではなく、日常生活の一部と無意識のなかで捉えていたことがわかる。また、記録からも明らかのように、D22は出産に備える心理的準備が整ったことを夢主に教える機能があったと考えられる。実際、Cは陣痛の痛みはほとんどなく、分娩時間は2時間未満という、初産にしては珍しいほどの安産であった。分娩をスムーズに進ませる要因はいろいろとあるだろうが、Cが妊娠初期から出産に対して肯定的に捉えており、妊娠6か月という早い時点で心理的準備が整ったことが関係しているかもしれない。

このように、①初産婦のなかには妊娠初期から出産についての夢を見ることがあること、②妊娠期の夢には夢主の出産に対する不安が現れていること、③出産に関する不安夢は来たるべき出産に備えるための機能があることがわかった。ただし、Winget & Kapp (1972)は「妊娠後期に不安や恐怖の夢を見る妊婦は、予期される出産の危機に対処する試みをしているのであり、そうでない人は防衛している」と述べているが、Cの場合は出産という危機に対して防衛してはいない。出産に対するCの肯定的な感情は、防衛ではなく出産という体験を自分自身の生活の一部として捉え、同世代の他の女性と同じように母親になろうとしている自分、そして母親になった自分を喜びたいというCの母性的意識の発達を教えてくれるものであった。

第2節 母性的行動

1. 授乳

母性的行動のなかでも、特に授乳はおむつ換えとは違って、実の母親でしかできない母性的行動であり、初産婦にとっては出産してからは昼夜に関わらず3時間おきにしなければならぬ最重要の事柄である。また、出産してみないと赤ちゃんを満足させるに十分な量の母乳ができるかどうかかわからないので、初産婦にとって未知で非常に不安の多い事柄の一つでもある。授乳に関する夢を見た調査協力者と夢数は、Bで合計3個、Cで合計2個である。A、D、Eでは妊娠期に授乳する夢はなかった。表10は授乳に関する夢を見

た調査協力者・夢番号・妊娠月数・夢内容をまとめたものである。

表 10 授乳に関する夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D65	7 か月	東南アジア風の町が津波でめちゃくちゃになっている。母親が行方不明になった赤ちゃんに授乳するが、激しく泣かれてパニックになる。
	D69	8 か月	病院から帰ると白人風の赤ちゃんがいる。授乳しようとするが、熱があるようで激しく泣かれて困惑する。
	D96	10 か月	研修所らしきところにある託児所で、白い服を着た男の赤ちゃんを抱き上げる。赤ちゃんに授乳すると、よく吸ってくれたので安心する。
C	D6	3 か月	病院を退院して自宅に戻ったら、生まれたばかりの女の赤ちゃんが泣いていた。慌てて様子を見ると、オムツは濡れていないようだったので母乳をあげた。「病院で飲ませたから大丈夫だと思っただけ」と夫に話したが、赤ちゃんはお腹が空いていたようで、一生懸命飲んでいった。
	D24	7 か月	母方祖母の家において、生まれたばかりの双子の赤ちゃんに授乳していた。うまく吸えるか心配だったが、しっかり飲んでいくようだった。もう一方の乳首を吸わせようと思ったが、双子だからもう片方はもう一人に吸わせようと思っ直した。

授乳する夢は、的場（1998）が報告した夢では妊娠 9 か月のときに現れているが、B が授乳する夢を見たのは 7 か月で、C では妊娠 3 か月と 7 か月であった。個人差があるが、かなり早い時期から夢には授乳を練習させる機能があることがわかる。B の場合、赤ちゃんに授乳してもうまくいかず赤ちゃんが泣き出す夢が多い。B は D69 の全体感想質問に対して、「授乳する夢はすごくリアルだった。授乳がうまくできるかどうか、赤ちゃんが病気になる時にちゃんとわかるかどうかなど育児に対する不安がたくさんでいるなと思う」と書いている。したがって、B の授乳に対する不安は非常に大きかったようである。D96 の感想では「夢のなかで母乳をぐくぐく飲んでくれて嬉しくて幸せな気持ちだった」と書いている。D96 は早く赤ちゃんに授乳したいという B の願望が現れていると思われるが、それまで夢のなかでできなかった授乳が、D96 では成功したということを見ると練習の機能という側面が強いように思われる。また、「飲んでくれて嬉しくて幸せな気持ち」と B が書いていることから、たとえ B の願望夢であったとしても、この夢を見て胎児との親和的な関係を疑似体験し、B の母性的感情が発達していたことは確かである。

B が授乳する対象は、「東南アジア人風の他人の赤ちゃん→わが子だが白人風の顔の赤ちゃん→わが子（日本人）」と変化している。B によると、B はアメリカに留学した経験を持つことから、東南アジアよりは欧米に対して親近感があると考えられる。夢のなかでも欧米が舞台となっている夢は、合計 9 個（D9、D13、D20、D33、D35、D43、D46、D70、

D72) で、舞台は日本だが白人が登場している夢は合計 2 個 (D32、D78) である。一方で、アジアが舞台となっている夢は、合計 3 個 (D65、D82、D90) である。日本が舞台で日本人以外のアジア人が登場した夢はない。欧米とアジアに関する夢数の違いからも、Bにとってアジアよりは欧米のほうが親近感があり、それゆえ授乳する対象が夢主にとってより近い存在になっていると言える。授乳場面の変化は、夢による授乳の練習の結果、Bの授乳に対する不安が減少したことや、胎児に対するBの愛着の形成がうまくいっていることを現している。また、出産を目前にして育児に対する肯定的な場面を夢主に提示することによって、夢主の育児不安を軽減しようとする夢が機能したとも考えられる。

CはBと比較すると、妊娠初期というかなり早い段階で授乳する夢を見てい、授乳を上手に行うことができている点が異なっている。また、CはD6のなかで授乳している間の感情について「優しい気持ちになった。幸せ」と書いており、授乳に関する連想については、「母親になる。子どもを育てる」と書いている。D24の夢のなかの感情について「生まれたばかりで首が据わってなくて、抱っこするにもすごく注意していた。いっぱい飲んで元気に育って欲しいと思っていた。幸せで、とても安らかな気分だった」と書いている。どちらの夢も赤ちゃんに対する親愛感に満ちており、夢主が授乳を幸せな気持ちで行っていたことがわかる。Cは母性的感情が妊娠初期からよく発達していたことがわかる。また、Cが授乳に対して肯定的に考えており、Bと比較すると授乳に関する不安が少なかったと推測できる。加えて、D24に登場した赤ちゃんは新生児の特徴がよく現れていることや、赤ちゃんに対するCの抱き方も細心の注意を払っていて母性的行動を適切に行っていることが特徴的である。D24は非常に具体的な赤ちゃんのイメージを用いてCの母性的意識を発達させていたと考えられる。以上のことから、D6とD24は授乳を練習させるだけでなく、Cの母性的感情と母性的意識の発達を促していたと言える。また、たとえ早く授乳したいというCの願望夢であったとしても、親和的な母子関係の場面を見たことによってCの母性的感情や母性的意識がより発達したことは確かである。

BのD69とCのD6はともに出産してから退院した直後という場面設定は共通しているが、入院中の自分の母性的行動(授乳)に対する認識が異なっている。Bは夢のなかで「入院している間に授乳しなかったのかな」と不思議に思っているが、Cは夫に「病院で飲ませたから大丈夫だと思うんだけど」と話している。Bにとっては、病院で授乳したかどうか非常に漠然としているし、夢で授乳した場面が初めての授乳のような印象を受ける。一方、Cは実際に病院で授乳する場面は夢に現れなかったものの、「病院で授乳→退院→自宅で授乳開始」という一連の流れが夢主に明確に認識されていたようである。また、夢のなかでも「飲ませたから大丈夫だと思う」と自分の母性的行動に対して肯定的に評価していることがわかる。早い段階からCの母性的意識が発達していたと推測できる。このように、Cが妊娠初期から夢のなかで肯定的に、かつ確信をもって母性的行動を遂行し、また母性的行動を成功させている理由としては、Cの末の妹にはすでに2人の子どもがおり、その妹が里帰りしていた際に同居していたことが考えられる。Cは妹の入退院を間近で見しており、産後の母子の様子、また赤ちゃんの世話を手伝っていた経験があったことが関係しているだろう。

2. おむつ換え

おむつ換えは、授乳と同様に出産してから昼夜を問わず行わなくてはならない事柄の一つである。おむつ換えに関する夢を見た調査協力者と夢数は、Bで合計2個、Cで合計2個である。A、D、Eにはおむつ換えの場面は現れなかった。表11はおむつ換えに関する夢を見た調査協力者・夢番号・妊娠月数・夢内容をまとめたものである。

BのD21とD26では、赤ちゃんがおしっこをしはじめて慌ててシーツで拭いたり、おむつが濡れているので換えようとするがおむつがなくて慌てて買い物に行ったりと、夢のなかの情動は2つとも「困惑・混乱」のカテゴリーに入る。BはD21とD26の全体感想質問に対して、「おむつがきちんとかえられるか不安」と書いている。ただし、D21とD26を比較すると、おしっこされてすぐにお腹に戻すという行動から、おむつは買いそろえてなかったものの何とかおむつを換えるという行動にまで夢主が変化している。おむつ換えを行えるくらいまでには母性的行動の練習がうまく行っていたと考えられる。あるいは、おむつ換えをしている母親としての自分を提示することによってBの育児不安を軽減させる働きがあったとも考えられる。

CはD6のなかで、おむつを確認しただけ実際にはおむつを換えてはいないがきちんと排泄の有無の確認ができています。妊娠3か月でありながら、「赤ちゃんが泣く→おむつ

表 11 おむつ換えに関する夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D21	3か月	産院のようなところで、どういいうけかお腹の赤ちゃんをお腹から出してベッドに置く。赤ちゃんがおしっこをしはじめてので、慌ててベッドのシーツでおしっこをふく。6か月では生きられないと思って赤ちゃんをお腹に戻す
	D26	4か月	分娩台にあがると2時間で出産し、すぐに病院から退院する。赤ちゃんが泣くのでお尻を触ったら濡れている。慌ててデパートに行ってベビー用品を購入し、なんとかおむつを換えて着替えさせる。赤ちゃんを抱っこする。赤ちゃんが可愛くてたまらない
C	D6	3か月	病院から退院して赤ちゃんに授乳するとよく吸ってくれる。(詳細は既述)
	D17	5か月	自宅で男の子の赤ちゃんのおむつを交換した。着替えもさせようとしていたら、ふすまが開いて実父が心配そうに様子を見に来た。ふと父の足元を見るとなぜか赤ちゃんのうんちが落ちていた。気をつけてと父に注意したら、とても慌てていた。その慌てぶりがおかしくて、つい笑ってしまった。

を確認・交換する→母乳をあげる」という一連の作業を夢のなかで行っていることが特徴的である。Cの一連の母性的行動は具体性があり、非常に適切なものである。D17は亡き実父（結婚直後に他界）が登場し、実父が赤ちゃんのうんこを踏んで大慌てするというユーモラスで親愛的な夢である。D17の目覚めたときの感想について、「なんだか楽しい気

分で目が覚めた。幸せな気持ち」と書いている。夢のなかの感情としては、「父は心配していたけど、私はおむつの交換をするのが楽しかった。赤ちゃんを囲んで温かい雰囲気だった」と書いている。Cがおむつ換えに対する不安を全く感じておらず、それを楽しみにすらしていることがわかる。また、「赤ちゃんを囲んで暖かい雰囲気だった」と述べていることから、赤ちゃんを迎える心理的準備が整っていたこともうかがえる。おそらく、既述したように、Cには赤ちゃんと接触する経験が豊富だったことが関係していると思われる。

3. 子どもの健康管理と安全管理

乳児期の子どもは、いったん病気になると重症化しやすい。また、子どもの行動範囲が広がるにつれ、転落や誤飲など事故の危険性が増す。それゆえ、子どもの養育を主に行う母親が、子どもの健康管理や安全管理をしなくてはならない。子どもの健康管理や安全管理に関する夢を見た調査協力者と夢数は、Bで合計2個、Dで1個である。表12は、子どもの健康管理と安全管理に関する夢を見た調査協力者・夢番号・妊娠月数・夢内容である。A、C、Eには健康管理や安全管理に関する夢は現れなかった。

表12 子どもの健康管理と安全管理に関する夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D60	7か月	赤ちゃんを抱いて川辺の道を歩いている。赤ちゃんがぐったりしているのでびっくりする。病院に行くために自分のアパートに戻る途中で、赤ちゃんが下痢をいっぱいする。どうしようとすごく不安になりながら小走りで帰ったが、アパートが見つからなくてパニックになる。
	D71	8か月	実家の近くの堤防にいて車の助手席に乗る。だんだん波が近づいてくる。津波だ！逃げなくちゃ！と焦った。気がつくと生まれたての赤ちゃんを抱いていた。津波に巻き込まれたら大変だと思っていたけど、同時に自分たちは助かるから大丈夫とも思っていた。気がつくとき夜になっていて、実家に戻っていた。
D	D19	9か月	港の近くのレストランで主人と食事をしていて。ウェイターの人に注文をしようとする、3歳くらいの男の子が海にのりだそうとしている。危ないから離れた方がよいとその子に言うと、僕もレストランで食べたいと言う。子どもはこのレストランで食事するのは駄目で、子ども用の所へ行かなければいけないと言った。主人からも説得してもらおう。食べさせてしまうと、食中毒になると思った。食べてはいけないと何度も説得している。

BのD60に登場した赤ちゃんは脂汗が出てぐったりしているので、発熱しているか、もしくは意識がない非常に危険な状況である。赤ちゃんがぐったりしていることの夢素材連想質問に対してBは、「生命の危機。言葉が話せないから母親が状態を把握しないといけない」と書いている。また、「赤ちゃんのうんこは健康状態を表わしているから、おむつ換えをきちんとしなくちゃと思っているからだと思う」とも書いている。赤ちゃんの健康の

面から、赤ちゃんの排泄の有無を常に確認し、おむつを替えなくてはならないことに対して B が非常に不安に感じていたことがわかる。また、妊娠後期を目前に、B のなかで「赤ちゃんの状態を母親である私が把握する」という母性的意識が発達していることがわかる。全体感想質問に対して B は、「赤ちゃんがほぼ新生児並みの大きさだったから、自分のなかでは出産の心構えはできて、今は育児ができるかどうか意識が行っていると思う。それと、胎動がなかったらすぐに病院に行かないといけないので、赤ちゃんが元気かどうかいつもチェックしている。そういう不安が現れた夢だと思う」と書いている。B が赤ちゃん（胎児）の健康状態について非常に懸念していることや、病気の際にうまく対応できるかどうか非常に不安に思っていたことがわかる。B はこの夢を早産や胎児の健康状態に関連づけている。しかし、外出中に赤ちゃんの健康状態を優先させて行き先を変更し、病院に行くために自宅にいったん帰るといふ夢主の行動は母親として適切なものである。つまり、D60 は外出中に子どもの具合が悪くなった際の母性的行動を夢主に提示し、練習させる機能があったと言えるのではなかろうか。

B は D71 の伝達－警告質問に対して、「大きな危機が間近に迫っているよ、という夢の警告かも。でも、夢のなかで赤ちゃんを抱きながら自分は大丈夫と思っていたので、ちゃんと乗り越えられる危機（出産）だと思う」と書いている。D71 では身の危険と出産とが関連付けられている。B 自身はこの夢と母性的行動とを関連付けてはいないが、津波（危機）から子どもを守ろうとしている姿や、「自分たちは大丈夫だろう」と将来について安心感を持っていたことは事実である。したがって、D71 も子どもを保護するという母性的行動を練習させていて、夢主もそれが遂行可能なほどに母親としての肯定的意識、つまり母性的意識が育っていたと言えるかもしれない。

D の D19 の記録には、「なぜそのレストランは大人用なのかわからないが、子どもが食べてしまうとイケないと思ひ、必死に説明していた。途中から、自分の子どものように接していたので、もしかしたら自分の子どもと想っていたかもしれない」と書いてある。3 歳くらいの男の子は D の子どもとみなすことができるであろう。この夢では D は 2 つの事柄からわが子を保護しようとしている。まず、男の子が海に身を乗り出していたので、海に落ちないように注意している点である。3 歳くらいの男児は行動範囲が広がり、それにとまって交通事故など大事故に巻き込まれる危険性がある。事故や怪我からわが子を守らなくてはイケないという D の母性的意識が発達していたのかもしれない。

健康管理に関しては、D の記録では食中毒から下痢を連想している。つまり、誤飲して下痢をしないように刺激物からわが子を守ろうしていたようである。誤飲は実際に乳幼児の事故のなかで非常に多いものであるし、タバコなどの危険物でなくても子どもの健康を考えて幼児食を用意し、味付けの濃い大人のものではできるだけ食べさせないようにしなくてはならない。D19 は、刺激物を子どもが食べて子どもが病気にならないように管理・保護するという母性的行動を練習させる夢であったと考えられる。

4. 入浴・あやす・しつけ

子どもを入浴させたり、あやしたり、しつれたりすることも大事な母性的行動である。入浴に関する場面が現れた夢は、B と C でそれぞれ 1 個ずつ見られた。A、D、E に関しては子どもの入浴に関する夢はなかった。表 13 は、夢に現れた母性的行動・夢を見た調

査協力者・夢番号・妊娠月数・夢内容である。D23でCは親子のやり取りを淡々と見ていただけで、記録にも自分の子どもの入浴に関する記述はない。D23が入浴の練習をさせていたかどうか不明であるが、子どもの入浴に関する夢なので紹介だけしておく。

表 13 入浴、あやす、しつけに関する夢

母性的行動	調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
入浴	B	D39	4か月	玄関のドアを風通しのため開けていたら、小さいトラ猫が家のなかに入ってきた。夫と私にとっても甘えて可愛らしかったので、「この猫、飼おうか」と夫が言った。子猫をお風呂に入れて、夫と2人で洗った。
	C	D23	7か月	自宅で男の子2人がお風呂からおむつ姿で出てきて、その母親がバスタオルでふく。その様子を淡々と見ている。
あやす	B	D41	5か月	研修所らしきところにいる。仲の良い友人と夫は採用試験の対策をしなくてならない。私は隣の部屋で友人の赤ちゃん（生後11か月）を抱っこしたり、あやしたりしながら赤ちゃんのお守りをしながら2人を待っている。
しつけ	D	D19	9か月	3歳くらいの男の子が大人用の食事を食べないように何度も説得する。（詳細は既述）

Bの子猫を洗う夢は山根ら（2009）のなかで吟味した夢であるが、ここでもう一度考察したい。本来なら子猫を洗うのには夢主一人だけで十分である。しかし、夢のなかでは夫と協力して子猫を洗っており、夢主が濡れた子猫をタオルで乾かす一連の作業は育児に不慣れた両親が赤ちゃんを入浴させる姿とよく似ている。つまり、この夢は、赤ちゃんを入浴させる（ベビーバスで赤ちゃんを洗う場合には沐浴）という出産後の育児を練習させていたと考えられる。猫と赤ちゃんが結び付けられたことと、授乳などと比較してBの不安が少なかったことは、Bは猫を数匹飼っていたことがあり、猫を洗った経験があることが関係しているだろう。

赤ちゃんをあやす場面が現れた夢は、Bで1個であった。A、C、D、Eでは、赤ちゃんをあやす夢はなかった。

BのD41の記録によると、現実生活で友人が採用試験を受けるので忙しく、また夫は仕事が忙しかったと書いてある。Bが信頼する夫や友人と思うように楽しい時間を過ごせなかったようである。また、「赤ちゃんのおもりをしているので、母性的行動を練習していたようにも思う。先週日曜日に初めての胎動があったので、赤ちゃんの存在がより感じられるようになったことも夢に影響しているかもしれない」と書いている。したがって、D41は友人の赤ちゃんという身近な対象を用いて夢主に赤ちゃんのイメージ化を図り、赤ちゃんをあやすという母性的行動を練習させていたと言える。また、Bが書いているように、

D41における赤ちゃんとの親和的な関係は胎動のはじまりと関連があるだろう。

しつけに関する夢は、Dの「3歳くらいの男の子が大人用の食事を食べないように何度も説得する夢」(D19: 妊娠9か月、詳細は既述)の1個だけであった。D以外の調査協力者では見られなかった。

DのD19に登場した子どもの年齢は3歳くらいで、言葉による説得(しつけ)を行っていたことが大変興味深い。D19は、夢のなかで初産婦が幼児期における親子関係をイメージ化しようとしていることを示す貴重な夢である。また、Dが子どもを頭ごなしに叱ったり、怒ったりするのではなく、子どもが納得するまで何度も説得するという行動は、子どもに対する適切なしつけと言えよう。したがって、D19はしつけという母性的行動を練習させる機能があったと思われる。しかも、BのD60のように母親だけで対応するのではなく、夫と協力して子どもを守ろうとしている。現実生活でも夫婦の関係性は良好なので、D19にはDと夫との関係性が現れている。おそらく、子育てのなかで起こるさまざまな危機に対して夫婦で対応しようとDが考えていたと思われる。

第4節 まとめ

これまで、①授乳、②おむつ換え、③子どもの健康管理と安全管理、④その他(入浴・あやす・しつけ)という母性的行動が現れた夢を考察した。これらの夢を吟味することによって、①夢主の育児不安、②夢主の母性や母性的意識の様態と発達、③育児に対する夢主のイメージ、④夫婦関係の様態が現れていることがわかった。的場(1998)は、「母性的行動の練習の夢は、夢主の母性の発達状況を知るための貴重な資料になるものと考えられる」と述べているが、母性のみならず、夢主のさまざまな心理的側面やそれまでの子どもと関わった経験の程度などを知るための資料になると思われる。

第六章 母性を発達させる要因

新道（1990）は、妊婦が自分の現在の状況に満足していることが母性の発達に重要であると述べている。本章では、調査協力者 5 人が母親としての自己や現在置かれている状況に対してどのように受容しているのかについて吟味する。

第 1 節 妊娠の受容

1. 受胎の判明

花沢（1992）は、母親と子どもの出会いは胎内においてであり、「妊娠中における胎児への態度、出産後の新生児への養育態度は、受胎時からの母性の形成がいかになされてきたかにかかっている」と述べ、受胎時からの母性の発達の重要性を指摘している。

最初に、受胎に関する夢について分析したい。受胎夢と思われる夢は B の最初の夢だけで、A、C、D、E には見られなかった。表 14 は、B が見た受胎に関する夢番号・夢を見た時期・夢内容である。

表 14 B が見た受胎に関する夢

夢番号	夢を見た時期	夢内容
D1	3 週 1 日	布団のなかで私が寝ようとしていると、2 歳くらいの女の子が布団の中に入ってくる。布団が狭くなって寝心地が悪いが、何だか幸せな気持ちになる。
D2	3 週 4 日	朝起きたら、デジタルの基礎体温計がみるみるうちに上がって 38 度以上になり、「こんなの初めて！」とびっくりする。

D1 の布団に関する夢素材連想質問に対して B は「ふかふか。寝つきが悪いから、布団では 1 人で寝たい。そこに知らない子どもを入れたことは不思議」と書いている。また、全体感想質問に対して B は、「子宮内膜はふかふか毛布とか、ふかふかベッドとか言われる。着床しはじめたことを教えてくれた夢かもしれない」と書いている。この夢は妊娠週数 3 週 1 日に見た夢で、ちょうど着床が成立した時期である。尿中に分泌される hCG（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）は微量で、妊娠したかどうかを妊娠検査薬では判定できないし、吐き気といった妊娠の兆候もほとんど現れることはない。B がこの夢を見て自分が妊娠（受胎）したことを感じ、実際に妊娠していたことを考えると、この夢は受胎夢と言える。

ところで、Van de Castle（1994）は、いくつかの受胎夢には新しい植物が成長するという内容のものが見られたと述べている。Van de Castle によると、受胎夢には大きな月に象徴されるような女性性や豊饒性が現れる。また、丈夫な赤ちゃんそのものが現れた受胎夢も報告されている。B の夢は赤ちゃんではなく 2 歳の女の子が登場しており、何かが成長するといったような内容ではない。夢のなかの B の行動が、布団に入れてあげるといって B にとっては今までと異なる行動を取っていることは非常に興味深い。女性が母親になると今までとは異なる行動を取らねばならなくなることと関係があるかもしれない。また、子どもと添い寝することは日本的な母性的行動の一つであり、欧米との文化的差異という観点からも非常に貴重な夢と言える。

どのような生理的メカニズムが受胎夢を引き起こすのかということについての研究はまったくなされていない。Bが報告した「デジタルの基礎体温系がみるみるうちに上がってびっくりする夢」(D2:妊娠1か月)は受胎夢が起こるメカニズムと関連があるように思われる。妊娠が成立すると、基礎体温が通常37°C前後にまで上がる。高温期に低温期の基礎体温より1度以上上がり、それが2週間以上続くと妊娠している可能性が非常に高いとみなされる。全体感想でBは、「基礎体温が下がっていませんよにといつも願いながら計測するので、基礎体温が上がっていて欲しいという願望が夢に現れたのだと思う」と書いており、夢主自身はこの夢を見て妊娠を確信したわけではない。しかし、「こんなの初めて!」と夢のなかで驚いたように、現実生活においても今までにはない基礎体温の上昇にBの心身がすばやく反応し、夢を通してBに妊娠の可能性を伝えていた可能性はある。

A、C、D、Eから受胎夢は報告されなかったが、4人は妊娠を希望していたので、妊娠が判明したさいにはとても喜んだようである。4人とも妊娠を希望していた時期とほぼ同時期に妊娠し、「こんなに早く妊娠するとは思わなかった」と述べている。また、5人すべての夫も妊娠がわかったさいには喜んだようである。

2. 胎動

お腹にいるわが子の存在を確認できる方法の一つに胎動が挙げられる。胎動に関して、5人ともに妊娠5か月ごろにははじめて胎動を確認した。ここでは、5人の母性と胎動との関連を明らかにするために、胎動が現れた夢と、胎動について述べられている夢について吟味する。表15は、胎動と関連がある夢を見た初産婦、夢番号、妊娠月数、および夢内容をまとめたものである。A、C、Dでは胎動と関連がある夢はなかった。

Bの「トイレに入ったら出血していた夢」(D48:5か月)は、Bが胎動について述べている最初の夢である。全体感想質問に対するBの回答を見ると、Bは前日暑さと疲れで体調がかなり悪く、妊娠5か月でお腹の張りがあったようである。流産に対する不安があったためにこの夢を見たときBは分析している。また、「夢のなかではパニックというほどではなかった。妊娠生活に慣れてきて、病院に行くことに抵抗がなくなったからかもしれない。あるいは、お腹が痛かったときも胎動はかなり元気よくあったので、安静にしておけば流産はしないと思っていたからかもしれない」と書いている。Bが流産の不安を持っていたが、胎児の胎動を確認できたことによって精神的に落ち着いていたことがよくわかる。5か月の後半に見られた夢であるが、Bが胎動を通じて胎児との心理的つながり(愛着)が形成されはじめていたようである。

妊娠中期に見られたBのD49には妊娠を受容し、喜ぶ夢主の姿が表れている。胎動に関する夢素材質問に対してBは、「赤ちゃんが元気な証拠。胎動があるとすごく嬉しいし、ほっとする」と書いてある。Bが胎動によって胎児の存在を確認できることに喜びを感じていたことがわかる。全体感想質問に対してBは、「すごく印象深かったことは、胎動がすごく大きかったこと。胎動を感じはじめて4週間ほど経つので、胎動が自分の一部になってしまったのかもしれない。お腹の赤ちゃんともうまくコミュニケーション取れているような感じがした。私の感情と赤ちゃんの動きが連動していて印象的だった」と書いている。それまで経験していなかった胎動がはじめてひと月ほど経ち、Bのなかで胎動が自分の一部として捉えられはじめていたことが伺える。また、胎児とBが一体となり、Bのなか

表 15 胎動と関連がある夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D48	5 か月	トイレに入ったらパンツが血で真っ赤になっていた。どきっとした。
	D49	5 か月	酪農家の女主人がくれた白いピザを食べてみたら、すごく甘くて、おいしかった。そうしたら、お腹の中がぐるぐる動き出して、びっくりするほど元気な胎動を感じた。「お腹の赤ちゃんもよっぽどおいしいみたい！すごく動き出した！」と大声で言った。
	D51	6 か月	中学校らしきところにおいて、教室のなかにいる。椅子に座っているのがしんどくなって、椅子からおりて床に座った。そうしたら、楽になってお腹の赤ちゃんの胎動がよくわかって安心して満足した。
	D56	6 か月	薄い青と赤のまだらの模様がある白蛇が 3 匹私の布団の中に入って来て、すごい勢いでお腹の上を這って黒蛇が入っていった押入れのなかに入っていった。驚きでいっぱいだった。(詳細は既述)
	D59	7 か月	何かの説明書(白い厚紙にオレンジ色の文字)に、「胎動の激しい胎児にはダウン症の疑いがあります」と書かれていて、「どうしよう」と不安になった。
	D84	9 か月	両親と一緒にアパートの和室にいた。胎動が激しくなったので、お腹を出した。おへその辺りでぼこぼこ動き出したので両親に見せた。焼き餅の中身がぶく〜と膨れたみたいにお腹の一部が出てきて、そこが赤ちゃんの顔になっていた。赤ちゃんは泣いていた。私も両親もびっくりした。
E	D1	5 か月	海で海水浴をしている。楽しく遊んでいたが、海の潮の流れが強く自分の行きたい方向ではないほうへ流される。不思議なことに、海の深いほうへ流されている。一緒に来ていた夫が止めてくれたので、そのままどんどん沖へ流されることはなかった。
	D3	5 か月	中国のショッピング街で、洋服など売り物も沢山あるが、人多すぎてゆっくり買い物を楽しむどころではない。一緒に来ているのは夫だと思う。そのうちに夫とはぐれてしまう。とにかく人が多すぎて自分の思うように動けない。このままはぐれたままだったらどうしようかと心配になるが、そのうち出会えるだろうと楽観的である。

で妊娠の受容がさらに進んだことを提示する夢である。
次に、Bの「椅子からおりて床に座ったら胎動を感じて安心した夢」(D51: 6 か月)の

全体感想質問に対して B は、中学校の教室で自分だけ椅子から床に座ったことと、妊娠して社会生活が送れない状態にあることとを関連付けている。また、「床を感じて、赤ちゃんがお腹にいることに満足していた。夏休みになって、ほとんどうちにて胎動を楽しみにしている日々なので、こういう夢を見たのだと思う。赤ちゃんが生活の一部になってしまったのだらうなと思う」と書いている。つまり、胎動がしっかりと感じられ、B にとって胎動が楽しみになっており、胎動が生活の一部になっていたことがわかる。

B が妊娠 6 か月のときに見た「青と赤のまだらの白蛇がお腹の上を這う夢」(D56) では、「青と赤のうろこの白蛇」についての連想は、「白蛇は神様の使い。青は男の子、赤は女の子の典型的な色。錦鯉を細くした感じの蛇だった。なんだかお腹の上を這っていたので赤ちゃんのような気がする。3 匹だったのは、できれば 3 人子どもが欲しいと思っているから 3 匹だったのかもしれない」と書いている。つまり、この夢は第四章で分析したように胎児と関連がある夢であると言える。また、全体感想質問に対して B は、「お腹を這って行ったのは胎動を表わしているように思う。びっくりしたのが、胎動があるときと似ている」と書いている。つまり、この夢が胎動に関する B の驚きを現していることがわかる。

次に、「厚紙に胎動の激しい胎児にはダウン症の疑いがあると書かれていた夢」(D59: 7 か月) の全体感想質問に対して B は、「2、3 日前に超音波でダウン症の疑いが出た母親の書き込みをネットで見たから、こういう夢を見たのかもしれない。それと、胎動が激しくて、生まれる前からこんなに落ち着きがないなんて、なにか障害を持って生まれてこなければいいなと思っていることも影響していると思う。胎動が少ないと心配になるし、激しすぎて心配になる。順調に成長しているけれど、障害に関する不安はなかなか拭い去れないのだな、と思う」と書いている。また、対応性質問に対して B は、「今までダウン症の疑いを医師から言われたことはない。胎動はすごく激しい。激しくて夜なかなか寝られないし、膀胱を胎児が押しているのもわかる。だから、トイレがとても近くて困っている」と書いている。つまり、この夢は、無意識下にあった B の胎児の障害の有無に対する強い不安が現れている。また、この夢から、生活に支障が出るほどに胎動が強くなり、B が胎動を素直に喜べなくなっていたことがわかる。

妊娠 9 か月のときに見た「胎動が激しくてお腹が焼餅のようにふくれる夢」(D84) には、腹部が胎動とともに大きくなって赤ちゃんの顔になるという非常に興味深い夢である。全体感想質問に対して B は、「最近胎動が激しくて、お腹のなかに人間がいるのがわかる。あまりに激しいので戸惑うことも多い。今の胎動は安定期のようなかわいらしい感じではなくなったので、グロテスクに胎動が表現されたのだと思う」と書いている。「お腹のなかに人間がいるのがわかる」ことや、B の意思とは関係なく起こる激しい胎動に B がとても戸惑っていたことがわかる。

E の「海水浴をしていたら沖のほうに流される夢」(D1: 5 か月) の内容は胎動と関係がないが、追調査で夫に励まされたことについて E に対応性質問をすると、「夫から胎動がまだなくても心配しなくても良いと励まされた」と書いている。したがって、この夢は胎動がまだ確認できないことに対する E の不安が現れた夢である。

E の「中国のショッピング街で夫とはぐれてしまう夢」(D3: 5 か月) の伝達—警告質問に対して、「わからないけれど、最近胎動を感じるのはいつかなと気にして待っていることが関係あるのかもしれない」と書いている。追調査でこの記述について質問すると、「シ

ショッピング街にいたけど、楽しんで買い物をしている夢ではなかった。途中で一緒にいた主人とはぐれたり、人ごみの中で身動きできず不快な夢だったので、そのころ気にしていたこと（胎動がまだかなと思っていたこと）が関係しているのかなと思った」と書いている。胎動が感じられないことに E がかなり不安に思っていたことがわかる。

B の場合、胎動を感じはじめた 5 か月ごろから夢に胎動が現れている。D48 から D84 までの夢のなかの感情を見ると、「驚き (D48) →嬉しい (D49) →満足 (D51) →不安 (D59) →戸惑い (D84)」と変化している。D49 や D51 に見られる胎動に対する喜びは胎動がはじめたことよって B の母性的感情が増加したことの現れであると言える。B が胎動を受容し、胎動を喜んでいたものの、妊娠経過とともに胎動が B の予想以上に激しくなり、胎動に対して不安や戸惑いを感じていた。B の胎動に対する認識は妊娠後期には不安や戸惑いなど少し否定的な面も見られる。E の場合には、胎動に関連する夢であったが、D1 と D3 とともに胎動が感じられないという E の不安を現すものであった。

3. 妊婦検診

通常、妊婦検診では超音波検査が行われる。一般的には、妊娠初期で週 1 回、あるいは 2 週に 1 回、妊娠中期で毎月 1 回、妊娠後期で 2 週に 1 回から 1 週に 1 回実施される。超音波検査では、胎児の発育状況や妊娠経過に異常がないかどうかの確認が行われるが、妊婦がお腹のなかにいる胎児の様子を見られる機会でもある。超音波検査は母性的感情や母性的意識を高めることができる場面であると推測できるが、5 人のなかで超音波検査自体が夢に現れた者は全くいなかった。ただし、夢について考察したさいに、妊婦検診や超音波検査について書かれているものが合計 5 個あった。表 16 は妊婦検診や超音波検診と関連がある夢をまとめたものである。

B の「従姉妹の赤ちゃんが黄色いインコになって逃げる夢」(D29 : 4 か月) の全体感想質問に対して B は、「検診が 4 週間に 1 回になって超音波で赤ちゃんを長くみていないし、つわりも終わったし、特に異常もないので本当に赤ちゃんがいるのかなと思うことがある。だから、ちゃんと気をつけて見ておかないと猫に食べられたりと危険な目に赤ちゃんがあうよ、という夢からのメッセージかもしれない」と書いている。つまり、B が超音波検査で胎児を見る機会が急に減り、またつわりが終わったこともあって、自分が妊娠している（母親になろうとしている）という母性的意識が揺らいでいたことがわかる。妊娠している自覚が薄くなって胎児への配慮に欠ける行動を諫める働きが D29 にはあったと考えられる。

次に、「小さいトラ猫を夫とともに洗うと猫が甘えてくる夢」(D39 : 4 か月) で登場したトラ猫が胎児の象徴であり、B の母性的感情が発達していたことはすでに吟味した。全体感想質問に対して B は、「先週の金曜日の検診で、赤ちゃんが頭からおしりまで 9cm くらい大きくなっていて、エコーで手足をゆらゆらと動かしている姿を見たからかもしれない」と書いている。したがって、B の母性的感情が発達した要因は、超音波検査で胎児が動く様子を確認できたためであると言える。

妊娠 10 か月のときに見た「赤ちゃんが男の子で水頭症だった夢」(D92) は、出産場面を検討したさいに吟味したものである。全体感想質問に対して B は、「先週の検診で、赤ちゃんは少し小さめだけど頭だけ 38 週の大きさだった。帝王切開かもしれないと思った。

それと、妊娠関係の本を見たら、頭が大きいと水頭症の疑いがあるという文章を読んでちょっと不安になった。超音波の誤差もあるし、医師は何も言わないので標準範囲内だろうと思っているが、夢を見ると水頭症じゃないかという不安が自分で思っているより大きいかもしれない」と書いている。つまり、超音波検査によって B は胎児の頭部が大きいことを知り、出産に対する不安や子どもの障害に対する不安が増加した。この夢の背景には数値で胎児の細かい発達がわかるという超音波検査の特徴と、胎児の発育に関する情報や知識を本でしか確認を取ることができず不安が増大した B の孤独な状況がある。

C の「伯母と子どもの体重の話をする夢」(D20：妊娠 6 か月) は、出産場面を検討した際に吟味したものである。全体感想質問に対して C は、「5 か月の検診の時に子宮底が小さいと言われ、周りの人からもお腹が小さいねと言われたりもして、子どもも小さくなるのでは、と少し気にしているせいかも」と書いている。つまり、妊婦検診によって子宮底が小さいことを知り、子どもの発育に関して C が大きな不安を持つようになったことがわかる。ただし、夢のなかの感情について、「元気な子どもが生まれてホッとしていた」と書いている。3,045g といえば標準的な出生時の体重である。標準の体重で生まれてほしいという C の願望が現れている。また、D20 には子どもの発育に対する C の不安を軽減する機能があったと考えられる。

E は「海水浴をしていたら沖のほうに流される夢」(D1：5 か月) の全体感想質問に対して、「前回の妊婦検診から約 3 週間経っていて、お腹の中の赤ちゃんが順調に成長して

表 16 妊婦検診や超音波検診と関連がある夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D29	4 か月	従姉妹の赤ちゃんが黄色いインコになって逃げる。(詳細は既述)
	D39	4 か月	小さいトラ猫を夫とともに洗うと猫が甘えてくる。(詳細は既述)
	D92	10 か月	赤ちゃんが男の子で水頭症だった。(詳細は既述)
C	D20	6 か月	伯母に「3045 グラムだったんだね、思ってたより大きい子だったね」と言われた。(詳細は既述)
E	D1	5 か月	海で海水浴をしている。海の深いほうへ流されている。一緒に来ていた夫が止めてくれたので、そのままどんどん沖へ流されることはなかった。(詳細は既述)

いるか少し不安に思っていた」と書いており、追調査で「夫から胎動がまだなくても心配しなくても良いと励まされた」と書いている。つまり、E はまだ胎動を感じることができず、しかも超音波検査で胎児の様子を見ることができなかつたので、胎児の発育に対する不安がかなり大きかったことがわかる。

B の D39 では、妊婦検診が母性的感情を発達させていた。ただし、B の D92 や C の D20 のように検査結果によっては胎児の発育や出産に対する不安が増加した場合があった。また、B や E は、妊婦検診を受ける間隔が長くなり、それによって、「私は妊娠している(母親になろうとしている)」という母性的意識が揺らいでいたことがわかった。3 人に限ったことであるが、妊婦検診は期待と不安が大きく入り混じったものであ

ると言える。

第2節 子どもに関する不安

妊娠期において、初産婦は子どもと実際には関わることができない。しかし、赤ちゃんのスペースや育児用品を揃えるなど物理的に育児生活の準備をするなかで心理的にも育児生活に対して準備をするものと思われる。授乳やおむつ換えといった母性的行動に関する不安については、第五章で吟味した。本節では、子どもに関係する3つの不安、つまり、①子どもの性別に関する不安、②子どもの障害に関する不安、③育児生活に関する不安(第五章で吟味していないもの)に焦点を当てる。

1. 子どもの性別に関する不安

子どもが登場した夢はBでは合計10個だった。そのうち男児の夢は4個(D15、D21、D92、D96)、女児の夢は1個(D1、ただし、夢のなかでは自分の子どもという意識はなかった。目が覚めた後で自分の子どもかもしれないと記述している)、不明は5個(D24、D26、D38、D69、D71)であった。Cでは、合計6個で、男児の夢が2個(D10、D17)、女児の夢が2個(D3、D6)、不明が2個(D12、D24)であった。Dでは、男児の夢が1個のみであった(D19)。Aでは赤ちゃんが夢に全く現れていない(A本人は自分の子どもが現れた夢は出産後に見られた夢が初めてであると述べている)。Eでは自分の子どもは夢に登場していない。ちなみに、Bは女児を強く希望していたが、他の初産婦は特に希望する性別はなかった。CとDは、子どもが登場した夢についての質問でも胎児の性別に関する強いこだわりや不安を書くことはなく、医師から伝えられた胎児の性別について受容している。一方、Bで子どもの性別に対する不安が現れた夢は合計2個である。表17は、子どもの性別に対する強い不安が現れたBの夢をまとめたものである。

表17 子どもに対する強い不安が現れたBの夢

夢番号	妊娠月数	夢内容
D15	3か月	曇っていて雪がちらついていた。夫と2人で誰かを待っている。門から中学1、2年生くらいで学生服を来た男の子が自転車に乗って庭に入ってくる。その男の子を見た瞬間、私はすごく嬉しくなり、安心する。大雪のなかよく帰ってきたねと私と夫はその男の子に言う。それから、3人で雪かきをはじめる。
D88	9か月	裁判所らしきところで、若い男性が判決を言い渡されるところにいる。被告人の男性が罪を悔い改め、愛着を持って見守ってくれる人がいたら罪を犯さなかったと述べる。裁判官は服役後の後見人に私を指名する。びっくりするが、夫とともにその男性の世話をしようと思う。

BのD15に登場した男の子は中学生であった。5人の初産婦の夢に現れた子どものなかでは最も年長である。Bの他の夢に登場した子どもの多くは乳児で、夢主も夫も30代の姿であった。これに対し、D15では夢主と夫は中年世代で子どもも中学生と近未来の親子関係を具体的に提示していたことが大変興味深い。Bは記録に、「子どもは男の子だったけ

れど、夢のなかでは本当に愛しいという感情だった。男の子でもいいじゃない、男の子でも可愛くて仕方なくなるよと夢から言われた感じがする。夢を見たら、男の子でも悪くないな、雪かきもちゃんと手伝ってくれたし、男の子は男の子なりのよさがあるよなと思って落ち着いた。女の子が欲しい気持ちは変わらないけれど、男の子でもいいかな、とも思う」と書いている。D15は、女兒を強く希望していたBに対して、男児の良さや男児の場合であっても良好な親子関係を築いていることを具体的に提示している。おそらく、Bに胎児が希望の性別でない場合の心理的準備をさせていたと考えられる。また、性別に関わらず子どもを愛しいと思う母性的感情の発達を夢が促したと言える。

BのD88は家庭環境に恵まれなかった男性の後見人にBが指名される夢である。Bは心理学を専攻しており、児童相談所で心理士として勤務していたことがある。家庭環境に恵まれなかった男性の後見人になるという夢内容は、Bが家庭環境に恵まれない子どもたちと関わったことがあったことと、里親制度について関心があったことが関係していると思われる。D88の全体感想質問に対してBは、「社会から罰せられるような人でも、そこに至るまでにいろいろなことがあったのだろうと思う。夢のなかで男性が言ったことは1つの真実ではないかと思う。夢から、子どもを微笑んで見つめていればそれでいいという子育てのアドバイスされたように感じる」と書いている。また、伝達—警告質問に対してBは、「あまり子育てを難しく考えなくていい。微笑んで見守っていただければそれだけで子どもは満たされる。親の愛情に恵まれなかった子ども達の世話をしなさい」と書いている。つまり、D88は、男児の養育についての助言を与え、Bの育児不安を軽減させたと言える。

Bは女兒を強く希望していて、産婦人科医に超音波による性別の確認を依頼しなかった。女兒を希望している理由としては、さまざまな事件で男性が加害者になる率が高いため男児の養育に自信がないとのことであった。司法の裁きを受けている登場人物が女性ではなくて男性であったことは、男児の養育に対するBの不安と大きな関係があるだろう。男児の養育に対して不安が大きかったが、夢ポイント質問に「夫とともに男性を見守っていこうと決意したこと」と書いているように、夫と協力して男児を養育する心理的準備ができたことがわかる。

Bでは、男児が現れた夢(4個)が女兒の場合(1個)の4倍あったことになる。一方で、厳密に比較はできないが、Cはどちらも同じ数だけ登場している。Bは希望する性別がはっきりしていたが、他の初産婦は特に希望の性別はなかった。一方の性別に対する期待が大きいと、別の性別に対する不安は大きいことになる。Bに限っていえば、あまりに女兒に対する期待が大きかったため、男児である場合の不安がかなり大きかったと推測できる。したがって、これら4個の夢は不安夢であることは間違いない。しかし、不安が大きのままに男児を出産した場合、その後の愛着の形成に支障をきたす可能性がある。したがって、それを未然に防ぎ、男児であっても母性の発達を継続させるために夢が男児の場合の肯定的な親子関係や男児を育てるさいのアドバイスを与えたとも考えられる。その結果、Bの育児不安は減少し、母性的意識がより発達した。

2. 子どもの障害に関する不安

妊娠期全般において、妊婦は食事に配慮し、胎児の発育にとって悪影響があるものをできるだけ摂らないように心がける。特に、妊娠初期における薬物の摂取とレントゲン

などによる被曝はその後の胎児への影響が大きいと言われている。たとえどんなに食事に気をつけていたとしても、ダウン症などの先天的な障害を持って生まれてくる子どもたちもいる。したがって、子どもに障害があるのではないかという不安は、多くの妊婦が一度は抱くものであると思われる。ここでは、子どもの障害に関する夢について吟味し、母性の発達と関連があるかどうかについて考察する。子どもの障害に関する夢は、Bで合計4個であった。他の初産婦では見られなかった。表18は、子どもの障害に関するBの夢をまとめたものである。

表 18 子どもの障害に関する夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D14	3か月	授業のあとでみんなに「妊娠しました」と報告する。みんなちょっとびっくりした様子。発達障害が専門の先生が「妊娠したのならこれを飲むといい」と言って、リンゴ酢らしきものが入った大きな瓶をくれる。
	D38	4か月	広い和室に寝ている。外から大勢の子どもたちが楽しげに遊んでいる声が聞こえる。自閉症の子ども達であることがわかっている。私と夫は布団に横になった。それから、庭から白い服を着た赤ちゃんが飛んで来た。「お母さん、お母さん！」と赤ちゃんが叫んでいる。私は怖くて、夫を起こそうと夫のそばに行こうとしたがなかなか体が動かなくて行けなかった。少し彼に触れた時、これは金縛りだ！と思った。
	D59	6か月	胎動が激しい子どもはダウン症の疑いがあると書かれた紙を見て不安になる。(詳細は既述)
	D92	10か月	赤ちゃんが男の子で水頭症だった。(詳細は既述)

「発達障害の専門家からリンゴ酢をもらう夢」(D14)の全体感想質問に対してBは、「よくよく考えると、もしかしたら子どもが障害を持って生まれるんじゃないかと不安に思っているのかもしれない。現実生活ではそこまで心配していないし、どうにかなるさと思っ
ているけど、内心はかなり不安に思っているのかもしれない」と書いている。また、「ただ、「もし障害を持って生まれてもあんたには相談する人がいるんだから心配しなくてよい」と夢から言われているようにも思う」と書いている。Bが思っていた以上に障害に対して強い不安を抱いていたことがよくわかる。Bは児童相談所で心理士として勤務したさいに発達障害やダウン症の子どもたち、また一時保護所に保護されていた子どもたちと関わった経験があるので、このような夢を見たのかもしれない。

次に、「白い服を着た赤ちゃんが飛んでくる夢」(D38)でBは「白い服を着た赤ちゃん」という素材連想質問に対して、「この子は自分の赤ちゃんだと思ったけれど、怖くてしかたなかった。自分の赤ちゃんが障害を持って生まれるんじゃないかと心配しているのかもしれない」と書いている。また、全体感想質問を見ると、特別支援学校の子どもたちについて話を聞いたり、外出先で偶然ダウン症の子どもがBのまわりを動き回っていたしたこ

とがあった。Bはこれらの体験とD38を関連付けており、子どもの障害に対する不安が強くなったと書いている。

次に、「胎動の激しい子どもはダウン症の疑いがあると書かれた紙を見て不安になる夢」(D59)では、「ダウン症」という夢素材連想質問に対してBは、「生まれてきた赤ちゃんの顔がダウン症特有の顔だったら、自分は赤ちゃんの誕生を心の底から喜べるのか不安」と書いている。安定期にも入り、妊娠経過が順調であるにも関わらず、Bが子どもの障害に対して強い不安を持っていたことがわかる。

「赤ちゃんが男の子で水頭症だった夢」(D92)の全体感想質問に対してBは、「夢を見ると水頭症じゃないかという不安が自分で思っているより大きいのかもかもしれない。しかし、夢のなかの男の子の頭は普通の大きさだったし、知的障害があるような感じでもなかった。でも、この子が自分の子どもなのだとすごく男の子が愛しかったので、赤ちゃんが男であろうと女であろうと、障害かあろうとなかろうと自分の子どもとして受け入れる心の準備ができつつあるのかもかもしれないと思う」と書いている。また、伝達一警告質問に対しては、「もうすぐお産ですよ。どんな子どもであろうと自分の子どもは愛しいですよ。受け入れなさい」と書いている。つまり、出産間近になって、子どもに対するBの母性的感情が妊娠初期・中期よりも増加し、その母性の発達によって性別や障害に関する不安が減少し、出産や育児に対する心理的準備が整ったと言える。

3. 子どもとの生活に関する不安

第五章では授乳やおむつ換えといった母性的行動を吟味した。本節では母性的行動ではないが、子どもとの具体的な生活が現れたり、子どもとの生活に対する不安が現れたりした夢について分析する。結果、Cでは合計2個見られた。表19は、子どもとの生活に関するCの夢をまとめたものである。A、B、D、Eには見られなかった。

CのD3は、登場した子どもがすでに2、3歳くらいの幼児で、弓道場で夢主が練習し、子どもがいろいろな人に関わってもらいながらCを待っているという育児場面に現実性がある。Cは夢のなかの感情について、「道場の人たちに子どもを歓迎してもらえてホッとした。天気がよく暖かくて、子どもを連れて出かけるにも、自分が稽古するにもいい気候だと思った。練習ができて楽しかった。子どももぐずりはじめるまでは楽しそうだった」と書いている。天候のよい日に子どもとともに弓道場に出かけ、親子が周囲から温かく受け入れられている状況は、出産後の親和的な親子関係と育児支援の可能性を示唆するものである。全体感想質問に対してCは、「だんだんつわりがひどくなって、道場どころか買い物すらなかなか行けない状態の頃に見た夢。これからはお稽古をするのも大変だなと思っていたが、夢を見た後、今まで通りには行かないかもしれないけど、何とかなるかな、という気持ちになった」と書いている。伝達一警告質問では、「子どもは女の子なのかもしれない。趣味はマイペースで続ければよい」と書いている。つまり、Cは子どもがいる生活では自分の趣味が思うようにできないだろうという不安を持っていたことがわかる。しかし、D3を見たことによって、Cは、趣味の弓道はマイペースで続ければよいという育児と趣味に関するアドバイスを夢から与えられた。また、育児に関する具体的な場面を見たことによって、育児に対する不安が軽減したことがわかる。

表 19 子どもとの生活に関する夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
C	D3	2か月	2歳くらいの女の子を連れて弓道場へ行った。その子は自分の子どもで、しばらく先生に子どもの相手をしてもらい、私は練習をする。子どもは先生たち一緒に道場の隅でお茶を飲んだりおやつを食べたりしている。そのうち子どもがぐずりだし、あとちょっとだけ練習させてねと話しかけた。
	D10	4か月	お座敷で大勢の人が食事をするのを手伝っている。なかなか食事を取れないので、一番下の妹が子どもを見ていてくれることになった。妹は自分の子どもたちも連れて外に散歩にでかけた。子どもは甥と一緒に歩きたいが思うように歩けず、泣きべそをかきながら一生懸命後を追っていた。しばらくして、迎えに行くことにした。妹の家に着くと、子どもは甥や姪と仲良く遊んで楽しそうにしていた。

同じく C の D10 に登場した男の子は、歩き始めたばかりの子どもと記録に書いてあるので、おそらく 1 歳から 1 歳半くらいであろう。D3 と同様に、妊娠初期でありながら登場した子どもが幼児で、ぐずったり遊んだりしている姿が非常に現実的である。これは、C がかなり早い段階から育児生活について具体的に理解していたことの現われであると考えられる。夢のなかでは、男の子は自分の食事が終わると動き回るので、C は男の子を追いかけて自分の食事ややるべきことができない状況であった。C が子どもとの生活によって自分のことが思うようにできなくなることに對して不安を感じていたのかもしれない。しかし、C はそのような不安について述べていない。夢のなかの感情について、「預けた時は、私がいなくても大丈夫かな、いとこ達と仲良くしてくれると嬉しいと思っていた。楽しそうに遊んでいるのを見て安心した」と書いている。全体感想質問に對して C は、「いつもは私が妹の子どもを預かるので、逆の立場になるのは不思議な感じがした。私は人に頼みごとをするのが苦手というか、自分でやるほうが早いと思ってしまうことが多いが、子どもが生まれたら、いろいろな人の力を借りることになるのだろうなと思った。夢の中で妹の力を借りて、子どもがいとこと仲良くなるという良い結果になったので、時には人を頼ることも悪くないのかもしれないと思った」と書いている。また、伝達一警告質問では、「これからは上手に人の力も借りたほうがいい」と書いている。C はもともと人に頼ることが苦手であったことを考えると、子どもを妹に預け、それがよい結果になっているという夢内容は非常に意義深い。D10 は、C に子どもとの生活のなかで起こりうる問題場면을提示しながら、「これからは上手に人の力を借りたほうがよい」という育児に関する助言を与えたと言える。

第 3 節 母親としての自覚

これまで母性的行動が現れた夢について吟味した際にも、授乳などを通して、「この子は私の子どもである」といった夢主の母性的意識の発達を促している夢があった。ここで

は、これまで吟味した夢以外で母親としての自覚が発達したと考えられる夢について吟味する。すなわち、Aで1個、Bで1個、Cで1個である。表20は、母親としての自覚が現れた夢をまとめたものである。

表 20 母親としての自覚が現れた夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
A	D1	6か月	家のベランダでトマトを育てていて、たわわに実っている。そこに姉と甥と姪が遊びにくる。トマトソースにして少しピザにしようと思っていたけれど、いつのまにか姉がすべてピザにしてしまっていてちょっと悲しくなる。
B	D19	3か月	おじいさんに下腹部を押させられて、押さないでくれと怒って言う。
	D92	10か月	赤ちゃんが男の子で水頭症だった。(詳細は既述)
C	D2	2か月	実家に帰ってくつろいでいたら、いきなり戦国武将みたいな人が入ってきて追いかけられた。お腹の赤ちゃんを守らなければと考えながら逃げた。

ここで取り上げるAの夢は、山根(2006)でも吟味したものである。姉が自分の意思とは異なりトマトを全部ピザにしたことに関してAは、「言い出せなくて誰かに気づいてもらうまで待っている自分とか、そのくせ自分の計画通りにうまくいかないと腹を立てる自分とか。母親にもなるし、もうちょっと大らかになれたらな、と思うんですけど」と述べている。つまり、D1はAが母親になるのに「大らかさ」が必要であることを提示したのである。したがって、山根(2006)で筆者は、D1には母親としての自覚を促す機能があると結論付けた。言い換えると、D1は、Aの母性的意識の発達を促したと言える。

次に、Bの夢について吟味する。D19の夢のなかの感情についてBは「(おじいさんに対する)怒りと、赤ちゃんを守らなければという気持ち」と書いている。わが子を守ろうとする母性的意識がBのなかで発達していたことがわかる。また、全体感想質問で、「お腹に負担をかけないように常に気をつけているからこんな夢を見たのかもしれない。それと、夢のなかでもお腹を必死で守ろうとしているので、自分が妊婦だという自覚ができてきたように思う」と書いている。わが子を守ろうとするBの母性的意識が妊娠初期から発達していたことがわかる。

次に、CのD2について吟味する。CのD2に登場した戦国武将に関する夢素材連想質問に対してCは、「威圧感がある。いきなり現れたら怖い」と書いている。Cは戦国時代を扱った映画を観た影響ではないかと分析している。全体感想質問に対してCは、「まだ妊娠したことに実感がない頃で、今考えると無頓着な行動が多かったように思うので、もっと赤ちゃんのことを考えて大事にしないといけないという警告だったのかもしれない」と書いている。胎児のことを考えて行動するように促す夢であったと言える。しかし、夢のなかでCは、戦国武将から赤ちゃんを必死に守ろうとしており、子どもを守ろうとする母性的意識が発達していたと言える。

第4節 夫との関係性

夫との良好な関係性や夫が妊娠を受容していることは、妊婦の母性の発達と関連があることは今までも指摘されている(大日向, 1988; 新道, 1990; 花沢, 1992; 佐々木, 2005)。確かに、調査協力者 5 人の夢に関しても夫が登場する夢は多い。ちなみに、A では 1 個、B では合計 29 個、C では合計 6 個、D では合計 6 個、E では合計 2 個であった。ここでは、夢を見て夫との関係性についての考察が特に深まった夢について吟味する。表 21 は、夫との関係性が深まった夢をまとめたものである。ちなみに、A の「ふぐ汁を食べなくて満足する夢」(D3) では夫婦関係というよりは、A が考える育児に対する男女間での違いや夫の育児参加に対する A の不安が現れていた(山根, 2006)。ここでは、特に印象的な夢だけを吟味する。

表 21 夫との関係性が深まった夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D28	4 か月	夫と手をつないで一緒に山道を歩いている。左手にすごくきれいな竹林が見えて、「ほら、見て。すごくきれいな竹林だね」と私が言うと、夫が「本当にきれいだね。こういうのはいいね」と言っている。
	D44	5 か月	銀色の自転車に乗っている。その自転車がすごく重くてたまらない。ちよつとうちに寄って自転車を調べた。タイヤの空気がなくてぶよぶよだった。夫が「空気入れならあるよ」と言って、薄いオレンジ色の道具箱から銀色の空気入れを取り出して自転車の空気を入れはじめた。夫が空気を入れてくれている姿をみて嬉しかった。
C	D11	10 か月	夫と一緒に笑いのライブを見ていた。人がたくさん集まっていて盛り上がっていた。壁の時計を見ると 11 時で、「子どもが待っているから帰らなければ」と思い、一人で外に出た。廊下は真っ暗で、電気が付いていなかった。少し歩いたが、真っ暗で薄気味悪かったので引き返した。会場に戻ってみたら、もう終わるところで、結局夫と一緒に帰ることになった。
D	D21	10 か月	夫と海辺をドライブしているとイルカが車のほうへ寄ってきて楽しくなる。(詳細は既述)
E	D1	5 か月	海水浴をしていたら沖のほうに流されたが、夫が助けてくれた。(詳細は既述)

B は D28 の全体感想質問に対して、「夫とはいろんなものを共有していると思う。妊娠してからは特に、私の人生は夫との二人三脚だな、と思うことが多い。夫とは着実に心理的にも夫婦になりつつあるのかもしれないと思う。夢のなかでも仲睦まじかったのが、心の底から夫との関係を楽しんでいるのだろうと思う。夫との関係性を夢に改めて見せてもらった感じ」と書いている。つまり、妊娠中に夫との関係性がより親密になったことがわかる。また、D28 を見て B が夫との関係性を改めて振り返り、妊娠をより肯定的に認識で

きたことを考えると、D28によってBの母性的意識が発達したと言えるだろう。

次に、D43では、Bが抱えている問題に対して夫が適切な支援をしている姿が印象的である。全体感想質問に対してBは、「私は妊娠してからというもの、思うように心も身体も動かないので、レポートにしても何にしてもやっとなしている感じがしている。自転車のタイヤの空気がなかったのは、そういう私の状況を現していると思う。でも、そういう状況だけど、夫がいつも支えてくれている。そういう夫の姿を夢のなかで改めて見せてもらった感じ」と書いている。現実生活でも夫からの適切な支援が与えられていることがわかる。

CのD11では、夫と一緒に帰ることになり安堵したようである。追調査で「Cにとって夫はどのような存在か」という質問に対してCは、「一緒にいて楽しいし、信頼できる。とにかくマイペースで、行動はのんびりしているけど、意外としっかり物事を考えていることもあったりして、よき相談相手でもある」と書いている。Cが夫を信頼し、夫を高く評価していることがわかる。また、「よき相談相手」と書いていることから、困ったさいには夫から適切な助言や支援が行われているものと推測できる。

DのD21は、第四章で夫婦関係についても吟味したものであるので省略する。

EのD1は、本章第1節で夫婦関係についても吟味したので省略する。

B、C、D、Eで夫が登場した夢を見ると夫婦関係が良好な場面や回答が多かった。また、実際に5人の調査協力者は、現実の夫婦関係についての質問を行うと、夫に対して高い評価をしており、夫との夫婦関係が良好であることがわかった。特に、BとEは夢を見て、それを吟味する過程で夫の存在の大きさを再確認し、妊娠の受容が進んでいた。また、Aは夢数が少なすぎて深い分析はできなかったが、AのD3にはAの男女観や夫の育児参加に対する不安（夫には不満は持っていない）といったAを理解するうえで重要な情報を含んでいた。

ちなみに、夫との関係性が良好でなかった夢について紹介する。Bでは「夫以外の男の子が気になって悶々とする夢」(D61：7か月)や「夫と口論となり離婚しようかと考えるが思いとどまる夢」(D79：9か月)といった夫との関係性が揺らいでいることがわかる夢も見られた。Cの場合、「知らない男性がトイレについてきて夫に電話する夢」(D30：10か月)の全体感想質問からCが出産のさいに夫の両親に来てもらいたくない気持ちを夫があまり理解してくれていないのではないかと夫に対する不信感が書かれている。Dの場合、「夫が2回離婚していて前妻との間に子どもがいるが、養育費は払わなくて良いことを知って納得する夢」(D9：6か月)があった。登場した夫は実際の夫とは違う男性であった。夢のなかの感情については、「離婚歴があり、子どもがいることはそんなにショックじゃなかったが、とにかく金銭面でどうしようかと思っていた」と書かれている。夢内容には夫の女性関係に対するDの不安や疑いがあるように思えるが、Dにそのことについて質問すると「不安には思っていない」との回答であった。当時、Dは教育費のことをとても不安に思っていたようである。夫に対する不満というよりは、子どもが生まれた後の経済的負担に対する不安が拡大化されたものであると言える。

第5節 共感性

同じ女性として他の女性の人生について深く考え、共感するという事は、自分の状況について深く考えることになるし、また母性の発達にも大きく影響しているように思われる。ここでは、他の女性に共感する夢について吟味したい。表 22 は、他の女性への共感が見られた夢をまとめたものである。

表 22 他の女性への共感が見られた夢

調査協力者	夢番号	妊娠月数	夢内容
B	D78	9 か月	旅の途中で出会ったピアンカという黒髪の少女が、実は交通事故で亡くなっていたことを知って泣く。
	D90	9 か月	中近東にいて中学生の女の子と 7 歳の男の子と話している。女の子から、男の子はレイプされてできた自分の子どもだと告げられてショックを受ける。
	D95	10 か月	下宿らしきところで、性同一性障害で MTF の知人 (MTF: Male to Female の略。体は男性だが心は女性。) とお互い裸で寝ていた。50 歳代の男性から激しく非難される。すると、友人は赤ちゃんに変身する。悲しいねと言って私は知人を抱き上げて愛おしく思う
C	D9	3 か月	薄暗いところに一人でいた。赤ちゃんが生まれたらすぐに自分は死ぬと知って、夫と子どもだけで大丈夫か、母親がいなくなると分かっている生まれる赤ちゃんはかわいそうではないのかと考えていた。
E	D5	5 か月	看護師として夜勤をしている。一緒に働いている 2 人は、以前勤めていた病院で同僚だった。ある患者さんの点滴の針が抜けてしまったのと、尿管が取れてしまったので忙しくしている。どちらも急いでやらないいけないと思って焦っている。

B の D78 の記録には、「ピアンカは悲しい運命の女性という感じだった。白のように純粋で、それゆえに悲しいといった感じ」と書かれている。母親になれずに不慮の事故でなくなった女性全体に対する共感が育っていたと思われる。

D90 は中近東という興味深い設定である。B は 2 か月ほど前に観たイラク映画との関連性を述べている。「レイプや性的虐待が原因で妊娠して子どもを産まざるを得ない (得なかった) 女性が世界にたくさんいるということを夢が教えてくれたのかなとは思ふ。自分が選んだ人と結婚してその人の子どもを妊娠して経済的にそんなに心配することもない今の状況は、夢のなかの少女と比べたら非常に恵まれていると思う。最近、妊娠が原因で友だちの結婚式に行けなかったり、研修会に行けなかったりしたことでちょっと精神的に不安定だった。子どもができて生活がほとんど変わらない夫はいいなと思っていた。そういう自分の行いを反省させられた夢だった」と書いている。望まない妊娠・出産を余儀なくされた女性全体に対する共感が見られる。初産婦が中近東に出かけて不遇な女性と話すこ

とは現実生活では不可能に近い。夢だからこそできたことであろう。

D95では性同一性障害の友人に連絡を取っていない罪悪感が夢に現れているとBは分析している。また、伝達—警告質問に対してBは、「彼らの悲しみに触れなさい」と書いている。「彼らの悲しみ」とは、夢のなかで男性に差別されたように、常に奇異な目で見られ差別される性同一性障害者の悲しみである。また、Bはその性同一性障害の知人から出産できないつらさを何度か聞いたことがあったので、体を女性化しても出産は決してできないという性同一性障害特有の悲しみも含まれるであろう。Bが同じ女性として他者の境遇や心情に共感し、母親としての（母親になろうとしている）自分の恵まれた環境について内省していることは、Bの母性的意識の発達と大きく関係していると思われる。

CのD9は自分が死んでしまった後に残される夫と子どもに対する慈しみが大きなテーマである。D9では出産後すぐに自分は死んでしまうという設定なので、Cが妊娠初期から出産は当然乗り越えられるものとして認識し、出産後の生活を重視していたことがうかがえる。自分が死んだ後に残される子どもを哀れみ、子どもの身を案じることも母性的意識と言える。また、自分が死んでしまうという設定はC特有のものである。Cの記録によると、Cの父親は生後ひと月で実母（Cからすると祖母）と死別した。全体感想質問に対してCは、「父の実母のこと覚えている人が身の回りにいなかったの、私自身は実の祖母のことはほとんど何も知らないが、目が覚めた時にそのことを思い出して、祖母はさぞ悲しくて、子どものことが心配だっただろうな、と思った」と書いている。つまり、自分（母親）が死んでしまうという設定は、産後すぐに他界してしまった祖母と関連がある。また、「祖母はさぞ悲しくて、子どものことが心配だっただろうな」と書いているので、Cは母親になろうとしている段階のなかで、同じ母親として産後ひと月で亡くなった祖母に対する共感が育っていたものと思われる。また、追調査では残された夫と子ども（Cの祖父と父親）のその後の人生にまで内省が進んでいる。子どもや夫のためにも自分が元気で生きることが必要であるというCの母性的意識が大きくなっていったと推測される。また、この夢には信頼関係にあった亡き父親に赤ちゃんを会わせたかったというCの気持ちがかかっているだろう。妊娠してから父親のことが思い出され、継母に気を使って生活していた幼少時代の父親にまでCの共感が深まっていたと考えられる。

Eの「夜勤で他の同僚と急いで仕事をしている夢」（D5）に登場した同僚の看護師は、夢のなかでは妊娠していなかったが、現実生活で妊娠中も大きなお腹で夜勤をこなしていたそうである。全体感想質問に対してEは、「連絡を取っていない2人の元同僚が夢に出てきたのは不思議だった。お腹が膨らんできている先輩が夜勤までこなしている姿にいつも感心すると同時に心配だったことを思い出した」と書いている。追調査で「看護師時代を振り返ると自分の人生のなかでどのような意味があったと思うか」という質問に対しては、「今どんなに大変だと思っても、看護師の仕事に比べると精神的、身体的両方の面でたいしたことはないと思える。日曜日やお正月でも忙しく働いていたので、日曜日に休めて、冬休みや夏休みのある今の生活に感謝できる」と書いている。したがって、D5は妊娠中も夜勤をしていた元同僚を思い出させ、その元同僚に対する共感を促したと言える。その結果、Eが今の生活についての満足感が増加した。D5は母性的意識の発達を促したとまでは言えないが、自分の置かれている環境を肯定的に受け入れることと、母性的意識の発達との関連を示唆していると考えられる。

以上のように、B、C、および E に限って言えば、夢を通して 3 人はさまざまな女性の人生を共感し、母親としての自分や自分が置かれている恵まれた環境について内省していた。つまり、他者について考え、共感するということは、3 人の母性的意識を発達させたと言える。山根（2011）では、妊娠期の夢に現れた母性的行動に注目して夢には母性を発達させる機能があることを分析したが、共感性など他の要素にも妊娠期における母性の発達を促す機能が夢にはあると言える。

第 6 節 まとめ

これまで、①妊娠の受容、②子どもに関する不安、③母親としての自覚、④夫との関係性、⑤共感性との関連を吟味した。5 人に限って言えば、①に関しては、(1) 妊娠検査薬による妊娠反応より前に夢を通して妊娠の可能性を知る場合があること、(2) 妊娠の受容は胎動が関連していること、(3) 胎動の有無や強弱が胎児の発育に対する不安を高める場合があることがわかった。②に関しては、子どもの性別や障害、あるいは子どもとの生活に関する不安に関する夢は、(1) 夢主の育児不安を現している場合があること、(2) 強い不安夢には時に母性的意識を発達させる場合があること、(3) 夢には育児に対するアドバイスをする機能があることが明らかとなった。③に関しては、(1) お腹を守るという行動が夢に現れる場合があること、(2) 妊娠初期から母親としての自覚が発達している場合があることがわかった。④に関しては、夫が登場する夢は (1) 初産婦と夫との関係性がよく現れること、(2) 良好な夫婦関係が現れた夢を吟味することで母性的意識が発達する場合があること、(3) 良好な夫婦関係が現れていない夢には夫に対する不満や育児生活に対する不安が現れる場合があることがわかった。⑤に関しては、他の女性に対する深い考察と共感による母性的意識を発達させる場合があることが明らかとなった。

第七章 総合考察と今後の課題

本研究では、母性を4つの要素に分けて操作的に定義したうえで、5人の初産婦から報告された合計165個の夢を分析し、夢に現れた母性や母性の発達と関連がある要素について吟味した。

第1節 夢のなかの感情

従来の研究では夢のなかの感情を5つ、6つ、あるいは7つのカテゴリーに分類していた。しかしながら、調査協力者5人の夢を収集するなかで筆者はこれまでの分類では少なすぎると考えた。名島(2008)は、自身が収集した701個の夢資料に記述された感情表現を分析し、16個のカテゴリー分けをしている。したがって、ここでは、名島(2008)による感情の分類をもとに初産婦5人の感情を分類し、考察する。

Aの場合、「育てたトマトを姉に全部調理される夢」(D1)で、夢のなかの感情は「楽しさ・喜び→悲しみ」であった。「火事を見に屋上に上がって、それから塾にいる夢」(D2: 7か月)で、夢のなかの感情は塾で居心地が悪いという「不快・嫌悪」と、妊娠中に火事を見てしまって赤ちゃんにあざができるのではないかとという「不安・心配」であった。「ふぐ汁を食べなかったことに満足する夢」(D3: 8か月)で、夢のなかの感情については、胎児のためにふぐ汁を食べない自分に満足するという「満足感(幸福感)」が現われた。したがって、妊娠中期には、「楽しさ・喜び」「悲しみ」「不快・嫌悪」「不安・心配」「幸福感」がそれぞれ1個であった。

3個の夢を比較すると、D3は母性的意識と深い関連があった。D3を見てAは、母親になったことで満足感の内容が変化したことを確認した。夢と面接中のAの言葉から、妊娠後期に入り胎動を通して赤ちゃんの存在を実感できるようになったことで、Aの母性的意識がかなり形成されつつあることが夢から読みとれる。ただし、夢から目覚めたあとの感情としては、「夢のなかでは母親の自己犠牲的な喜びに満足してただけど、起きたらそれだけでいいのかって思った。どこまでも子ども中心でいる自分を諷める夢のような気がする」と述べている。つまり、母親としての自分に過適応することに対して諷める夢であるとAは解釈している。このAの解釈は、大日向(1988)が女性の生き方や生きがいと母性と大きく関連があるという指摘を裏付けるものといえる。

Bの場合、母性的感情である「親愛感」は妊娠初期に最も多く出現し、いったん中期に減少し、後期に再び増加している。妊娠中期にBが修士論文作成や実習で忙しく胎児に対する意識が低かったためと思われるが慎重な吟味が必要である。「驚き」は妊娠期全体で最もよく出現している。また、妊娠経過が進むにつれて増加しており、妊娠中期からの胎動とお腹の膨らみと「驚き」の感情は関係している。妊娠期全体を見ると、「驚き」に次いで「不安・心配」が多く出現しており、妊娠経過が進むにつれて増加している。夢記録でも出産や育児に対する不安についての記述が増えていることから、出産や育児に対するBの不安が増加していたことの現われである。それから、「恐怖」は妊娠初期にもっとも出現し、妊娠中期で減少している。このことは、Bの夢記録から考えると、流産や障害に対する恐怖が減少したことと関係があるかもしれない。また、妊娠後期に増加したのは、出産に対

する B の恐怖が増加したと結びついているかもしれない。

「焦り・緊張」は妊娠の初期・中期で高い割合で出現している。B が妊娠初期と中期にはつわりや体調不良で思うように研究が進まなかったことと関係があるだろう。また、妊娠後期に減少しているが、それは、妊娠後期に入って修士論文が一段落し、B が出産や育児について考える時間が多くなったためであると考えられる。

B の場合、「楽しさ・喜び」「驚き」「不安・心配」の割合が大きく、的場（1998）の研究結果と類似したものであった。ただし、B の場合、「焦り・緊張」も出現回数が多い。これは、B の社会的自分と母親になろうとしている自分との間の葛藤が大きいことを示しており、また修士論文提出や就職をひかえていたという B の社会的状況と大きく関係している。

C の夢に現れた感情の特徴として、「楽しさ・喜び」と「安心感・落ち着き」が妊娠期全体を通して多く出現していることが挙げられる。妊娠初期から C の夢には母親として子どもとうまく関わっている C の姿が現われていることから、妊娠以前から育児に対する不安が少なかったと推測できる。それは、C の妹がすでに兄妹を産んでおり、出産・育児についての知識と経験があったことと関係があるだろう。また、「焦り・緊張」が少ない背景として、妊娠判明時に専業主婦であったので、A や B のように妊娠を機に社会的立場が変わったり、職業に関する葛藤を抱えたりすることが少なかったこととも関係しているかもしれない。また、元来物事を楽観的にとらえる傾向の強い C の性格も関係しているであろう。

D の特徴としては、妊娠中期以降、「焦り・緊張」と「楽しさ・喜び」の割合が比較的高いことが挙げられる。「楽しさ・喜び」は全期にわたって多く出現していることは、D が妊娠を希望していたことや、夫や実家のサポートが多かったことと関係があるかもしれない。このような心理的背景は C の場合と共通している。しかし、妊娠期全体を通して「焦り・緊張」の出現が最も多かった。このことは、D が現実生活でカルチャーセンターの展覧会に出す絵を出産する前に仕上げねばならなかったことと関係があるかもしれない。また、「劣等感・恥」や「罪悪感」など他の初産婦にはほとんど現れなかった感情が出現している。これは、物忘れが多いことや「人の先頭に立ちたくない」という D の性格特性と関係があるかもしれない。

E の夢に現れた感情を見ると、「焦り・緊張」が最も多かった。「学校に遅刻しそうになる夢」(D2) や「患者の点滴や尿の管が取れてしまって急いでやらなくてはならない夢」(D5) など仕事に関係するものが多い。E の記録には、出産時期が 4 月で夫と共同経営している英会話教室の運営が非常に忙しい時期と重なっており、新しい年度に向けた準備で忙しかったと記述されている。妊娠で思うように動けないなかで出産と新年度というタイムリミットが刻々と迫っているという妊婦独特の心理的葛藤が表れていると言える。

E の「生徒の身長を測る夢」(D8) は「愛おしい」といった感情は明記されていないが、D8 で E が感じていた感情は母性的感情とみなされるだろう。つまり、D8 は日頃関わることの多い英語教室の生徒との関わりを通して E の母性的感情を発達させたと考えられる。

わが子に対する感情を分析すると、自分の子どもがまったく登場していない E 以外の 4 人の夢（合計 153 個）のうち、自分の子どもが登場した（胎児・胎動も含む）夢は合計 25 個（16.3%）で、出現した感情は合計 46 個であった。子どもが登場する夢においては、「楽しさ・喜び」（7 個、15.2%）、「幸福感」（5 個、10.9%）、「安心感・落ち着き」（6 個、13.0%）

がよく現れた。「楽しさ・喜び」といった感情には、①母親としての自分を受け入れつつあること、②胎動の喜び、③育児生活についての肯定的イメージが関係していると言える。

筆者は「親愛感」が母性において非常に重要な要素であると考えている。「親愛感」が現れた B の夢のなかには、「赤ちゃんが男であろうと女であろうと、障害かあろうとなかろうと自分の子どもとして受け入れる心の準備ができつつあるのかもしれない」という母性的意識を発達させたものがあつた。つまり、B に限って言えば、「親愛感」には母性的意識を促す機能があると言える。

子どもが登場する夢に現れた「不安・心配」といった感情には、授乳や病気など育児に対する不安や、赤ちゃんを守らなくてはならないという母性的意識の発達に関係している。また、的場（1998）が指摘しているように、出産や育児という、来るべき事態に備えるという側面も有しているだろう。

5 人の夢には「楽しさ・喜び」「不安・心配」「焦り・緊張」が多く見られたが、これは、武内（1984）、的場（1998）、原田（2006）の結果と類似している。「楽しさ・喜び」の割合が高かった理由としては、5 人とも①妊娠を希望していたこと、②胎児の発育が順調だったこと、③妊娠経過が順調だったこと、④夫婦関係が良好で身体的、心理的サポートが得られていたことと関係があるだろう。また、そのように恵まれた状況下だったので妊娠生活に適応しやすかったためと思われる。一方で、「焦り・緊張」は B、D、E の夢のなかで高い割合で出現している。これは、3 者ともに出産までに終えなくてはならない課題や仕事があり、妊娠による生活の制限や社会生活に対する焦りが大きかったためと思われる。「親愛感」は B と C で現われた。B が子どもと関わるが多かったことや、C が妊娠前から甥や姪の面倒をよくみていたことと関係がある。しかし、E も職業上子どもと関わる機会が多かったが「親愛感」は出現しなかったため、さらなる調査・分析が必要である。

第 2 節 夢に現れた動物

妊娠初期に現れた動物は、B の夢では合計 3 個であつた。すなわち、第 1 は、「私を狙っている大きくて黒いスズメバチ」（妊娠 2 か月）、第 2 は「黄色いインコの子に襲いかかろうとする黒っぽい猫」（妊娠 4 か月）、および第 3 は「私と夫に甘えてくる小さなトラ猫」（妊娠 4 か月）。登場した動物は、①スズメバチ、②インコ、③黒猫、およびトラ猫である。また、C の場合、「知人から飼うように頼まれた目がくりくりしたグレーのウサギ」（妊娠 2 か月）がある。つまり、⑤ウサギのみであつた。

B の①スズメバチは、いつ始まるかわからない流産に対する夢主の不安や恐怖を現わしている。次に、②インコは、胎児の象徴である。③黒猫は突然の不幸を象徴している。「不幸とか死とか悪意」を現わす黒猫からインコを守ろうとした B の行動を考えると、わが子を守りたいという母性的意識が B に育ちつつあつたことがうかがえる。④トラ猫は、夢主にとって慈しみの対象であることと、夫と共同して世話しなくてはならない対象であることから胎児の象徴であることは明らかであろう。また、赤ちゃんを沐浴させるという母性的行動を練習させる夢であつた。⑤ウサギの色は、胎児が男か女かわからない不明瞭さと、育児に対する C の不安を現わしたものである。C はウサギに対する連想のなかでウサ

ギが胎児であると明言していない。しかし、「かわいい。小さい。自力では生きていけない」という連想を見ると、赤ちゃんとのウサギとが関連があるだろう。

妊娠中期に B が見た夢のなかに現れた動物は、①「病気にかかっているような白い猫」(妊娠 6 か月)と②「2匹の黒蛇と青と赤のまだら模様のある 3匹の白蛇」(妊娠 6 か月)であった。C は妊娠中期には動物が登場しなかった。D については、③「夢主を追いかけるエイリアン」(妊娠 5 か月)と、④「幼稚園に失くした書類を捜しに入ろうとすると、園児がウサギになっていた夢」(D5: 妊娠 5 か月)があった。E では、⑤「海に入っていると魚が水面近くをジャンプしながら泳いでいる夢」(D6: 妊娠 5 か月)があった。

①白猫は病院で治療が必要であり、歯科治療を要する夢主と関連がある。②白蛇は B の子どもを象徴しており、蛇がお腹の上を這う驚きと胎動の驚きを結びつけていることから、白蛇は胎児と結びついている。③ウサギに関する D の連想では、「人間と意思疎通できない感じ」と書かれているが、D はそれ以上の連想は進まず、子どもとの関連性はないものと結論付ける。E が見た④魚は、生命全体の象徴であったが、それ以上のことはわからなかった。

妊娠後期では、A の夢には、①ふぐが登場した。次に、B の場合、②牛、③馬、④象。⑤黒い熊、⑥日本犬、⑦生魚、⑧湯がいたかに、⑨ティラノザウルスが登場している。D の夢には、⑩熱帯魚と⑪イルカが登場している。C と E に関しては動物が現れた夢はなかった。

①ふぐは妊娠によって生活が変わる女性と生活が変わらない男性という A の男女観を現わしている。B の夢に現れた②牛、③馬、④象は破水に対する B の不安と関連があった。⑤黒い熊と⑥日本犬は妊娠には関係がない。⑦生魚や⑧湯がいた蟹は、自分の体臭に対する B の懸念を現わしている。⑨ティラノザウルスは出産に対する B の不安や恐怖がよく現われている。D の夢に登場した⑩熱帯魚と⑪イルカについては妊娠との関連性は確認できなかった。

以上のことから、妊娠初期の夢に登場した動物は、①流産に対する夢主の不安、②慈しみの対象としての胎児の象徴、および③育児に対する不安であった。妊娠中期には、①妊娠によって体力が落ちてしまった夢主の自己イメージと②胎動に対する夢主の驚きを現わしていた。それから、妊娠後期には、①夢主の男女観の象徴、②出産や陣痛に対する夢主の感情、③妊娠による身体的変化に対する夢主の感情が見られた。

第 3 節 夢に現れた未来場面

出産に関する夢は、B では合計 4 個である (D26、D44、D76、D92)。C では合計 3 個であった (D12、D20、D22)。A、D、E については出産に関する夢はない。B の場合、出産に関係した夢は分娩そのものの場面はなかったが、陣痛に苦しむ姿など具体的な場面になっている。出産に関する夢は、B の出産に対する不安をよく現している。また、出産を直前にし、①無事に分娩できるかどうかという不安と、②赤ちゃんが希望の性別ではないのではないかと不安、そして③赤ちゃんに障害があるのではないかと不安を持っていたが、夢を見たことによってそれらの不安が減少し、B の母性的意識や母性的感情が発達した夢があった (D92)。C の場合、具体的な出産場面はなく、微笑ましい内容のも

の多いのが特徴的である。Cが出産に対してそれほど不安に思っていなかったことと関係がある。また、胎児の発育に対する不安が現れた夢もあった。D22を見ることによってCが出産に対する心理的準備が整ったことを認識した。出産に関する夢がBと比較すると肯定的なものが多い背景としては、Cが妹の出産場面を見ており、出産に関する知識と経験があったことが関係している。

Bが報告した授乳の夢は合計3個である(D65、D69、D96)。Cでは、合計2個である(D6、D24)。A、D、Eでは妊娠期に授乳する夢はない。授乳する夢をはじめて見た時期は、Bが妊娠7か月で、Cでは妊娠3か月であった。個人差があるが、かなり早い時期から夢には授乳を練習させる機能があることがわかる。Bの場合、赤ちゃんに授乳してもうまくいかず赤ちゃんが泣き出す夢が多い。Bの授乳に対する不安は非常に大きかったようである。しかし、妊娠10か月のときに見たD96では、授乳が成功し、夢による授乳の練習がうまくいっていることがよくわかる。加えて、Bと胎児との間に親愛的な結びつき、いわゆる母性的感情が発達していたことがわかる。Cは妊娠初期というかなり早い段階で授乳する夢を見ていて、授乳を上手に行うことができていた点がBの場合と異なっている。Cの場合、夢のなかで授乳を幸せな気持ちで行っていることは、母性的感情や母性的意識が妊娠初期からよく発達していたことを意味している。

おむつ換えに関する夢を見た調査協力者と夢数は、Bで合計2個(D21、D26)、Cで合計2個(D6、D17)である。A、D、Eにはおむつ換えに関する夢は現れなかった。Bの場合、赤ちゃんがおしっこをし始めて慌ててシーツで拭いたり、おむつが濡れているので換えようとするがおむつがなくて慌てて買い物に行ったりと、夢のなかの情動は2つとも「困惑・混乱」のカテゴリーに入る。おむつ換えに対してBは強い不安を持っていたことがわかる。ただし、D26では何とかおむつを換えるという行動にまでBが変化している。おむつ換えを行えるくらいまでには母性的行動の練習がうまく行っていたと考えられる。あるいは、おむつ換えをしている母親としての自分を提示することによってBの育児不安を軽減させる働きがあったとも考えられる。Cの場合、妊娠3か月でありながら、「赤ちゃんが泣く→おむつを確認・交換する→母乳をあげる」という一連の作業を夢のなかで行っていることが特徴的である。Cの一連の母性的行動は具体性があり、非常に適切なものである。Cがおむつ換えに対する不安を全く感じておらず、それを楽しみにすらしていることがわかる。このことは、Cが甥や姪の世話をした経験があることが大きく関連している。

子どもの健康管理や安全管理に関する夢を見た調査協力者と夢数は、Bでは健康管理に関する夢が1個(D60)で安全管理に関する夢が1個である(D71)。Dでは、健康管理と安全管理両方に関する興味深い夢が1個報告された(D19)。A、C、Eには健康管理や安全管理に関する夢は現れなかった。Bの場合、子どもの健康管理に関する夢は子どもの健康管理に対するBの強い不安を現している。それと同時に、妊娠後期を目前に、Bのなかで「赤ちゃんの状態を母親である私が把握する」という母性的意識が発達していることがわかる。Dの場合、夢のなかでわが子と思われる男の子を海に落ちないように注意していたことは、事故や怪我からわが子を守らなくてはいけないというDの母性的意識が発達していたことを意味するかもしれない。また、夢のなかで男の子が刺激物を食べることがないように説得する姿は、子どもを管理・保護するという母性的行動と関連があるだろう。

入浴に関する場面が現れた夢は、Bで1個(D39)で、Cで1個(D23)である。しかし、Cの場合、母性との関連はなかった。Bの場合、入浴させる対象は赤ちゃんではなくトラ猫であった。記録からトラ猫は胎児の象徴である。Bは夢のなかでは夫と協力して子猫を洗っており、Bが濡れた子猫をタオルで乾かす一連の作業は育児に不慣れな両親が赤ちゃんを入浴させる姿とよく似ている。つまり、この夢は、赤ちゃんを入浴させる(ベビーバスで赤ちゃんを洗う場合には沐浴)という出産後の母性的行動を練習させていたと考えられる。

赤ちゃんをあやす場面が現れた夢は、Bで1個(D41)である。他の調査協力者では、赤ちゃんをあやす夢はなかった。Bの場合、赤ちゃんは友人の赤ちゃんであった。しかし、Bはこの夢は母性的行動を練習させる機能があったと書いている。また、胎動をはじめて感じたこととこの夢とを関連付けている。したがって、D41は友人の赤ちゃんという身近な対象を用いて夢主に赤ちゃんのイメージ化を図り、赤ちゃんをあやすという母性的行動を練習させていたと言える。また、Bが書いているように、D41における赤ちゃんとの親和的な関係は胎動のはじまりと関連がある。

しつけに関する夢を見た調査協力者と夢数は、Dで1個(D19)である。それ以外の調査協力者では見られなかった。Dの場合、夢のなかで3歳くらいのわが子に言葉による説得(しつけ)を行っていたことが大変興味深い。Dが夢のなかで幼児期における親子関係をイメージ化していることがわかる。また、Dが子どもを頭ごなしに叱ったり、怒ったりするのではなく、子どもが納得するまで何度も説得するという行動は、子どもに対する適切なしつけと言えよう。したがって、Dが夢のなかでしつけという母性的行動を練習していたと言える。また、夢のなかで夫と協力して子どもの要求に対応している姿は、現実生活におけるDと夫との関係性を現している。

第4節 母性を発達させる要因

母性的行動が現れた夢以外のものでも、母性と関連があったり、母性の発達を促したりしている夢があった。それらの夢には、①妊娠の受容(受胎、胎動、および妊婦検診)、②子どもに関する不安(子どもの性別、子どもの障害の有無、および子どもとの生活)、③母親としての自覚、④夫との関係性、および⑤共感性が現れている。

受胎に関する夢はBの合計2個(D1、D2)だけで、他の4人にはない。D1に関しては、この夢を見てBは自分が妊娠しているかもしれないと思い、実際に妊娠していたので、この夢は受胎夢と言える。Bは夢に現れた布団と子宮内膜を関連付けており、受胎夢の内容として、「布団に入れてあげる」という夢主にとっては今までと異なる行動を取っている。女性が母親になると今までとは異なる行動を取らねばならなくなることと関係があるかもしれない。また、子どもと添い寝することは日本的な母親的行動のひとつであり、欧米との文化的差異という観点からも非常に貴重な夢と言える。

胎動に関する夢を見た調査協力者と夢数は、Bで合計6個(D48、D49、D51、D56、D59、D84)で、Eで合計2個(D1、D3)である。A、C、Dでは胎動に関する夢は見られなかった。Bの場合、胎動に関する夢には、①流産の不安、②胎児との心理的つながり(愛着)の芽生え、③妊娠の喜びと受容、④激しい胎動に対する驚きや戸惑い、⑤子ども

の障害に対する不安、および⑥胎児のイメージが現れている。②と③はBの母性的感情を発達させている。Eの場合、夢内容に胎動は現れなかったが、夢に対する質問や追調査のなかで胎動についての記述があった。Eの場合、D1とD3はともに胎動がなかなか感じられないことに対するEの不安と、夫との良好な関係性を現している。

5人のなかで妊婦検診自体が夢に現れた者は全くいなかった。ただし、夢について考察したさいに、妊婦検診について書かれているものが、Bで合計3個(D29、D39、D92)、Cで1個(D20)、およびEで1個(D1)である。Bの場合、妊娠している実感が薄れ、母性的意識が揺らいでいる夢(D29)がある。これは、①妊婦検診の受診の間隔が長くなり、超音波検査で胎児を見る機会が急に減ったことと、②つわりが終わったことが関係している。また、夢のなかに母性的行動の場面が現れ、それにとまってBの母性的感情が発達した夢(D39)では、妊婦検診のさいに超音波検査で胎児が手足を動かす様子を見たことが大きく関係している。この夢とは逆に、超音波検査で胎児の様子を確認したためにBの出産不安や子どもの障害に対する不安が増加した夢がある(D92)。しかし、この強い不安夢はBの母性的感情や母性的意識を発達させている。また、不安に思っただけでも育児書以外で適切な情報や助言を得る場はほとんどなかったBの孤独な状況も現れている。Cの場合、妊婦検診によって子宮底が小さいことを知り、子どもの発育に関してCが大きな不安を持つようになった。夢のなかには標準の体重で生まれてほしいというCの願望が現れている。Eの場合、D1には子どもの発育に対する不安が現れている。Eのこの不安の背景には、①胎動がまだ感じられないことと、②妊婦検診の受診の間隔が長くなったことがある。3人に限ったことであるが、妊婦検診は期待と不安が大きく入り混じったものである。

夢のなかに登場した子どもの性別は、Bの場合、男児の夢は合計4個(D15、D21、D92、D96)、女児の夢は1個(D1)、不明は合計5個(D24、D26、D38、D69、D71)であった。Cでは、合計6個で、男児の夢が合計2個(D16、D17)、女児の夢が合計2個(D3、D6)、不明が合計2個(D12、D24)であった。Dでは、男児の夢が1個(D19)のみであった。AとEの夢には子どもが登場していない。Bで子どもの性別に対する強い不安が現れた夢は2個である(D15、D88)。Bの場合、子どもの性別に関する強い不安が現れた夢は、Bに対して①男児の良さ、②男児の場合であっても良好な親子関係を築いていること、および③男児の子育てについての具体的な助言を提示している。つまり、Bは胎児が希望の性別でない場合の心理的準備を夢のなかで行っていたと言える。また、性別に関わらず子どもを愛しいと思う母性的感情の発達を夢が促している。Bが男児の養育に対して強い不安があった理由としてBは、さまざまな事件で男性が加害者になっていることが挙げられている。しかし、不安が大きいままに男児を出産した場合、その後の愛着の形成に支障をきたす可能性がある。したがって、それを未然に防ぎ、男児であっても母性の発達を継続させるために夢が男児の場合の肯定的な親子関係や男児を育てるさいの助言を与えたとも考えられる。その結果、Bの育児不安は減少し、母性的意識がより発達した。

子どもの障害に関する夢は、Bで合計4個(D14、D38、D59、D92)である。A、C、D、Eでは見られなかった。Bの場合、夢に現れた障害は、自閉症とダウン症である。このことは、Bが児童相談所で勤務していたときに、自閉症やダウン症の子どもたちと関わった経験があったことや、職業上それらの障害に対する知識があったことが挙げられる。

妊娠初期・中期は子どもの障害に対する不安が強かったが、妊娠後期の夢では不安が減少していることがわかる。その理由として、出産間近になって、子どもに対するBの母性的感情（親愛感）が妊娠初期・中期よりも増加したことや、出産や育児に対する心理的準備が整ったことが挙げられる。

子どもとの生活に対する不安が現れている夢は、Cでは合計2個（D3、D10）である。A、B、D、Eにはない。D3とD10の共通した内容としては、①登場した子どもは幼児であること、②子どもの存在によって自分が思うように行動できないこと、および③他者の支援を得ていることが挙げられる。Cに限って言えば、③他者からの支援を得ることは、その当時のCには性格上考えにくいことであった。夢を見て、出産後からは上手に他者の支援を得ようとCが変化している。したがって、子どもが生まれてからは他者の支援を得よう夢が促していると言える。また、Cの「今までの性格を改め、育児生活をよりよいものにするために他者からの支援をこれからは得よう」という母性的意識の発達を促している。

母親としての自覚と関連のある夢を見た調査協力者と夢数は、Aで1個（D1）、Bで1個（D19）、Cで1個（D2）である。DとEからは報告されていない。Aの場合、D1は母親になるのに「大らかさ」が必要であることを提示している。子どものために自分のそれまでの性格や行動パターンを変えようという、母性的意識と関連がある。Bの場合、D19のなかで妊娠を自覚しており、お腹を外敵から守ろうとしている。つまり、わが子を守ろうとする母性的行動が現れている。また、わが子を守りたいという母性的意識も発達している。Cの場合、Bと同様に外敵（戦国武将）から赤ちゃんを必死に守ろうとしている。つまり、子どもを守ろうとする母性的行動が夢に現れており、母性的意識が発達していたことがわかる。

5人の夢には夫が登場し、夫婦の関係性を現す場合があった。夫との関係性を吟味するために、BではD28とD44、CではD11、DではD21、EではD1について分析した。分析の結果、Bの場合、夢を見たことで夫との関係性がより親密なものとなっていることをBが確認することができた。その結果、Bの妊娠の受容は進み、母性的意識が発達している。Cの場合、夢のなかには夫に対する肯定的感情が現れている。夢について吟味するなかでCは夫に対する信頼感を述べており、夫から適切な支援が得られていることがわかる。Cと同様にDの場合も、夢のなかには夫に対する肯定的な感情が現れており、夫からの支援が得られていることがわかる。Eの場合も同様の結果であった。次に、夫に対する否定的感情が表れた夢（BではD61とD79、CではD30、DではD9を分析した。AとEにはない。）について分析した。その結果、夢には①夫との関係性が揺らいでいること、②夫に対する不信感（義理の両親に対する不満が関係している）、③子どもが生まれてからの経済的負担に対する不安が現れていることがわかった。

5人のなかには他の女性に対する共感が見られる夢が報告された。すなわち、Bでは合計3個（D78、D90、D95）、Cでは1個（D9）、およびEでは1個（D3）である。共感の対象となった女性は、①不慮の事故等で母親になれなかった女性全体、②望まない妊娠・出産をせざるを得なかった女性全体、③出産することのできない性同一性障害の当事者（MTF）、④産後すぐに亡くなった祖母、⑤妊娠中も夜勤をしていた元同僚である。BとEの場合、夢を見たことで自分が置かれている状況が恵まれていることを確認し、妊娠の

受容が進んでいる。つまり、他の女性についての共感が深まることで母性的意識がより発達したと言える。Cの場合、夢を見たことで亡くなった祖母の人生について内省し、祖母の悲しみに深く共感している。また、追調査では残された夫と子ども（Cの祖父と父親）のその後の人生にまで内省が進んでいる。子どもや夫のためにもしっかり生きていたいという気持ちが大きくなっていったと推測される。したがって、3人に限って言えば、他者に共感する夢は、妊娠の受容や母性的意識の発達を促す機能があったと言える。

第5節 調査協力者の夢に現れた母性の特徴

Aは夢数が合計3個と非常に少ないが、それぞれの夢に対して深い考察を行っている。その結果、Aの夢には、妊娠中期には「母親になるのだから大らかにならないといけない」という母性的意識が現れている。妊娠後期には、胎児に対する母性的感情が発達している。Aの場合、母性的感情の発達には胎動が関係している。また、Aの夢には今後の社会生活に対する不安が現れており、それが母親としての自己を素直に受容できない要因である。出産後の社会生活に対する見通しや指針が得られたら、社会生活に対する不安が減少し、Aの母性がより発達すると推測される。

Bの場合、夢のなかの感情に関して、親愛感という母性的感情が妊娠初期と妊娠後期で出現している。妊娠を強く希望していたので、妊娠が判明して喜んでいた妊娠初期と出産前の妊娠後期にはBの胎児に対する期待が高まっていたからかもしれない。また、妊娠中期には育児生活に対する準備や修士論文という課題があったことが影響していると思われる。修士論文に関しては、「焦り・緊張」の感情が妊娠中期に多く出現していることとも関連があるだろう。Bの特徴としては、①妊娠中期ごろから母性的行動を練習する夢がよく見られたこと、②赤ちゃんが現れた夢の多くがBの出産や子どもに関する強い不安を現していること、③育児や子どもに対する強い不安夢はBの母性的感情や母性的意識の発達を促している場合があったことが挙げられる。また、妊娠全期を通して子どもの障害に対する不安が高かったが、それはBが心理系大学院に在籍していて知識があったことと、自閉症児やダウン症児と関わる経験があったことが関係している。加えて、Bの夢には他の女性に対する共感が深まる夢が見られ、それらの夢を見ることによって自分の恵まれている環境を確認し、妊娠の受容、つまり母性的意識が発達していた。

Cの夢に現れた母性の特徴として、①夢のなかの感情が「楽しさ・喜び」と「安心感・落ち着き」が妊娠全期を通して多く出現していること、②妊娠初期から適切な母性的行動や親和的な親子関係が夢に現れていること、③夢を見ることによって他者（産後すぐに亡くなった祖母）に対する共感が深まり、その結果夫や胎児に対する愛着や母性的意識が発達していることが挙げられる。①と②に関しては、Cは実家に住んでいたときに妹が里帰り出産をしており、赤ちゃんの世話をした経験が豊富にあったことや、物事を肯定的に捉えるCの性格特性が関係しているだろう。③に関しては、Cは亡き父親に赤ちゃんを会わせたかったという思いがあった。幼少時代、継母に気を使って生活していた父親のことが思い出され、子どものためには実の母親の存在が必要であると思っていた。

Dの場合、①妊娠中期以降、「楽しさ・喜び」が多く出現していることと、②夢（D19：9か月）に赤ちゃんではなく3歳の男児が登場し、夫婦でその男児を守ろうとしているこ

とが特徴的である。①と②ともに、妊娠経過が順調であったことと、夫や実家からの支援が得られていたことが関係していると考えられる。D の場合、母性的行動が現れた夢は 1 個 (D19) と少ないが、その夢は育児生活における良好な夫婦関係を伝えるものであり、また「子どもを守らなければいけない」という D の母性的意識を発達させる意義深いものである。

E の場合、妊娠後期からの調査であったので夢数が少ない。母性的行動が現れた夢や赤ちゃんが登場した夢はない。しかし、「英会話教室の生徒の身長を測る夢」(D8:7 か月) には、子どもの成長を楽しみに思っている E の母性的感情の発達が現れている。

以上のことから、母性に関連した夢を見る頻度は個人差が非常に大きかったことがわかった。夢に赤ちゃんとの親和的な母子関係が現れている C は、赤ちゃんを世話した経験が多い。一方、赤ちゃんの夢が現れなかったり、赤ちゃんが現れても情動が混乱している夢が多かったりした B、D、および E は、ほとんど赤ちゃんの世話をした経験がなかった (A は夢数が少なすぎて比較できない)。また 5 人を比較すると、A、B、C は夢について深く内省した結果、夢の伝達—警告機能が有効に働き、母性の発達がより進んだ。E と D は妊娠後期になって母性的意識や母性的感情の発達が見られたが A、B、C と比較すると非常に少なく、内省も深まらなかった。その理由は、A と C は筆者が何度か面接を行っており、調査協力者と調査者の間で信頼関係ができていたためであると考えられる。B はほぼ隔週毎に心理臨床家から夢分析を行ってもらっていた。一方で、D と E は遠方であったり、都合がつかずに面会することができなかった。対面による調査の有無が調査結果に影響していると思われる。

第 6 節 妊婦に対する心理的支援における本研究の意義

本研究では、共通の背景を有する 5 人の初産婦の夢を分析した。すなわち、5 人は概して、①高学歴で社会的に高い評価を受ける職業を経験しており、②年齢は 30 歳前後で精神面が安定しており、③夫も同様に高学歴で安定した職業を持ち、④夫も本人も妊娠を強く希望しており、⑤夫婦の関係は良好で、⑥妊娠経過が順調であった。調査の結果、個人差はあれど 5 人の妊娠期の夢のなかに母性の発達が見られた。また、5 人が何らかの不安を抱えていたことも明らかとなった。すなわち、A にとっては出産後の社会生活に対する不安、B にとっては子どもの障害に対する不安や出産後の社会生活に対する不安、C にとっても出産後の社会生活に対する不安や義理の両親との関係に対する不安、D にとっては出産後の経済的不安に対する不安、E にとっては英会話教室の運営に関する不安や胎児の発育に対する不安があった。5 人に限って言えば、社会的にも心理的にもリスクの低い妊婦であっても、妊娠期において大きな不安を抱えている場合があると言える。また、このように夢面接者と夢主が夢を吟味し、妊娠の喜びや不安を共有するという場があったということが、5 人の出産や育児に対する不安を減少させることにつながったと考えられる。また、もともと夢主自身が提示した夢について吟味することは、その時期に重要な事柄について共有でき、また夢主に関する重要な情報を得ることができる。また、夢についてともに吟味することは、単にデータを集めたり、心理査定をしたりするという点だけでなく、妊婦自身の自由な語りを可能にするので妊婦の母性の発達や人格的発達を促す側面もある。

確かに、現在の医療現場においても、産婦人科医、助産師、および看護師が妊婦の身体的、心理的支援に励んでいる。しかしながら、核家族化が進む現状ではBのように実家からの支援が得られないなかで妊娠、出産、および育児をしなければならない事例が増えている。たとえ社会的にも心理的にも安定しているように思われる妊婦であっても、産後うつなど心理的ケアや支援が必要となる場合がある。その場合、その妊婦が気軽に相談できる場が必要である。また、精神疾患を抱える（抱えていた）妊婦、配偶者によるドメスティック・バイオレンス（Domestic Violence：通称DV）を受けている妊婦、若年層の妊婦などに関しても妊娠期から虐待や精神疾患のリスクを査定し、妊娠期のうちからそれらのリスクを減らしていく必要がある。たとえば、一般的に「ご主人は育児に協力してくれますか（くれそうですか）」という質問を行った場合、多くの妊婦が「ええ」とか、「たまには」といった理想的な回答をするだろう。しかし、「印象的な夢を最近見ましたか」と質問し、夫に関する夢が報告された場合、「夢のなかであなたはご主人に対して怒りを感じていましたが、現実生活で怒りを感じることはありませんか」とより深い質問をすることができる。このように、妊婦に対してできるだけ侵襲的にならずに情報を集めるには夢は非常に有効である。夢面接のなかで経済的な不安が述べられれば、生活保護といった経済的支援の可能性を伝える必要があるだろう。また、妊婦の周囲に支援してくれる人がいないことがわかったら、子育て支援センターや子育てサークル、あるいはファミリー・サポートセンターなどの地域の社会資源に関する知識を与える必要がある。DVの被害にあっている妊婦であれば、DVの相談窓口やシェルターの存在などについてコンサルテーションをする必要がある。心理的側面而言えば、胎児への愛着や妊娠の受容を促し、母性を発達させることが必要である。5人の夢を見ただけでも、さまざまな不安が現れていた。また、不安に向き合った結果、母性がより発達した事例があった。したがって、妊産婦が自分自身の不安や葛藤を内省し、母性をより発達させるさいに夢分析は非常に有効である。

さらに、妊娠期における夢分析の利点として、妊婦が夢面接者と夢を吟味し、夢の意義を探索する作業を経験できることである。出産後、たとえ夢面接者と会えない状況となったとしても自分自身で夢を吟味し、夢（自分自身）からのメッセージや助言を見つける作業ができるようになる可能性がある。また、マタニティ学級に参加した妊婦に夢を語ってもらって、自分ならどうするかなど話し合ってもらうこともできる。また、共感性が母性の発達を促すことを考慮すると、他の妊婦の状況を知ることによって自分の置かれている環境や状況を受容し、母性の発達がより進む可能性がある。

このように、夢分析は妊婦の心理的支援において有効なので、心理状態を知るために産婦人科医療スタッフが妊婦に対して夢について尋ね、それについてともに吟味することは母子の愛着の面からも産後の相談体制の面からも効果があるだろう。妊娠初期、妊娠中期、妊娠後期、および産後1か月検診のときに相談スタッフとの面接（1回1時間程度）を実施するのが理想的であると考えられる。しかし、検診や分娩、新生児や産褥婦の健康管理等で忙しい助産師や看護師では実施するのはかなり困難である。交代制勤務でいつ誰が勤務しているのか妊産婦にはわかりにくく、またいつ分娩が始まるかわからない状況では、面接者も相談者も時間的、精神的余裕を持つことは難しい。したがって、妊産婦の心理的ケアを専門とする医療スタッフ、たとえば臨床心理士や精神保健福祉士などの存在が今後必要であると思われる。

第7節 妊娠期の夢に現れた母性に関する研究の今後の課題

本研究では、母性を操作的に定義したうえで、5人の調査協力者の夢に現れた母性を分析した。5人から合計165個の夢を縦断的に収集・調査した研究は国内外で全くない。しかも、感情の分類を新たに16個にまで設け、5人の心理的状态や母性的感情について吟味した。また、夢に現れた動物、母性的行動、夫婦関係、および共感性という観点から夢を分析し、5人の妊娠期の心理や母性の発達について明らかにしたことは非常に意義深いものとする。

しかし、これまでも述べてきたが、調査者が直接会えた事例とそうでない事例とを比較すると、直接会った事例のほうが夢主の内省が深まり、その結果母性の発達がより促進された。5人のなかには、自分自身について質問されるということが母性の発達を促進させたと思える事例があった。また、調査者と調査協力者が育児不安や妊娠の喜びを共有できたという側面も本研究にはあった。たとえば、Aは夢の数は3個であったが、一つ一つの夢を筆者と吟味し、夢の意義を考えることができた。その結果、それぞれの夢がAにとって非常に意味のあるものとなった。それは、Cについても言える。特に、Cの場合には妊娠初期から夢の意義や、妊娠・出産の経験を筆者と共有できた。その結果、Cは夢から育児に関する助言を得たり、分娩の苦痛に対する受容をすることができた。つまり、夢面接者と夢主との間で夢が吟味されることで夢の機能が発揮されたと思われる。また、DとEの場合でも、面接による調査があったならば、より母性の発達が促されたかもしれない。したがって、調査方法として月に1回、あるいは最低でも妊娠初期、妊娠中期、および妊娠後期に1回ずつ合計3回は面接を行う方が適切であると思われる。

夢に現れた母性に関して、母性の発達時期や発達の程度は個人差があったが、妊娠期において5人の母性的感情や母性的意識は発達した。(1) 妊娠期に母性が発達した初産婦は産後も順調に母性が発達するかどうかと、(2) 他の初産婦ではどのように母性が発達するのかという2つの課題が残る。(1) に関しては、出産後に継続して調査を行う必要がある。産後の育児支援という観点からも重要である。(2) に関しては、本研究では共通した背景を持つ調査協力者5人を比較・検討することによって、安定した背景を持つ妊婦であっても大きな不安や葛藤を抱えている場合があるということも明らかとなった。さらなる研究課題としては、①若年層、あるいは高齢層の妊婦、②大学卒・大学院卒以外の妊婦、③低所得者層の妊婦、④虐待のリスクが高いと思われる妊婦（精神疾患の既往歴があるもの、DVなど夫からの支援が受けられない妊婦など）といった虐待のリスクの高いと想定される妊婦の不安や葛藤、および母性の発達に対する調査研究が必要である。加えて、①高リスクの妊婦間の比較・検討と、②高リスクの妊産婦と低リスクの妊産婦との比較・検討が求められる。

引用文献

- 蘭香代子 (1989) : 母親モラトリアムの時代 北大路書房
- Deutsch, H. (1944) : *The psychology of women: A psychoanalytic interpretation*. Vol 2. New York: Grune & Stratton. (懸田克躬・原百代訳, 1964, 母性の心理/母性のきざし, 日本教文社)
- Garfield, P. (1990) : Woman's body images revealed in dreams. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and Dreamwork*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher, 152-160.
- Hall, C. S. & Van de Castle, R. L. (1966) : *The content analysis of dreams*. New York: Appleton-Century-Crofts.
- 厚生労働省 (2007) : 平成 18 年度児童相談所における児童虐待相談対応件数等
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv16/index.html>
- 厚生労働省 (2010) : 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について—社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会 第6次報告
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv37/dl/6-11.pdf>
- 船橋恵子 (1992) : 「母性」概念の再検討 船橋恵子・堤マサエ (著) 母性の社会学 サイエンス社, 1-62.
- 花沢成一 (1992) : 母性心理学 医学書院
- 原田梨沙 (2006) : 妊娠・出産・育児期における女性の心理的プロセス—ある初産婦の夢分析から 山口大学大学院教育学研究科修士論文
- 前原澄子 (2000) : 母性の発達 小嶋秀夫・速水敏彦・本城秀次 (編) 人間発達と心理学 金子書房, 203-219.
- 的場みぎわ (1998) : 妊娠・出産・育児過程における女性の夢の研究 箱庭療法学研究, 11(2), 85-92.
- Maybruck, P. (1990) : Pregnancy and dreams. In S. Krippner (Ed.), *Dreamtime and Dreamwork*. Los Angeles: Jeremy P. Tarcher, 143-151.
- 森田せつ子 (2005) : 母性看護の概念 後藤節子・森田せつ子・鈴木和代・大村いずみ (編) 新版テキスト母性看護 1 名古屋大学出版会, 1-19.
- 村井憲男 (1989) : 妊娠・出産による母性のめざめ 小児看護 12(4), 393-400.
- 名島潤慈 (2003) : 臨床場面における夢の利用—能動的夢分析 誠信書房
- 名島潤慈 (2008) : 夢のなかに表れる感情の分類 山口大学心理臨床研究, 8, 3-12.
- 名島潤慈・高岸幸弘・岡崎恵美子 (1997) : 夢分析に関する近年の動向 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, 46, 329-341.
- 名島潤慈・山根望 (2008) : 妊娠期における夢のなかの感情についての検討 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 25, 375-385.
- 大日向雅美 (1988) : 母性の研究. 川島書店
- Rubin, R (1984) : *Maternal Identity and the Maternal Experience*. New York: Springer. (新道幸恵・後藤桂子 (訳), 1997, 母性論: 母性の主観的体験, 医学書院)
- 佐々木くるみ (2005) : 親となることによる人格的発達に関する研究 母性衛生, 46(1), 62-68.
- 新道幸恵 (1990) : 親意識および親役割と援助 新道幸恵・和田サヨ子 (共著) 母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院, 97-128.
- 高石恭子 (2003) : 現代女性にとって母性を生きることの意味—人魚の物語に見られる母娘像の考察 松尾恒子・高石恭子 (編) 現代人と母性 新曜社, 213-234.
- 武内珠美 (1984) : 妊婦に関する夢の研究—夢に表わされた情動と夢内容について 広島大学大学院教育

- 学研究科博士課程論文集, 10, 139-145.
- 山根 望 (2006) : 妊娠・子育て期における夢の機能—ある初産婦の能動的夢分析から— 山口大学心理臨床研究, 6, 30-41.
- 山根 望 (2011) : 妊娠期における夢の機能—初産婦 5 人の夢分析から— 東アジア研究科, 9, 23-42. (初校校正済み)
- 山根 望・藤井優子・名島潤慈 (2008) : 母性・母性意識・母親意識・母親同一性の概念の検討—山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 26, 177-187.
- 山根 望・河合可南子・八田有加・佐藤直弘・渡邊ふくみ・名島潤慈 (2006) : 妊娠と出産に関する夢研究の展望—山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 22, 193-204.
- 山根 望・名島潤慈 (2009) : 初産婦の夢—妊娠・育児期の夢に現れた動物の意味の検討—山口大学教育学部論叢, 58(3), 241-249.
- Van de Castle, R. L. (1994) : *Our dreaming mind*. New York: Ballantine Books.
- Winget, C. & Kapp, F. T. (1972) : The relationship of the manifest content of dreams to duration of childbirth in primiparae. *Psychosomatic Medicine*, 34, 313-320.

夢記録のつけ方

夢記録のつけ方、及び質問内容は、指導教官である名島潤慈教官の著書『臨床場面における夢の利用 能動的夢分析』（2003, 誠信書房）を参考にしています。

- ①夢番号、日にち、曜日、夢を見た時間、夢を見た場所、妊娠週数を記入してください。
- ②見た夢にタイトルをつけるとすると何でしょうか。
- ③夢内容：夢の内容をできる限り詳しく書いてください。人、数字、色など覚えている限りのことを書いてください。
- ④目覚めたときの感想：夢から覚めた時に思ったことを書いてください。ex. 「ああ、怖かった」
- ⑤感情「夢のなかの感情」：夢のなかの感情を書いてください。ex. 「追われて不安→助かって安堵」
- ⑥全体感想「全体感想質問」：この夢全体についてどう思われますか。この夢についてのあなたの感想はいかがですか。
- ⑦夢ポイント「夢ポイント質問」：この夢のポイントはどこにあると思われましますか。この夢の強調点はどこでしょうか。
- ⑧伝達－警告「伝達－警告質問」：この夢からのメッセージは何だと思われましますか。この夢が何かをあなたに警告しているとしたら、それは何でしょうか。

わからなかったら「わからない」もしくは「思い浮かばない」、「特になし」と記入してください。他愛もないと思われた夢でもできる限り記録してください。面倒くさい作業かもしれませんが、どうかよろしくお願いします。質問の内容や記入方法がわからなかったら連絡してください。

山根 望

資料 2 夢の記録用紙

夢番号：	
日にち：	
曜日：	
夢を見た時間：	
夢を見た場所：	
妊娠週数：	
夢のタイトル：	
夢内容	
目覚めた時の感想	
夢のなかの感情	
全体感想	
夢ポイント	
伝達－警告	

資料 3 調査協力者 5 人の夢の概要

1. 初産婦 A

妊娠月数	夢番号	夢内容
6 か月	D1	家のベランダでトマトを育てていて、たわわに実っている。そこに姉と甥と姪が遊びに来る。トマトソースにして少しピザにしようと思っていたけれど、いつのまにか姉がすべてピザにしてしまってちょっと悲しくなる。
7 か月	D2	社宅のようなところにいる。5、6 キロ先のところで火事が起きているので屋上に見に行く。一昨年同僚だった女性教員が火事を消そうとしている。「無理だ」と思ったが、消火の手伝いをする。(場面転換) 塾のような建物にいて、若い男性講師たちが生徒を教えている。火事の場面で出てきた女性教員が出てきて、「私もう辞めるわ」と言う。若くて新しい講師たちに対してライバル意識を感じて、「(ライバル意識を持つことは) いけないわ」と思っている。
8 か月	D3	海辺の港に夫と一緒にいる。海に浮かんでいる 1 メートルくらいのとらふぐを発見する。周りの人がとらふぐを食べようと大鍋を持ってきて、大胆に料理する。さあ、食べようというときになって、とらふぐに毒があることを思い出して食べるのをやめる。周りの人は食べていたが、「食べなくて良かった」と満足感を覚える。

A の夢は合計 3 個と少ないので、妊娠各期に分けずに表記した。妊娠中期に 2 個、妊娠後期に 1 個である。

2. 初産婦 B

① 妊娠初期

妊娠月数	夢番号	夢内容
1 か月	D1	友人が近くに座っている。私は布団のなかに入って寝ようとしている。友人は2歳くらいの女の子をひざに抱いている。女の子が、私の布団の中に入ってこようとする。私は「この子はどうしても私と一緒に寝たいんだな」と思って、その女の子を布団の中に入れてあげる。布団が狭くなって寝心地が悪いが、女の子の体を感じて何だか幸せな気持ちになる。
	D2	明け方、布団のなかで起きて、基礎体温計を口の中に入れる。そうしたら、デジタルの表示がみるみるうちに上がって行って、38度以上なった。それを見て、「わぁー、こんなの初めて!!」と嬉しいよりもびっくりする。
2 か月	D3	大きくて黒いスズメバチから狙われている。姿は全く見えないけど、イメージでわかる。実家の両親が守ってくれているが、いつどこでその黒いスズメバチが襲ってくるのかわからない。襲われて、命がなくなったらどうしようとそればかり。ずっと不安で、いろいろな場所に行くが、スズメバチは現れなかった。でも、すごく不安な気持ちでいる。
	D4	かなり大きなデパートに行く。入り口でおばさんたちが群がっている。がんばって品物の方へ分け進んだ。白い発泡スチロール箱のなかに苗木が1本あった。15cmくらいの高さで、ポトスをもっと丸っこく、肉厚にして、白っぽくしたような感じ。でも、幹はしっかりしている。「良かった!残ってた!」と手に取った。嬉しかった。手に取ったら、1本だと思っていたけれど、途中から2本になっていた。家に帰って、一辺30cmの正方形のプランターらしき黒い容器に土を入れて、苗木を植えた。植えたら、1本はもとのポトスのような観葉植物だったが、もう1本がなぜかあやめか花しょうぶの葉のような植物になっていた。夫に、「もう1本が別な植物になっちゃった。こんなこともあるんだね」というようなことを言っていた。夫は「へえ〜」というような表情をしていた。
	D5	友人らしき3人と、お昼はどこで食べようか、と話している。地下にあるロコモコのお店に行く。南欧風のような店で、入口の階段の下にある席に通される。背の高い、かっこいい人が先に座った。私は、そのかっこいい男性の真向かいに座る。鶏肉料理を注文しようとする。(場面転換) 自宅のトイレにいる。用をたしたら、出血していた。大量ではなかった。「ああ!とうとうこんなことに!病院に行かなくちゃ」と思っている。
	D6	楕円形の白いテーブルの円形のところに私とクライアントらしき女性が座っている。女性の顔や洋服は覚えていないが、上品な感じの人。何を話しているのかはわからないが、私はいろいろと質問をして、それらの質問によってその女性の内省が深まっていることがわかる。私は面接の手ごたえを感じている。夢のなかの私はプロとしての意識に満ちていて、自信のようなエネルギーに満ち

		た感じ。
	D7	心理関係のシンポジウムに出席している。隣を見ると、広島市長が座っていた。私は広島市長と何か雑談している。そうしたら、広島時代の恩師が出てきた。恩師に偶然会えて嬉しかった。広島市長が私に向かって、「君はこれから CNP をしたらいい」と私に言った。CNP はよくわからなかったけれど、子育て支援のことだとぱっとわかった。「子育て支援か。それはいいかもしれない」と思った。私は指針をもらってエネルギーが満ちている感じ。「よし！やるぞ！」と思っている。
	D8	手押し車を引いて小学校時代の通学路を歩いていたら、脳性麻痺の知人が手押し車を引いて歩いているのを見かける。彼が動けるようになったことに感動する。それから、幼い少年に追い抜かされてショックを受ける。田んぼのなかで女性芸能人が一心不乱にパンを食べているのを見かける。
	D9	修学旅行で、以前留学していたアリゾナ州を訪れる。アリゾナ州が NY 州に半分合併されると現地の女性から聞いてショックを受ける。次の日、その女性と泣きながら別れをする。
	D10	<p>保健師をしている友人にホテルに会いに行く。友人が忙しそうにいろいろな人の名づけの相談に乗っている。忙しそうだったので帰ろうかと思ったら、友人が来て「今ちょうど時間が空いたから赤ちゃんの名前見てあげようか」と言った。ソファに座ったら、向かいに男性芸能人が座っていた。彼は自分の子育ての思い出をずっと話していて、保健師の友人に名づけをみてもらうことはできず、残念に思う。</p> <p>(場面転換) 大学に行こうとしているが、ものすごい大渋滞で車を置いて歩いて学校に行くことにした。歩いていると、すごい雪が道路に積もっていた。赤い車が道路に乗り捨ててあって、それが道をふさいでいた。その他にも何台か車が乗り捨ててあった。雪道をそれでも歩いて行った。</p>
3 か月	D11	小・中学校の時の同窓生と話している。なぜか男の子と同じ布団に寝ている。彼は私とセックスをしたいようだったけど、私は乗り気になれなくて布団を出る。木造の小学校らしき建物の中に入ると、2 階はすべてトイレだった。トイレに入ると、人形が 3 体置いてあることに気づいた。すぐに、「うわ！嫌なトイレに入ったな」と思った。私が動くと人形の目が一緒に動いていることがわかってすごく怖くなってトイレをでた。それから、今度は大学らしき廊下を歩いている。廊下で出会った中年の霊能者に人形ことを相談すると「気にしないでいい」と言われる。
	D12	デパートでチョコレートケーキを探す、ケーキ屋さんがいない。諦めて夫とともに車に乗る。クレープを買うことにしたら、自分のものも買って夫に頼まれる。夫はなぜか商店街から一番遠くの所に車を停める。「もう！私は妊婦なんだからもう少し近くに止めてくれればいいのに！」とちょっと怒って車を出る。クレープ屋さんに行くと、値段が高くて買わずに出る。それから自宅で夫とともにクレープを焼く。夫のクレープに T シャツの切れ端を入れる。夫が

		食べにくそうに食べている。自分のクレープにはシャツの切れ端を入れずに作って、食べようとしたところで目が覚めた。
D13		3階建てのアパートにヨーロッパ人の男女ともにいる。外の庭くらいには出られるけれど、外でナチスが監視している。一緒にいる男性はナチスから身を隠している感じ。私が庭に出ている間に、男性が捕まった。強制収容されることになったので、部屋に戻って収容所に行く準備をした。私たちは白い、東欧にあるような古い車に乗り込む。他の女性は気楽に考えていたが、「これから行くところは恐ろしいところよ。これからはちょっとしたことが命取りになるよ」と彼女達に言う。収容所について、ダンボールがあったので必死で取りに行く。心のな中は悲しさでいっぱいだった。一生懸命ダンボールを引っぱっていた。
D14		授業のあとで、みんなに「妊娠しました」と報告する。みんなちょっとびっくりした様子。発達障害が専門の先生が「妊娠したのならこれを飲むといい」と言って、リンゴ酢らしきものが入った大きな瓶をくれる。
D15		平屋の日本家屋に住んでいる。庭には夫もいる。でも、2人とも40代半ばくらいだった。空を見上げると、曇っていて雪がちらついている。夫と「ここでこんなに大雪が降るなんて珍しいね」というような会話をしている。門から中学1、2年生くらいで学生服を来た男の子が自転車に乗って庭に入ってくる。その男の子を見た瞬間、すごく嬉しかったし、安心した。「大雪の中、よく自分で帰ってきたね」というようなことを夫と私はその男の子に言った。「今のうちに雪かきしようか」と夫が言って、3人で雪かきをはじめた。
D16		携帯を見ると着信がいっぱいあって、かけた人の名前は何れも知らない人ばかり。知らない男性から電話がかかってきて、知床にまた遊びにおいでと言われてる。結婚したことを告げると、男性と一緒に遊びにおいでと言って、電話を切る。
D17		幼い頃よく遊んでいた女の子たちや知らない女の子とソフトバレーをしている。私はルールがよくわからないけれど、参加している。本当に真剣にソフトバレーをしている。
D18		怪物が襲ってくるということで、大学中がパニックになった。その怪物をなぜか待ち望んでいる人もいるけれど、私は早く逃げなくてはいけないと思って、赤い車に乗った。怪物が車のところまで来て車の上に乗った。怪物が窓から車内を覗いた。怪物は、パンパースのキャラクターの白いくまに似た、大きな白いテディベアだった。怪物の目がすごく怖かった。
D19		私は白い壁で白い床の部屋に横になっている。白髪のおじさんが私の近くに座って、私の下腹部を押す。私は怒って、「お腹を押さないで！」と言ったけれど、おじさんはまたお腹をぎゅっと押さえる。私はかなり怒って、「お腹を押さえないでって言ったでしょう！」とおじさんに言っている。

	D20	南仏のようなところで友人とともに海辺にいる。洋服のまま海に入ると、すごく気持ちがいい。潜ってみると、手すりの下には足場が作ってあった。手すりの中央を見ると、赤ちゃんがかなり深いところでプカプカ浮かんでいた。「赤ちゃんがいる！」とびっくりしたけれど、赤ちゃんは寝ているように気持ちよさそうな感じ。赤ちゃんのお母さんが近くにいることが何となくわかる。「赤ちゃんはこうやって遊ぶのが好きなんだな」と思う。
	D21	私のお腹はかなり大きくなっている。私は「6 か月になったからちよっと出してみよう」と言って、どういうわけかお腹の赤ちゃんをお腹から出してベッドに置く。赤ちゃんは大泣きしている。そうしたら、赤ちゃんがおしっこをしはじめる。私は慌ててベッドのシーツでおしっこをふく。赤ちゃんにはおちんちんがあったように思う。どうやって入れたのかわからないが、赤ちゃんをお腹に戻すとまたお腹が大きくなる。
	D22	実家のとなりでできた占い師の家に、小中高の時の同窓生が相談にくる。占い師は「あなたは〜だから、いけないのよ」とか何とか言っている。それから、実家の庭に長机が並べられて、地区の人たちがみんな集まって宴会がはじまった。私はみんなにビールを注いでまわっている。
	D23	駅の近くに良さそうな物件を見つけて、一人で下見に行く。その部屋に行こうとマンションの中に入ると、不良たちがたむろっていて、スナックのような部屋にも不良たちがいっぱいいた。私は何だか嫌な気持ちだったけれど、とりあえず部屋を見ようと探す。しかし、古びた殺風景な部屋で借りる気になれなかった。(場面転換) 仲の良い先輩夫婦の新居の引越し手伝いをしに来た。古びていて前の住人のゴミがあって嫌な気持ちになる。
	D24	近所の人たちが群がっているのでのぞいてみると、生まれたばかりの私の赤ちゃんがいる。赤ちゃんは男か女かわからないが、きれいなぱっちり二重だったので、すごく嬉しくなる。 それから、なぜか長屋らしき家の中に入ると黒い霊柩車らしき車が止まった。車内には実母がいて、明るく手を振りながらもう帰っていいよと言う。
	D25	小中高の同窓生が寝室に入ってくる。彼はなぜか歌舞伎のような衣装と化粧をしている。彼が、「今までずっと踊りを習っていて、今までは藤娘ばかりだったけど、今度初めて大きな役をもらえたんだ」と言う。私は彼に、「役がついてよかったね」と話している。
4 か月	D26	私は分娩台に上がっている。「長くなるかもしれない」と思っていたが、2時間ほどで案外楽に赤ちゃんが生まれる。男か女かはわからない。生まれたらすぐに退院させられる。赤ちゃんが泣き出す。お尻を触ったら濡れている。私は慌ててデパートにベビー用品を買いに行く。うちに帰って、赤ちゃんのオムツを何とか換える。でも、どうやって換えたのかは覚えていない。それから、買って来た服を着せて、抱っこする。赤ちゃんが可愛くてたまらない。
	D27	算数の課題は簡単だったが、国語の授業では質問がいやに難しく、一生懸命考えるのだけどなかなか答えが思い浮かばない。

D28	夫と手をつないで一緒に山道を歩いている。左手にすごくきれいな竹林が見えて、「ほら、見て。すごくきれいな竹林だね」と私が言うと、夫が「本当にきれいだね。こういうのはいいね」と言っている。それからお寺の庭に出ると、お惣菜を売っていた。「こういうのどかなのはいいな」と思っている。
D29	病室で従姉たちと会っている。2 人とも女の子を産んだ。ふとふり返ると、赤ちゃんが黄色いインコの子どもになっている。そのインコに向かって黒っぽい猫が襲いかかろうとしていた。私は必死になって猫を追い払い、インコを安全なところに保護しようとするけれど、インコはインコで私の手からパタパタと飛んで逃げる。ようやくインコを捕まえて、従姉（長女）に「ちゃんと見ておかないと危ないよ」と言ってインコを預ける。(場面転換) 旅行に来ていて、お経を唱える男性が自転車で追いかけてくる。「お腹は大丈夫かな」と心配になりながら走って逃げる。それからバスに乗ると、小中高の同窓生に出会う。彼女も妊娠 4 か月と知って嬉しくなる。
D30	友人と港に行き、フェリーに入った。しばらくすると、乗客がパニックになってわれ先にと出口に向かおうとしていた。殺人鬼が刃物らしきものを持って追いかけてきた。パニックになり、必死になって出口に向かって逃げた。道路に出ると男性歌手の野外ステージをしていた。歌手が気に入らなくて嫌な気持ちになった。(場面転換) 夫とともに夜道をドライブしていたら、明るい場所に出た。すると、長机にお寿司がたくさんあって、嬉しくなって食べようとした。
D31	私は病院らしきところで小中の同窓生と偶然出会う。友人が「実は 2 人目を妊娠していて、今 7 か月なの」と答える。すると、突然大地震が起きた。私と友人はかろうじて建物から脱出できた。友人が急に産気づいてうんうんとうめきながら倒れた。私は心配しながら友人を見つめている。「無事生まれても 7 か月でこんな状況だと赤ちゃんは助からないだろうな。私はまだ 4 か月だから産気づくことがなくてよかった」と思っている。
D32	実母が運転した車に乗ってガソリンスタンドに寄った。白い大きな POLICE と書かれた箱を拾い上げたら、すごい大声でどなられた。振り返ると、痩せ型の白人の警官が銃をこちらに向けて何か叫んでいた。「撃たれる！」と思った瞬間撃たれた。弾がのど元あたりを貫通したのがわかった。私はその場に倒れて、目の前が暗くなった。「私は死ぬんだ」と思った。ふと実母のことが気になって、大声で「お母さん！どこ！痛いよ！痛いよ！」と叫んだ。何とか立ち上がることでできて、母親とともに実家に逃げ込んだ。父親もいた。草むらのなかを走って逃げているところで目が覚めた。
D33	お腹に赤ちゃんがいることがわかってはいたけれど、中年のドイツ人男性と恋人になって結婚した。その男性が退職して、スイスに隠居生活することになったので、彼と一緒にスイスに行くことになった。
D34	小学校から大学まで一緒に、今年 3 月に女の子を産んだ仲のよい友人が縁側らしきところで日向ぼっこしていた。彼女の側には彼女の赤ちゃんがいた。「本当にすごく可愛いね！」と言って、赤ちゃんを抱き上げ、友人と赤ちゃんと 3

		人で写真を撮った。
D35		友人に自転車を貸すために自転車を全速力でこぐ。「お腹に赤ちゃんがいるのに大丈夫かな」と少し心配になる。それから、夫とアメリカのアリゾナ州をドライブして、その友人に電話で道を教える。
D36		家庭科の試験勉強をしている合間に、売店でラズベリーとブラックベリーを買って食べる。甘酸っぱくておいしい。それから、実家の近所に住む女性から結婚指輪を交換して欲しいと頼まれるが断る。
D37		実母と中古車の販売店に来ている。何も買わずに店を出ることにした。保健師をしている友人が街中に遊びに行くので一緒に行こうと誘う。実母が仕事ももうすぐあるというので、どうして早く言わなかったのかと怒って家に戻ろうとする。
D38		古い家の広い和室に寝ている。外から大勢の子どもたちが楽しげに遊んでいる声が聞こえる。ふと気付いたら、縁側を何人か同じ服を着た子ども達が歩いている。何となくみんな障害がある子ども達であることがわかっている。もう暗くなっていて、私と夫は布団に横になった。それから、庭から白い服を着た赤ちゃんが飛んで来た。性別は不明。「お母さん、お母さん！」と赤ちゃんが叫んでいる。私は怖くて、夫を起こそうと夫のそばに行こうとしたがなかなか体が動かなくて行けなかった。少し彼に触れた時、「これは金縛りだ！」と気付いた。
D39		玄関のドアを風通しのため開けていたら、小さいトラ猫が家のなかに入ってきた。その子猫は部屋に入って私のあとをついてきて、甘えていた。夫にも甘えている。とても可愛らしかったので、「この猫、飼おうか」と夫が言った。とりあえず、子猫をお風呂に入れて、夫と2人で洗った。それから、私が子猫をタオルでふいた。子猫はぶるぶると震えていたけれど、乾いたらまた甘えていた。「この子猫、飼いたいけど、アパートで飼うのは無理だし、あんまり可愛がったら他の猫を連れてくるかもしれない。どうしたらいいかな」とぼんやり考えていた。

② 妊娠中期

5 か月	D40	授業の資料をプリントアウトしようとするが、適切なアイコンが見つからずにおろおろする。他のパソコンで試してみるがどれもアイコンが見つからずデータが出せずにすごく焦っていた。教室のようなところで授業が始まった。でも、私の担当なのに、他の人の夢についてのものであった。私は居心地が悪くなって教室の外に出た。廊下の窓から外を見ると、保健師をしている友人が他の女性たちと一緒にいた。「彼女の仕事が終わったら少しおしゃべりできないかな」と思いながら友人の様子を見ていた
	D41	研修所らしきところにいる。夫と友人は採用試験の対策をしなくてはならない。私は隣の部屋で友人の子ども（生後 11 か月）のお守りをしている。抱っこした

		り、あやしたり。「勉強終わるのまだかな？」と思いながらお守りをしている。
	D42	ある先生が心理学系の雑誌を見せてくれた。そのなかに、母子関係についての論文が掲載されていた。
	D43	スペースシャトルで宇宙に行った。私いつのまにかどこかの惑星に直陸していた。急に周囲がざわついて、理由はわからないがそこを離れないといけなくなった。急いでシャトルに乗ったが、同じシャトルの乗組員の1人が乗り遅れて宇宙に吸い込まれていった。(場面転換) NY にいて、同じ年齢くらいの白人男性と一緒に街を歩いていた。夫は宇宙ではぐれてしまったか、死んでしまった感じ。白人男性からプロポーズらしき言葉を言われた。男性がプロポーズらしき言葉をまた言った。私は夫がいないことが寂しくて、その男性の部屋を出た。
	D44	いきなり陣痛らしきお腹の痛みが来たが、しばらくしたら痛みがなくなった。その後、実母と陣痛についておしゃべりする。(場面転換) 銀色の自転車に乗っている。その自転車がすごく重くてたまらない。重くて重くて仕方がないので、ちょっとうちに寄って自転車を調べた。タイヤの空気がなくてぶよぶよだった。夫が「空気入れならあるよ」と言って、薄いオレンジ色の道具箱から銀色の空気入れを取り出して自転車の空気を入れはじめた。夫が空気を入れてくれている姿をみて嬉しかった。
	D45	貨物船に乗ってあの世に行こうとしている。船が沈みそうになるが、何とか港に着く。次の船に乗る運試しをしようと宝くじを買おうとする。
	D46	スペインの修道院で大勢の人たちとともに食事をする。それから、子ども達とトロッコ列車の周りで遊んでいた。列車に乗ったらすごいスピードで走り出し、イタリアに着いた。
	D47	実家に帰ると実父が仕事を辞めていた。実母が自分が働くから大丈夫だろうと言うものの、自分勝手な理由で仕事を辞めた実父に対して怒る。
	D48	おそらくトイレに入ったら、パンツが血で真っ赤になっていた。どきどきとした。
	D49	農場に行くと、酪農家の女主人がチーズや乳製品を売っていた。白いピザを1ピース切ってくれて、それを口に入れたら、ピザじゃなくてお菓子だった。すごく甘くて、おいしかった。お腹の中がぐるぐる動き出して、びっくりするほど元気な胎動を感じた。「お腹の赤ちゃんもよっぽどおいしいみたい！すごく動き出した！」と大声で言った。
6 か月	D50	人魚で、巫女になっていた。外国人の男性が「私はもともと長崎にいた。それから本国に帰ったけれど、どうしてもあのときのことが忘れられない」と私たちに言ったので、私と他の女性は彼が喜びそうな昔の日本のものを探しに出かけた。頭のなかでは彼が明治か大正に日本にいたような感じだった。展覧会のようなところに出た。人がいっぱい、浮世絵がたくさん飾ってあった。「これでいいかもしれないな」と思ったけれど、「他になつかしいものがあるのかもしれない」と思って、今度は海深くに潜っていった。暗い海の底を目指していた。
	D51	中学校らしきところにおいて、教室のなかにいる。40人ほどのクラスで、私はセーラー服を着ていたと思う。後ろにいた男性が「お腹が大きいのにこういうと

		ころにいて大丈夫？」と言った。椅子に座っているのがしんどくなって、椅子からおりて床に座った。そうしたら、楽になってお腹の赤ちゃんの胎動がよくわかって安心して満足した。
D52		実家にいた。2、3年前に死んだ白い猫がいてどうも病気になっている。研修の昼休みの時間に猫の薬を買いに行くことを決めて、小中学校のころ仲の良かった同窓生（男）が運転して連れて行ってくれることになった。母親に電話をして、病院の場所を聞いていたが場所がわからない。私は必死に動物病院に行く道を思い出そうとしている。何とか思い出せたところで目が覚めた。
D53		友人たちと帰る途中で道に迷ってしまう。急いで走って駅に向かった。しばらく走ったところで、「私は妊娠しているんだって！走っちゃいけないのに！」とお腹の赤ちゃんのことに気づいた。駅についたら、ものすごく急な下りの階段があった。もう少し先にエスカレーターがあって、「あっちにエスカレーターがあるよ」と私はみんなに言ったけれど、みんなが階段を下りだしたので、「もしエスカレーターで行ってみんなと落ち合えなかったらいやだから、階段にするか」と思って、すごく急で狭い階段を恐る恐る下っていた。満員電車で座れるだろうかと思って電車に乗ろうとした。
D54		起きてみたらおもらししていた。トイレに行って用をしていた。「私、この年になっておもらしたよ...」とすごくショックだった。布団を干そうとしたら、畳までぐっしょり濡れていた。こんなすごい量だったのかとまたショックを受けた。
D55		研修所のようなところで、自己紹介をしなくてはいけない。私の番になったので、自己紹介した。新姓を名乗っていた。（場面転換）大学の先生が美術の先生になっていた。2枚の絵を提出しないとイケなかった。私はオリジナルのものをがんばって描こうとしていた。他の人が絵を写して1枚にしようとしていた。「先生はオリジナルのものを描けと言ったのに、それで1枚に数えられるのかな」とちょっと疑問に思っていた。（場面転換）高校3年生の時の担任（化学）が、「働きながら勉強しなさい」と私に言った。
D56		友人の実家に行く。夜で布団を敷いて寝たら、黒蛇が2匹出てきて、布団の側を這っていた。びっくりしていたら、その黒蛇が襖の間をすりぬけて押入れに入ってしまった。薄い青と赤のまだらの模様がある白蛇が3匹私の布団の中に入って来て、すごい勢いでお腹の上を這って黒蛇が入ってしまった押入れのなかに入ってしまった。驚きでいっぱいだった。（場面転換）夜に母親が運転する白い軽自動車に乗って夜道を走っている。母親が「門が一番汚れている家を供養しなくちゃいけない」と言った。暗闇のなかに3軒の長屋が浮かび上がっていた。どの家も玄関がいたずら描きなどで汚れていた。私は供養するためのご飯を用意している。なぜかご飯をお箸でぐるぐるかき混ぜている。ご飯が少しだけ床にこぼれた。そのこぼれたごはんが、ぴよこ、ぴよこ動き出して私のほうに向かってきた。私は恐怖でおののいた。
D57		母親と洋服を買いに行った。いろいろと試着したけれど、赤いジャケットと青

		<p>のスウェードかコーデュロイのズボンを買った。その後、その洋服を来て、自転車で乗っていた。携帯電話に夫のおじさんから電話があった。電話をかけなおそうと思って電話をかけようとするけれど、なかなか上手く番号を押せなくて焦る。</p>
7 か月	D58	<p>夫と一緒に喫茶店らしきところに入った。ログハウス風でいい雰囲気のお店。ガラス棚には焼きたてのパンがヒーターで温められて、たくさん置かれていた。その下の段にはケーキ類が冷やされて陳列してあった。誰もいなかったが、夫とケーキを取って、紅茶を飲んだ。紅茶もケーキもおいしくて大満足だった。ケーキは多分チョコレートケーキ。2 個目のケーキはレアチーズケーキでこれもとてもおいしかった。「お店の人が帰ってきたらお金を払えばいい」と夫に話している。レアチーズケーキを食べ終わるところでお店の人（たぶん 30 代半ばの女性）が帰ってきた。「勝手に紅茶も飲んですみません」と謝った。「いいですよ」というような感じでお店の人は笑っている。レアチーズケーキがおいしくて幸せな気分で、そうしたらだんだん眠くなって夢のなかで寝てしまった。</p>
	D59	<p>何かの説明書（白い厚紙にオレンジ色の文字）に、「胎動の激しい胎児にはダウン症の疑いがあります」と書かれていて、「どうしよう」と不安になった。</p>
	D60	<p>月夜のなか川辺の道を歩いている。手のなかには裸の赤ちゃんを抱いている。赤ちゃんを見ると、脂汗がいっぱい出ていて、ぐったりしている。びっくりして、汗をぬぐった。「これは病院に行かなくちゃ」と思って、来た道を引き返して自分のアパートに帰った。帰る途中で、赤ちゃんが下痢をいっぱい出して、「どうしよう。どうしよう」とすごく不安になりながら小走りで帰った。アパートが見つからなくて「どうしよう。どうしよう」と焦っている。</p>
	D61	<p>すごく気になる男の子がいる。夫がいるからそういう感情を持つてはいけないと思っているけれど、すごくその人のことが気になって仕方がない感じ。門が 3 つあって、A、B、C と書いてある。そこに並ぶ人がグループとなってお昼を食べたり、一緒に行動を取ったりする感じ。夫が車に乗っていて、「僕は先に行くけど、A の門にしてね」と言った。その気になる男の子と一緒に行動するには他の門じゃないといけない感じ。夫の言う通りに A に並んだほうがいいけれど、男の子も気になるからどうしたらいいのだろう、と悶々と考える。でも、夫といるのが一番いいんだと思って A に並んだ。門を出ると、友人とその男の子がキスをした。私は仕方が無いと思ったけれど、すごく悲しかった。</p>
	D62	<p>友人のアパートに遊びに行っている。楽しく話をしていたが、友人が「私今日忙しくて、明日までにレポートを提出しないとイケない」と言った。友人の本を 3 冊借りっぱなしだったことがわかった。明日返すと言っても、「明日じゃ遅すぎる。今日にして！」とすごい剣幕で怒られた。「どうしよう」と思っていた。</p>
	D63	<p>ホテルか温泉にいる。2 階、3 階、4 階がお風呂で、いろんなタイプのお風呂がある。最初 2 階に行ったけれど、何となく 3 階のお風呂に行った。ジャグジーとかあって、すごく気持ちよかった。そうしたら、人が入って来たので、2 階か 4 階のお風呂に行った。そこに夫がいた気がする。</p>

	D64	地球が減びるということで私はパニックになっている。地球から脱出しなくてはいけないと思って、宇宙船に乗る準備をしている。お米やらを慌てて宇宙船に入れて、何かの電気器具の充電やらを一生懸命している。でも、地球が減びるといふのに周りの人は落ち着いていて、脱出しようとはしていない。私だけ慌てて焦っている。
	D65	なぜか海辺で授業があつて、机や椅子がある。全く知らない人たちと一緒に椅子に座つて勉強している。時々、高い波が来て、何度か波から逃げた。ふと気が付くと、津波がやつて来た後らしくて、町がめちゃくちゃになっていた。町は東南アジア風のかやぶきの家ばかり。東南アジア人風の中年の女性が生まれたばかりの赤ちゃんを抱いていて、「この子のお母さんは波に飲まれてしまった」と言った。赤ちゃんはお腹がすいたようで大泣きしている。「もしかしたら私のお乳が出るかもしれない」と言つて、乳房を見たら母乳が左の乳房から出ていた。赤ちゃんを受け取つて乳房を吸わせた。最初赤ちゃんは微笑んで安心したかのように吸い出したけれど、すぐに母乳が出なかったかおいしくなかったかで大泣きはしはじめた。「吸ってくれない!」と思つて、どうしようとパニックになった。
	D66	研究室らしきところにて、大学の先生と話している。先生から論文ができるのかと叱られる。私はしくしく泣き出した。

③ 妊娠後期

8 か月	D67	体育館らしきところに入った。体育館のなかには大勢の人と牛やら馬やら象やらたくさん動物がいた。ざわざわしている。しばらくこうしていないといけないような感じ。男性が大きな声で、「ノアの箱舟を知っているか!」と叫んだ。「ノアの箱舟の物語ってどんなだったかな」と思い出しているところだった。
	D68	車は赤いコンパクトな普通自動車を運転していた。細いS字道路を走っていた。警察官が取り締まりをしていた。取り締まりは終わって、用具を片付けている感じ。警察官を見てちょっとぎくっとしたが、制限速度内だったのでほっとして通過しようとした。そうしたら、警察官から車を止められ、カーブの曲がり方が悪いから減点すると言われた。取り消してくれと何度言つても警察官はとり合つてくれなかった。どうして自分がこういう状況に陥っているのか納得できなかった。
	D69	デパートにベビー用品を買いに行ったが、ベビー用品ではないものを買つた。とりあえず、自分の車を取りに行つて、ベビー用品を乗せた。一仕事を終えて満足。それから、大学時代仲の良かった友人が手前のお店を見て、「このビーフを煮込んだやつが食べたい」と言つたので、そのお店に決めた。ケーキのことを質問したら、店員の態度が悪くて腹を立てた。(場面転換)以前いた大学にいて、なつかしいなと思ひながらきよきよしていた。仲の良かった先輩がいて、すごく話したかつたけれど、ちょうど授業がはじまつて話せなかつた。「ま

		<p>たゆっくり話しましょうね！」と言って大学を去った。(場面転換) 家に帰ってみるともう子どもが生まれていた。性別は不明。なぜか赤ちゃんは外国人(欧米風)の子どもだった。外国人の顔だったのでちょっとぎょっとした。となりで夫は寝ている。退院したばかりで夜お乳をあげようとしているようだった。でも、授乳するのは初めてという感じ。夢のなかで、「入院している間に授乳しなかったのかな」とちょっと不思議に思っている。赤ちゃんの身体を触るとちょっと熱くて、「熱があるんじゃないかな」とちょっと不安になった。お乳はよく出ていたけれど、赤ちゃんは泣いていて飲んでくれない。乳房をふくませてもすぐに出してしまう。「飲んでくれない。どうしよう」と思っていた。</p>
	D70	<p>中学時代に仲の良かった男の子の家に行くと私の部屋が用意されていた。その部屋の外は海で、台風のために波が窓ガラスに打ちつけてきて怖くなる。夫が助けてくれるだろうと思っている。(場面転換) 中世のヨーロッパのお城のなかで女王になっている。お城の外の森のなかで戦いが行われているのを城から眺めている。</p>
	D71	<p>大学時代仲の良かった友人とともに実家の近くの堤防にいる。深い緑色の海をながめながらとても気持ち良かった。家に帰ろうと車に全員乗ると、ものすごく大きな波がこちらにやってきていた。最初は「大きな波だな」くらいな気持ちだったが、だんだん波が近づいてくるにつれて、「津波だ！逃げなくちゃ！」と焦った。私は助手席に座っていたけれど、気が付くと赤ちゃんを抱いていた。生まれたての赤ちゃんだった。性別は不明。私は、赤ちゃんがいて津波に巻き込まれたら大変だ！と思っていたけど、同時に自分たちは助かるから大丈夫とも思っていた。気が付くと夜になっていて、実家に戻っていた。隣の家に住むおじさんが赤ちゃんをわざわざ見に来た。私は赤ちゃんを見せながら、「この子はまだもう2か月はお腹のなかにはいないといけないのよ」とおじさんに言っていた。実家に入ろうとしていた。「お腹に戻さなくちゃ」と思っていたところで目が覚めた。</p>
	D72	<p>アメリカのどこかの大学に留学していた。日本から友人が訪ねてきたので、お昼を食べようとした。カフェテリアらしきところは開いていて、何人かアメリカ人の学生が食べ物を買っていた。私はピッツアを探していた。トマトソースのたっぷりかかったピッツアを見つけて嬉しかった。私はカロリーの高そうなパスタがおいしそうでもたまらなくて、「誰かに何か言われそうだけどもういいや」と思って紙皿にそれをついだ。すごく嬉しかった。</p>
	D73	<p>夫と一緒に旅行に来ている。山村で日が暮れかかっている。私と夫は旅行の本を片手に旅館を探している。民宿らしいところを見つけて、泊まれるかどうか私が聞きに行った。玄関を開けようとしたら、シャッターが閉まりはじめて、私は慌てて閉じ込められないように逃げた。夫に、「この旅館はどうもおかしいよ。ここはやめよう」と言った。それから、今度はガソリンを入れられるところを探した。夫が「すみません」と言ったけれど誰も出てくれない。ようやくおばさんができてきたが、不審者は夫ではないかと疑われる。夫ではないと言</p>

		うとガソリンを入れてくれるような表情になった。「ようやくガソリンを入れてもらえる」と思ってほっとした。
	D74	トイレに入ってパンツを見たら、血がついていた。「あ、とうとう（おしるしが）きた！いいよだ！」と思った。
	D75	中学校か高校の教室にいる。教室では制服を来た生徒が吹奏楽の練習を始めた。知人からパーカッションができるから後で演奏させられると言われる。びっくりしたが、仕方がないから演奏をしなくてはいけないと思う。（場面転換）友人たちとお風呂に入っている。私ふと浴槽を見ると友人の一人が浴槽の底に沈んでいた。びっくりしたけれど、静かに彼女の顔を持ち上げて呼吸ができるようにした。友人の意識が戻って安心した。
	D76	病院らしきところにいる。廊下の突き当たりの部屋で他に妊婦さんが数人いた。もう陣痛がはじまっていて、お腹が痛い。赤ちゃんがはやくおりにように廊下を歩いたりしていた。夫が心配そうに後ろからついてきていた。部屋に戻ると、順番に妊婦さんが分娩室に呼ばれて行った。私はかなりお腹が痛くなって、「うわー、痛いよ」とお腹を押さえている。でも、なかなか名前を呼ばれなくて、「こんなに痛いのにもまだ分娩室に行けないのか」と思っていた。（場面転換）自宅にいて、布団に寝ていた。男性芸能人がいきなりアパートに入ってきた。その芸能人にお腹を触らせると、胎動があつて彼は嬉しそうに笑った。それから、霧雨が降るなか傘もささずに去っていった。夫に、「びっくりしたね。ちゃんと鍵をかけてね。でないとびっくりするよ」と話した。
9 か月	D77	友人たちと屋外で飲み会をするので場所を探していた。歩道橋の上から飲み会の場所を見つけて、お酒の入った容器を投げた。それから、3 人くらいの人たちとその場所までおどり飲み会をはじめた。セメントの上に直に座っていた白いマグカップにお酒を豪快に注いで、ぐびぐび飲んでいて、すごく楽しくて、大笑いしていた。「やっぱり日本酒はいいね～」と友人たちと話していた。
	D78	真夜中に駅の前の交差点にいた。地元の駅に似ていた。人通りも車もなくて、私はキャリーバックを手を持って、「どうやって目的地に行こうかな」と思索していた。一台のローバーミニ風の車が交差点を曲がって、私の前で止まった。タクシーのような感じだった。運転席にはカールしていて長い髪の中年女性がいて、その横には頭のはげた中年男性がたぶん裸で乗っていた。助手席の後ろの席には黒い帽子に黒いコートを着た 30 才代の男性が乗っていた。その男性がいったん降りて私を車に乗せてくれた。中年女性が「どこに行きたいの？」と言った。私は目的地が思い出せなくて、「たぶん南だと思います」と言った。「それじゃわからないけど、たぶんあなたの行きたい場所がわかるわ」とその女性が言った。車のなかは菓子パンやらポッキーやらでいっぱいだった。空が明るくなってきて、走っている道がわかってきた。細い裏道を走っていた。目的地に近づいていることだけはわかった。大きな道に合流した時に、車が止まった。男性 2 人はどこかに消えた。中年女性はいつのまにか若い黒髪のきれいな女性に変わっていた。ちょっと寂しそうな感じの女性。名前はビアンカだとその時

		<p>わかった。ビアンカは毛糸でできたストラップらしき小さな人形を大事そうに持っていて、「これは私のお気に入りの人形なの。こんなに汚くなっちゃったけどね」と彼女が言った。それから、ビアンカが「私はここまでしか行けない。そこの穴に入っただけで目的地に着くよ」と私に言った。洞穴に入ると、そこはらせん状になっていた。最初は舗装されていて歩きやすかったけれど、上に進むにつれて道がもろくてせまくて、本当に上に這い出せるのか不安になった。「お腹がこんなに大きいのに本当に上にいられるの?」と不安でいっぱい。その時、戻ってビアンカに助けてもらおうかと思ったけれど、ビアンカはこの世の人じゃない気がした。何とか上まで行って這い上がってみると、お寺か何かの庭に出た。休憩を取るためにお寺のなかに入ったら、祭壇があって聖母マリアの絵やろうそくがおいてあった。その下に赤ちゃんの靴がたくさん置かれていた。亡くなった赤ちゃんを供養している感じだった。ある1足の靴のなかにビアンカが持っていた人形があった。私はそれを見てすごく悲しくなった。ビアンカが交通事故で亡くなった女の子だったことが直感的にわかった。「ビアンカ!」と言いながら泣いていたところで目が覚めた。</p>
	D79	<p>豆腐でできた階段を慎重に下りていたら、夫がわざと棒で豆腐の階段を叩いた。私は怒って、「どうしてそんなことするの!」と怒ったら、夫が「どうしてそんなことくらいで怒るんだ!それくらいで怒るようじゃ、結婚生活を考え直さなくちゃいけないね。離婚するしかないね」と怒ってどこかに行ってしまった。私も「離婚するしかない」と思ったけれど、これくらいで離婚してはいけないし、彼とは離婚しなきゃいけないと思って彼を探した。彼は私の実家らしきところにいた。夫と、「離婚せずにもう一度話し合おう」と話し合った。</p>
	D80	<p>夫とどこかに旅行に来ている。気付いたら夫がいなくなっていて、私は不安で夫を探していくつかの旅館にたずねていったが、夫はどこにもいない。すごく不安になる。</p>
	D81	<p>夫と大学の大講義室のようなところにいる。日本語力の検定試験か何かを受けるような感じ。夫が受けるので私もついでに受けている。夫が試験の内容と解答方法について説明してくれた。私は、ふんふんという感じで聞いていた。内心では「なんだか大変そうな試験だな。ちゃんと準備してないからどうなるかな」とちょっと不安。誰もいないからと思って夫とキスしたら、大学の先生がいきなり教室に入って来てびっくりした。恥ずかしくて机の下に隠れた。</p>
	D82	<p>東南アジアでテレビ番組の取材に同行している。ある女性芸能人が「男と女で違う飲み物を探すこと」と書かれた白いプラカードらしきものを男性に見せていた。男性は4、50cmくらいある丸いガラスの容器に入った真っ赤な飲み物を探してきた。女性用の飲み物だったと思う。周りには現地の人がいっぱいいて、市場か何かのような賑わいだった。それから、芸能人が滞在しているホテルにいた。プライベートのプールがあった。裸になってプールに入った。プカプカ浮いて、泳いだらすごく気持ちよかった。お腹が大きくて、「水に長時間入ってお腹大丈夫かな」とちょっと心配になったけれど、気持ち良くてそのまま泳い</p>

		で遊んだ。プールから上がって洋服を着ようとしたら、雷が鳴り出した。私はびっくりして、慌ててホテルに避難し、安堵した。
D83		甥や姪たち（長男、長女、次男）と一緒に遊びに来ている。子ども用の遊び場のところにいた。そこはすり鉢状になっていて、天井はドーム型だった。甥っ子や姪っ子が楽しそうにアスレチックで遊びはじめた。すり鉢の一番底に黒い熊がつながれていた。その周りに茶色の日本犬がいて吠えていた。熊と犬の戦いが始まるのかと思ったけれど、熊は相手にしていない感じで犬もそんなにしつこく吠えたりしていなかった。（場面転換）実家の前の道路にいた。道路に魚のあらがたくさん置かれていて、すごいことになっていた。ゆがいた蟹も山盛りに道路に置かれていた。湯がいた蟹と生魚ですごいにおいがした。「うわ、くさい！これはたまらん」と思って家のなかに入った。実母がいて「近所のおじさんがしたことだから、くさいのは仕方ないわ」と言った。確かに、仕方ないかなと思った。
D84		両親と一緒にアパートの和室にいた。胎動が激しくなったので、お腹を出した。おへその辺りでぼこぼこ動き出したので、「ほらほら、見て見て。こんなに動き出したよ」と両親に見せた。焼き餅の中身がぶく〜と膨れたみたいに、私のお腹の一部が出てきて、そこが赤ちゃんの顔になっていた。赤ちゃんは泣いていた。私も両親もびっくりした。「こ、これはちょっとグロテスクだね」と私は言った。そこで目が覚めた。
D85		高校の教室らしきところにいた。4、50人くらいの生徒がひしめいていて、みんな缶やらごみをぼいぼいと床に捨てていた。あまりの汚さに、びっくりしたし、ムカムカした。ガソリンが高くて運転できないとある生徒が苦情を言った。私はむかっとして、「ガソリンが高いのは私のせいじゃないし、私にはどうしようもできないこと。そんなに嫌なら運転しなければいい！」と怒った。それから、教壇に上がって、「どうしてこんなに汚いの！自分達の場所なんだから自分達できれいにしないでどうするの！」と怒って言った。
D86		大学らしきところにいた。大学生がたくさんいた。すごいパニックが起きた。「何？」と思っていたら、ティラノザウルスが私たちに向かって来ていた。怖くて必死になって逃げた。どこに逃げようかと隠れ場所を探したけれど、「隠れても、襲われたらどうしようもできない」と思ってひたすら走って逃げた。学生食堂に入ったら、小型で猛猛な恐竜が入ってきた。食堂は大混乱だった。ものすごく怖くなって、必死で逃げた。いつの間にか民家に逃げ込んでいた。遠くの海岸線を見たら、軍艦らしき帆船が3艘ほど港にやってきていた。「よかった！援軍だ！これで助かる！」とほっとした。いつのまにか港にいた。軍隊らしき人たちが訓練をしていた。「ここにいたら大丈夫だろう」と安心した。
D87		小学校の時の通学路を歩いていた。そうしたら、姓名判断をしている知人と偶然出会った。知人に、「お腹を見てください。こんなに大きくなりました」と言ったら、彼がお腹を触って、「これはいいお腹の形だ！」と言った。名づけについて相談したら、希望する名前は苗字に合わないと言われて、「夫が気に入って

		いるし、どうしようか」と思った。知人は忙しそうに他の相談者の人とどこかに消えた。
	D88	裁判官が1人と、他に女性が2人、そして20歳代半ばの男性で囚人らしき人が1人いた。その囚人らしき人が、「自分は1歳半のときに両親と死に別れて、それ以来悲惨な人生だった。誰かが自分のことを愛着をもって見つめてくれていたら、自分はこんな罪は犯さなかったと思う。今度は誰かに見守られて生きたい」と言った。その男性がどんな罪を犯したのか詳しくわからなかったが、2、3年で出られるくらいの罪だということはわかっていた。男性の言葉を聞いて、私は感動していた。自然と男性に微笑んでいた。男性が「そういう風に微笑んでくれる人が自分には必要だ。そういう風に誰かに微笑まれたことがなかった」と言った。裁判官らしき人が、「君は悔い改めているから、今後出所した後に世話になる人がいたほうがいいだろう。しかし、(私以外の2人の女性を見ながら)この2人はだめだ。この2人はろくろ係(もしくは、ろくろ首)だから。その女性ならいいでしょう」と言った。私は「え、こんなに若い私が彼の世話をするの?」とちょっとびっくりしたけれど、悔い改めている彼を見て、「夫とともに彼の今後を見守っていてもいいかもしれない」と思った。裁判官が退出したところで目が覚めた。
	D89	自分の車を運転していた。実家の家のまへの道路を気持ちよく運転していた。朝のラッシュでかなり車があった。橋を渡ったところで、警察が張っていたことに気づいた。私はビクッとしたが、10km オーバーだったはずだから大丈夫だろうと思った。しかし、堤防に上がるところで警察官たちに車を止められた。私の後ろを運転していた男性も止められた。男性は、速度58kmだったのに、20km オーバーと書面に書いてあったことに立腹していた。私は婦人警官に、「仕事に間に合わなくなるので、できるだけ早く処理してください」と頼んだ。車からおりると、速度オーバーで捕まった人が2、30人くらいいてびっくりした。「今回は仕方ないな」と思った。
	D90	中近東のような場所にいた。身体は妊娠していなかった。石でできた遺跡があるところに現地の中学生くらいの女の子と7歳くらいの男の子の姉弟がいた。どうも孤児のようだった。そうしたら、男の子の赤ちゃんがハイハイして私のほうにやってきた。私はその子を抱き上げた。末の弟かと思っていたけれど、女の子が7歳くらいの弟の方を見ながら、「私があの子くらいだったときにあの男がやってきた。それから、ずっとその男にいやなことをされた。(赤ちゃんを見て)その子はその男と子どもなの。みんなが生きていくためにはその男のところに戻った方がいいのだからけど…」と私に言った。私はとてもショックを受けて、その女の子が不憫でならなかった。7歳の弟は無邪気に遊んでいた。
	D91	夫とセックスをしていた。
10 か月	D92	妊娠検診に行ってもそのまま入院した。夫が隣にいて心配そうにしていた。通っている産院の助産師さんが、「もう出していいから積極的に歩いて赤ちゃんが下がるようにしてください」と私に言った。私と夫は、「え、でもまだ36週です

		<p>よ。もう出していいんですか？」と助産師さんに言ったら、「え、36 週なんですか。先生が 36 週でもいいと思ったのでしょうか。大丈夫かどうか聞いてきます」といったん部屋を出たようだった。それからすぐに戻ってきて、「36 週で生んで構わないそうです。あなたの赤ちゃんはこの子ですよ」と言った。助産師さんの隣に 5、6 歳の男の子がいた。助産師さんが、「この子は水頭症だから早く出していいそうです」と言った。私は男の子だったのと水頭症だということを聞いてちょっとショックだったけれど、男の子が可愛くてぎゅっと抱きしめた。</p>
	D93	<p>和室の研修室らしき部屋にいた。子どもが何人かいて、私の隣にはおかつぱ頭の小学校 1 年生くらい女の子がいた。子ども達は児童養護施設に入所している子ども達だと何となくわかっていた。女の子が、「私、一生懸命勉強しているのよ」と言ったので、「そうなの。がんばっているだね。いいことだね」というようなことを女の子に言ったと思う。心の中で、「どうやってセラピーをしたらいいのかな。やっぱり難しいな」と思っていた。</p>
	D94	<p>外国人らしき男性と結婚していた。しかし、容姿などは思い出せない。原因はわからないが、その男性が余命わずかだということがわかって、すごくショックを受けた。(場面転換) 実家の居間にいた。他の家族と和やかにテレビを見ながら話していた。そうしたら、実母が実は死んでいて、今からあの世に旅立つことがわかった。「お母さんとはもう会えないのか」と悲しかったけれど、実母とともに実家の庭に出た。そこには白いリムジンのような車がとまっていて、実母がその車に乗った。実家の前の道を見ると白い服を着た女性が 2、3 人乗ってこちらに手を振っていた。彼女達は白い馬の馬車に乗っていた。実母が「〇〇さんもあの世に出発したっちゃね」と言った。実母が私に「もう会えなくなるね」と言った。私は泣き出して、「お願いだから、行かないで！」と大声で繰り返し実母に言った。母親が寂しそうな顔して小さく手を振った。「行かないで！」と叫んでいた。</p>
	D95	<p>大学構内のベンチに座っている。隣には大学の先生がいて、2 人で論文か何かをチェックしている感じ。先生が席をたとうとしたとき、「先生！2、3 日後に生まれると思いますよ！」と大きな声で言った。(場面転換) 下宿みたいなどころの前にいた。2 階に上がると私の部屋があって、布団が敷いてあった。私が入ると、なぜか裸になっていた。そうしたら、性同一性障害の友人が布団のなかに入ってきた。彼女も裸だった。女性の身体ではなく、男性の身体だった。彼女は背を丸めて、「苦しい。まだこんな身体なのが苦しい」と私に言った。私は彼女をぎゅっと抱きしめた。その時、誰かが布団をめくった。私はびっくりして布団から出ると、隣に小柄の 50 代らしき男性がいて、「男と女で同じ布団に入るなんて」みたいなことを言った。私はむかっとして、「どうしてそんなことをするんですか！？失礼にもほどがある。男とか女とかでしか人を見られないなんて！私はそういうのは大嫌い！」とその男性を大声で非難した。ふと彼女の方を見ると、彼女は赤ん坊になっていた。彼女を抱き上げて、</p>

		「悲しいね。赤ちゃんのころには男も女もないのにね」と話した。
	D96	研修所らしきところにいる。大勢の人がいてざわざわしている。子どもが2、3人いて託児所があるような感じ。誰かわからないが女性の声で、「この子はあなたが面倒みてね」と言われた。ふと見ると、男の子の赤ちゃんが白い服を着て、白い台に乗せられていた。私は何となくその子が自分の子どもだとわかって、抱き上げた。赤ちゃんは泣いていた。その子に母乳をあげたらよく吸ってくれたのでちょっと嬉しかった。
	D97	自宅のアパートにいて目が覚めた。居間に誰かの赤ちゃんが2人ほどいた。でも、自分の赤ちゃんがいないことに気づいて、「私の赤ちゃんがいない!」と言って私は泣き出した。もともといた赤ちゃんが死んでしまったような感じだった。
	D98	アパートにいて、目が覚めた。まだ夜明け前だった。見ると、夫が窓を開けっ放しにしている風がびゅんびゅん入ってきていた。私はびっくりして、泥棒でも入ったのではないかとこたつのそばに置いていたバックの中身を確認した。ちゃんと財布が置いてあって安心した。夫が起きてきたので、しかった。(場面転換) 3階か4階のマンションかアパートにいた。窓が開いていて、部屋中に雪が積もっていた。3、4cmくらい積もっていた。夫がなぜか脳性まひの知人と変わっていた。夫(脳性まひの知人)に食事をさせようと思って、車椅子に小さなテーブルをつけて食事を置いた。食事を食べさせようとスプーンですくったところでお腹が痛くなった。「お腹が痛い!陣痛かも」と思って床に座り込んだところで目が覚めた。 (著者注:実際に、目が覚めると陣痛がはじまっていた)

3 初産婦 C

① 妊娠初期

妊娠月数	夢番号	夢の内容
2 か月	D1	知人（誰かは忘れた）が自宅にグレーのウサギを連れてきて、私に飼って欲しいと頼んだ。突然の申し出でびっくりしたし、社宅なので飼うスペースもなく、ウサギを飼ったことがなくて不安だから、と断ろうとしたが、「そんなに神経質にならなくても、大らかに育てれば大丈夫だから」と言われ、受け取った。目がクリクリしてかわいいウサギだった。
	D2	実家に帰ってくつろいでいたら、いきなり戦国武将みたいな人が入ってきて追いかけられた。逃げながら、お腹の赤ちゃんを守らなければいけないと考えていた。
	D3	2 歳くらいの女の子を連れて弓道場へ行った。その子は自分の子どもだと思っている。白いブラウスとピンクのスカート姿。しばらく先生（高齢の男性）に子ども相手のしてもらい、私は別の先生（高齢の女性）に見てもらって練習をする。時計を見ると、時間は午後 2 時。子どもは先生や他の人と一緒に道場の隅でお茶を飲んだりおやつを食べたりしている。そのうち子どもが「帰ろうよ」とぐずりだし、「あとちょっとだけ練習させてね」と話しかけた。
	D4	友人夫婦と一緒に海外旅行（イギリス）に行くことになったが、夫だけが仕事で急に行けなくなり、友人夫婦と私とで出かけた。レストランで食事をし、ホテルで一泊した後、翌日は観光の予定だったのに、朝起きてみると、お笑い芸人の野球チームの試合を応援しに行くことになっていて、無理やりバスに乗せられてしまった。海外にいるはずなのに、車窓はなぜか子どもの頃に住んでいた場所。知らない男の人と隣の席になって、居心地が悪い。
3 か月	D5	（夢の中では）つわりが治まったので、そろそろ道場に行こうと思い、自転車で出かけた。途中には坂道もあるので、道場に着いた頃にはすっかり疲れて、1 時間だけ練習して帰ろうと思った。久しぶりに先生に会い、挨拶してずっと休んでいたことを謝る。先生（女性）に「もう大丈夫なんでしょう？無理はせんでもいいけど、病気じゃないんだから、のんびりやりなさい」と言われる。久しぶりに弓を出したので、念入りに乾拭きして準備をする。
	D6	自宅に帰ったら、寝室に使っている和室で、生まれたばかりの赤ちゃんが泣いていた。病院を退院したばかりのようだった。慌てて様子を見ると、オムツは濡れていないようだったので、母乳をあげた。夫に「病院で飲ませたから大丈夫だと思うんだけど」と話したが、赤ちゃんはお腹が空いていたようで、一生懸命飲んでた。その子は女の子で、白い肌着を着ていた。
	D7	美容院に行こうと思い、電車に乗った。駅で降りたら大学の近くの駅だった。そこから自転車に乗って美容院を探していたら、大学に着いてしまった。構内に入ると妹の彼に会ったので、美容院を探していると話したところ、友人に美容師がいるから紹介してくれると言われた。でも結局、その友人は忙しく、私も急いで

		いたので、別の美容院を探すことにした。大学から出ると、今度はショッピングセンターに来ていた。そのショッピングセンターにある美容院に行こうと思ったが、角を曲がるとまったく知らない場所になっていた。引き返そうとすると、とても急な坂道になっていて、手すりを持ちながら一生懸命登った。
	D8	妹（住宅メーカー勤務・職場はモデルハウス）の職場に遊びに行った。営業マンがたくさんいて会議をしていたが、自由に見ていいと言われたので、モデルハウスを見学していた。営業マンがたくさんいてお茶を準備するのが大変そうだったので、台所で妹を手伝ったりもした。台所から見て、廊下を挟んで向かいにとても広い部屋があった。天井も高く、壁の一面が収納スペースになっている。上のほうは収納がしにくいのではないかと妹に聞くと、電動で壁が上下するので上にも物を入れやすいと言われ、実際に動かしてくれた。
	D9	暗いところに一人でいた。赤ちゃんが生まれたらすぐに自分は死ぬと知って、夫と子どもだけで大丈夫か、母親がいなくなると分かっている生まれる赤ちゃんはかわいそうではないのか、と考えていた。
4 か月	D10	広いお座敷で人がたくさん集まって食事をしていた。私は子どもを連れていて、子どもの世話で忙しかった。子どもは男の子で、歩きはじめた頃のようなようだった。私がなかなか食事を取れないので、一番下の妹が子どもを見ていてくれることになった。妹は自分の子どもたちも連れて外に散歩に出かけた。私の子どもは、甥と一緒に歩きたいのに、まだうまく歩けないので着いて行けず、泣きべそをかきながら一生懸命後を追っていた。しばらくして、妹が子どもを連れて家に帰ったと聞き、迎えに行くことにした。途中でパン屋に寄ってお土産におやつを買った。妹の家に着くと、子どもは甥や姪と仲良く遊んで楽しそうにしていた。
	D11	夫と一緒に笑いのライブを見ていた。会場は学校の教室で、窓に暗幕が張ってあった。人がたくさん集まっていて盛り上がっていた。壁の時計を見ると 11 時で、「子どもが待っているから帰らなければ」と思い、一人で外に出た。廊下に出てみて、卒業した小学校の古い校舎にいることに気が付いた。廊下は真っ暗で、電灯が付いていなかった。少し歩いたが、真っ暗で薄気味悪かったので引き返した。会場に戻ってみたら、もう終わるところで、結局夫と一緒に帰ることになった。
	D12	出産後、病院に入院していた。両隣の部屋に友人も入院していて、それぞれ子どもが生まれた直後だった。性別は不明。お互いの部屋に赤ちゃんを見に行ったりした。
	D13	祖母の家で昼寝をしていた。目が覚めてパジャマを着替えようと思ったのに服が見つからなくて探していると祖母が帰ってきた。夜まで帰ってこないと思っていたのでちょっと驚いた。祖母は機嫌がよく、夕方にまた出かけると言った。お茶をいれようかと聞くと、水でいいと言われた。祖母は病気で水分を制限されていたことを思い出して、コップに半分だけ水を入れた。

②妊娠中期

5 か月	D14	社宅の友人とお花見に行くことになった。途中でお弁当を買っていくことになり、スーパーに立ち寄った。お弁当と飲み物を選び、お菓子も買おうと思いついて売り場に行った。おいしそうだったお菓子は入っている数が少なく、みんなで食べるには足りない。たくさん入っているお菓子を探したのに、なかなか見つからず、しばらく店内を探した。気がつくと、一緒に行こうとしている友人が中学校の時からの友人に代わっていた。友人の携帯に電話がかかってくるので、お花見の会場で待ち合わせをしている友人が待っているという。待たせると怒りそうな友人だったので、みんなで慌てて買い物をして店を出た。
	D15	いきさつの部分は覚えてないが、黒い服を着た妖怪みたいな人？に追いかけていた。気がついたら祖母の家に逃げ込んでいた。祖母が2階にいると思い、階段の下から大声で呼んだ。すぐに祖母が降りてきて、妖怪みたいな人を追い払ってくれた。
	D16	海岸を歩いていると、海の浅瀬に鳥居が建っていた。その神社のお守りを売る場所で、私はアルバイトをしているらしかった。店番をしていると、40代くらいの女性が来て、お守りを修理して欲しいと言われた。私にはできないので、奥のほうにいた神主さんらしい男性に頼んだ。割とすぐに修理が終わり、手渡そうとすると「これから食事をしてくるから、その間売店で預かって欲しい」と言われた。時計を見ると5時だった。私は6時までしかいないのだが、1時間もあれば帰ってくるだろうと思い、預かることにした。
	D17	自宅の寝室で赤ちゃんのおむつを換えようとしていた。最初は小さい頃の甥に似ていると思ったが、別の男の子の赤ちゃんだった。おむつを交換した後、着替えもさせようとしていて、上半身は裸で白いおむつカバーを着けていた。ふすまが開いて、私の父が様子を見に来た。ちょっと心配そうな様子だった。父と話をしながらオムツを交換した（会話の内容は覚えていないが、他愛のないことだったと思う）。ふと父の足元を見るとなぜか赤ちゃんのうんちが落ちていたので、父に「気をつけて」と注意したら、とても慌てていた。その慌てぶりがおかしくて、つい笑ってしまった。
	D18	同じ社宅のなかで引っ越しをすることになっていた。新しい部屋はもう一方の棟の一階の部屋だった。間取りも変わらない。新しく住むことになった部屋のベランダの前に自分の車を置くことになっていて、駐車場が近いと思った。
	D19	これから引っ越すところだった。近い時期に引っ越すという人（知らない人）が2、3人集まって、そのうちの一人が妊娠8か月だと聞いて仲良くなった。その人に誘われて出かけたところ、雑貨屋に連れて行かれた。こじんまりとしたお店だった。店内を見ようと思ったのに、2階に連れて行かれた。そこに女性（知らない人）が一人いた。室内は散らかっていて、床のものを踏まないようにして女性の近くに行った。私を連れてきた人はそこでアルバイトをしているらしく、もうすぐ赤ちゃんが生まれるので代わりの人を探していて、私に来て

		欲しいと女性が言った。時給は 300 円と言われた。私は、自分も妊娠 6 か月に入るところでほとんど働けないし、夫も反対するだろうと思った。
6 か月	D20	伯母（母の姉）と私の二人で話していた。子どもが生まれた後で、伯母に「3,045 グラムだったんだね、思ってたより大きい子だったね」と言われた。
	D21	広い和室にいた。その部屋は薄暗く、床の間と押入れがあった。床の間の前に紺色か黒の和服を着た男の人が背中を向けて座っていた。顔は見えないし、ただ座っているだけなのだが、なんとなく薄気味悪くて怖いと思い、階段を下りて明るい部屋に行ったのだが、すぐに和室に忘れ物をしたことに気がついた。怖いので行きたくないと思ったが、どうしても必要なものだったので（具体的に何だったのかは不明）仕方なくまた階段を上っていった。夫と一緒に来てくれた。すると、さっきまで暗かった和室が明るくなっていて、人がたくさん座っていた。そのなかに母と祖母（母方）が並んで座っていた。隣に行くと、祖母に「たくさんのご先祖様が守ってくれているから大丈夫」と言われた。そこに集まっている人たちはみんなご先祖様なのかなと思った。
	D22	病院から「今日は予定日なので、これから入院してください」と言われ、陣痛も何もなかったが入院した。母と妹二人も病院に来てくれた。入院してからも出産がはじまる様子はなく、「家に帰されるかも」と思っていたのだが、看護婦さんに「まだ生まれそうにないから、出かけてきてもいいよ」と言われ、母と妹と一緒に買い物に出かけることにした。
7 か月	D23	両親が自宅にいた。居間にまだコタツが出ていて、二人ともコタツに入ってテレビを見ていた。父は寝そべっていた。そこに、お風呂から二人の男の子が出てきて、父の寝ている横にもぐりこんだ。二人の男の子は兄弟のようで、上の子は 2~3 歳くらい、下の子は 1 歳半くらいだったと思う。 二人ともおむつをしていて、上半身は裸だった。後からその子たちのお母さんがタオルを持って追いかけてきた。パジャマを着せたいらしい。父が一人（たぶん兄の方だったと思う）を抱っこしてその子たちのお母さんに渡していた。そのお母さんは知らない人だった。
	D24	母方の祖母の家にいて、子どもに授乳していた。生まれたばかりの赤ちゃんで、うまく吸えるか心配だったが、しっかり飲んでいようだった。もう一方の乳首を吸わせようと思ったが、「双子だから、もう片方はもう一人に吸わせよう」と思い直した。もう一人の子はそばで寝ていた。二人とも白い産着を着ていた。性別は分からない。
	D25	友人に頼まれて、外国送金をするため銀行に行った。韓国への送金だった（友人は韓国人）。預かったお金は持ってきていたのに、送金先のメモを家（実家）に忘れてきたことに気がついて、母に電話をした。内容を読み上げてもらい、聞きながら ATM を操作した。肝心の口座番号を読んでもらっているときに、どこからかアラーム音が鳴って番号が聞き取れず、もう一回言って欲しいと頼んだ。

	D26	夫と新宿駅で待ち合わせをしていた。夫は仕事帰りで、これから夫の服を買いに行くところだった。私は夢の中でも妊娠中だったので、夫の買い物だけの予定だった。夫の元気がなんとなく様子だったので心配になった。お店に入るとすぐに、夫から手紙を渡された。夫が服を選んでいる間に読んでみると、「最近、あまり話をする時間がないね」と書いてあった。
--	-----	--

④ 妊娠後期

8 か月	D27	夢の中では中学生だった。朝、友人と一緒に登校しようと思って、家に迎えに行った。(実際に中学校時代に一緒に登校していた友人とは別の友人。中学校ではクラスも部活も違ったので、なんとなく疎遠になっていた。)友人の準備ができていなくて待っていたら、遅くなってしまった。急いで学校に向かったが、途中で雨が降ってきて、公園のベンチ(屋根がついていた)で雨宿りすることになった。雨はやまないが、本当に遅刻ギリギリの時間になってしまったので、学校まで走ることにした。かばんが重くて走れないので、とりあえずそこに置いていくことになった。
9 か月	D28	泳ごうと思って、室内温水プールのある体育館みたいところへ行った。大きなプールには有名な水泳選手が来ていて使えないと言われたが、「妊婦さんのための専用プールがありますよ」と教えてもらって、そこへ行った。少し小さめのプールで、他にも何人か妊婦さんがいた。
10 か月	D29	正採用だった時に仲が良かった同期の女性2人と食事に行った。偶然、3人も出張で近くにきていたので、待ち合わせて出かけることになっていた。場所は田舎の隠れ家風のレストランだった。個室に丸いテーブルが置かれていて、窓からは田んぼや畑が見えた。気持ちがよい天気だった。同期のうち一人(英語の教員)に「最近、英会話をちゃんと習いに行ってる?」と聞かれ、「行きたいけど、妊娠していたりして機会がなくて、ラジオで勉強している」と答えたら、「じゃあ、いまから英語で話そう」と提案され、そのあとは英語でおしゃべりを楽しんだ。
	D30	採用試験の会場にいて、他の受験生と日程の確認をしていた。向こう側から知らない男性が歩いてきていた。私を探しているようだったが、あまり好きな感じの人ではなかったので話したくなく、トイレに入ったのだが、その人もトイレに入ってきてしまった。仕方ないので個室から夫に電話した。その後、その男性はトイレから出て行ったようだった。
	D31	以前仲が良かった友人が遊びに来てくれていた。帰る時間が近付いてきていたので駅まで送ることになった。近い駅はX駅だったのだけど、友人はY駅の近くのホテルに荷物を置いているので、Y駅に行きたいと言った。新幹線の時間に間に合うか心配になったが、ホテルに戻るしかないのでY駅に向かった。

4. 初産婦 D

① 妊娠初期

妊娠月数	夢番号	夢の内容
4 か月	D1	会社で健康診断を受けたが、私だけノロウイルスと診断され、医師に怒られる。熱もないし、いつ感染したかも心当たりが全然ないので（しかも怒られたことに）釈然としない。
	D2	旅館らしき所において、足湯につかっている。他に人が結構いるが知り合いはいない。買い物と散策に出かけ、店に入る。そこに私の使い古した青いウエストポーチが質に入れられていた。結構古いものなので、恥ずかしかった。店におばさん達がどよどよと入ってきた。私にどんどんぶつかってくるので、気分を悪くして店を出た。店を出ると辺りは芝生の公園だったので、楽しくなってきた。「妊婦だけどコロコロする」と言いながら、芝生の斜面をコロコロしているところで目が覚めた。

② 妊娠中期

5 か月	D3	学校のクラスで学級委員の選考会があり、先生が4人ほど候補を指名していた。クラス全員知らない人だった。「君たちは選ばれた人たちなのだから、快く受けなさい」とその人たちに言っていた。特に髪の長い優等生っぽい女の人に向けて言っていたのだが、その人はあまり選ばれたいようだった。学級委員といっても、日本を背負うくらいのとてつもなく重要な責任を負う感じだった。それを私は選ばれなくて良かったと思いながら見ていた。
	D4	喫茶店にモーニングを食べに行った。実際に海が見えなかったが、海の近くにある喫茶店のような感じだった。喫茶店でコーヒーを飲む事がなにより心落ち着くので、とっても楽しい気分だった。そのうち、自分がその店のアルバイト店員だったことに気づいて、掃除をしはじめた。女性の店長さんが店の外に連れ出してくれて、海のそばにあるから、潮風に気をつけないといけないとか、寒いからなんとかしなければいけないなど、この店をどうしていきたいか話していた。
	D5	両親の書類は書いたが、親戚の書類を書いていないと叔母から書類を渡された。夜の公園の池のほとりで書類を書いていた。次の日のテレビで私の書類が落ちていたとニュースになっていた。すごくびっくりして、いつ落したんだろうと思って、公園に向かった。拾ってくれたおじさんに会い、お礼を言った。その時、もう一つの書類が無いことも気づいて、おじさんに聞いてみたが知らないと言われた。とっても焦った。幼稚園に行って探そうとしたが、大人は入れない事に気づいた。園児を見たらうさぎみたいだった。
	D6	ビニールハウスのような農園にいた。少し怖そうなおじさんがきて、トマトとイチゴに人生をかけているという。食べてみたいとおじさんに言ったら、トマ

		トイチゴをくれた。トマトとイチゴのかけあわらしい。食べようと思ったが、なぜか不安になり、逃げた。そうしたらおじさんが追いかけてきた。必死に逃げた。なぜかおじさんはエイリアンみたいな得体のしれないものになっており、トイレに逃げ込んだ。足音が近づいてきた所で目が覚めた。
	D7	母親と買い物へ行った。ピーマンを買いたかったが、なぜか無い。母親に「ピーマンがないね」と言ったら「ナスでいいじゃん」と言われた。家に帰らなければいけないと思った。しかし、荷物が重いからどうしようかと思っていたら、夫がそこにいた。母親はいなくなっていた。「重いからどうしよう」と言ったら、「自分が持つから大丈夫」と言ってくれた。それなら私はついでに友人の家に遊びに行こうとしたが、夫が家の鍵を持っていないことに気がついて、追いかけてしようとした。
	D8	学校で授業を受けていた。ふと外をみると人がたくさん校庭にいた。隣にいたお笑い芸人(女性)に「どうしてあんなに外に人がいるんだろうね」と聞くと、「わたし、あのなかに好きな人がいる」と言った。どの人か探しても大勢いるのでわからない。外へ一緒に探しに行こうとしたら、黒板に数字が書いてあった。どうやら試験問題のようだった。それを解かないといけないと思い、解こうとするが、いっこうに分からない。そういえば、最近勉強を全然してないなと思い、少し焦りはじめた。
6 か月	D9	どこかのビルのなかにいた。夫を見つけて、近づいて行った。そこで夫に離婚歴が2回あることに気がついた(実際は初婚)。問いただすと、それぞれの前妻に子どもがいるという。「それじゃあ、産まれてくる子どもはどうするの?」という、育てていくという。金銭面で不安になり、「教育費はどうするの?」と聞くと、払わなくていいというので、「それならいいや」と言って、一応納得した。
	D10	公民館のホールらしき所で夫とピアノの発表会を見ていた。ドレスを着た女の子や男の子がピアノを弾いていた。ふと、私の出番が近づいていることに気づき、席を立てて舞台裏に行った。観客席には人がたくさんいるのを見て、緊張してくる。自分の出番になり、舞台に出てピアノの前に座った。弾きはじめようとすると、なぜか全く弾くことができない。そういえば、練習を全然していないことに気が付く。なんとかしなければと思い、妊娠してお腹が大きいため、手が鍵盤に届かないから今日は弾けないと言い、席に戻った。夫にお腹が痛くてピアノが弾けなかった、などと言いつづけていた。
	D11	友人と買い物をしにデパートへ向かう。服をみていると、友人が私に似合う服を選んでくれていた。財布のなかにあまりお金が入っていないので、どうしようかと思ったが、せっかくだから選んでくれたのでカードで買うことにした。デパートの屋上で夕陽を見たらきれいかもしれないと思い、屋上へ上がっていったが、天気が悪くて見られなかった。仕方がないので、家に帰ることにしたが、夕飯の材料が全くないことに気が付いた。食材売り場を探していたが、見つからなくて誰かに聞こうかと思った所で目が覚めた。

	D12	学校の新学期の様だった。新しい担任の先生は誰だろうと教室で待っていると、ジャージを着た筋肉質でボディービルのような男の先生が入ってきた。教室はざわついた。どうやらとても人気のある先生の様だった。でもなにか強引な雰囲気その先生が私は気に入らない。授業がはじまり、洞窟の様なところへクラス全員で行った。洞窟を進んでいくと、先が明るくなっており、出口だと思って行くとその先は崖だった。そこを先生が「ジャンプして飛び込め」といった。クラスの何人かは喜んで飛び込んでいった。「私は妊婦だから飛び込めない」と言ったら、「おまえは能力がない」と先生に言われた。疎外感を感じつつも、どうでもいいやと開きお直り一人で教室に戻ろうと思った。
7 か月	D13	車で田舎道を中学の同級生とドライブをしていた。ラジオを聞いていると「梅を育てているおばあさんが亡くなって、梅をまだ収穫していない」という様なことを言っていた。ちょうどそこを通りかかり友人と探って行こうと言うことになった。少し後ろめたい気もしたが、楽しく収穫した。またドライブをして、学校へ向かった。担任の先生を見つけ話しかけにいくと、私たちと話がしたいから教室に行こうと言われた所で目が覚めた。
	D14	夫が「今日は友人を家に呼びたい」と言う。私が「そんなの急に言われても困る」と言い、少しきまげい雰囲気になる。冷蔵庫の中には何もなし、部屋は汚いし、どうしようかと焦ってくる。夫が「自分が掃除もするし、買い物も行くからいい」といい、部屋を出て行った。とりあえずご飯を作ろうとすると、夫が友人を連れて帰ってきてしまった。もう、開き直って「今まで寝ていたから、何もしてない」などその友人に言い訳をつらつらと言っていた。
	D15	公園を歩いていると、通っているカルチャーセンターで知り合いのおじいさんが花を育てていた。珍しい花があるというので、見せてもらうことにした。崖をくだっていくと、畑があった。どれがめずらしい花なのか探したが分からなかった。聞くと思ったが、何か失礼な気もしたし、こんなこともわからないのかと思われるのも恥ずかしいので、お礼を言って、その場を離れた。並木道を歩いていたらとっても気持ち良かった。

③ 妊娠後期

8 か月	D16	京都の鴨川らしき所で大学の友人と遊んでいた。そこでスキューバダイビングを教えてくれると言う。川の水があまりきれいではないのが少し嫌だったが、スキューバも楽しそうなのでお願いした。川にはいると案の定、視界が悪く何も見えなかった。友人が「あの堤防をすぎると水質が良くなる」といったので、うきうきしながらその堤防を乗り越えると本当にきれいで、熱帯魚などたくさんいた。川の上流へ行けるところまで行こうと思い、山の方へ向かった。
9 か月	D17	叔母と喫茶店にいた。オレンジジュースが飲みたかったので私を喫茶店に誘ったと叔母が言った。何か他に話があるんだろうなと思って聞いてみると、「もっと主婦として自覚しなければいけない」とか、「どうしてももう少し融通がきかな

		いのか」やら私に対して言ったり、自分の息子夫婦の愚痴を言い始めた。だんだん腹が立ってきて、もう帰ろうとするとケーキを食べようというので、迷っていた。
	D18	通っているカルチャースクールにいた。絵を描いていると、「どんな絵をかいているの？」と先生が聞いてきた。見せようと思ったが、どのページをみても描いていない。描いてある絵は家に置いてあることを思い出して、先生に説明した。「最近さぼりぎみだ」「外に出て、歩きながらでもできる」との趣旨のことを言われて、少し落ち込む。
	D19	レストランで夫と食事をしていた。港の付近にあるレストランで海が見えていた。ウェイターの人に注文をしようとする、3歳くらいの男の子が海にのりだそうとしている。「危ないから離れた方が良い」とその子にいうと、「僕もレストランで食べたい」と言う。「子どもはこのレストランで食事するのは駄目で、子ども用の所へ行かなければいけない」と言った。夫からも説得してもらおう。食べさせてしまうと、食中毒になると思った。食べてはいけないと、何度も説得していた。
10 か月	D20	ホームで電車を待っていた。ふと足元をみると左右違う色のサンダルをはいている。家に戻ろうかどうか迷っているうちに電車（なぜかピンク）が来てしまい、しかたがないので電車に乗った。靴を隠しながら雑誌を読んでいると、外国の人（白人男性）が声をかけてきた。何語なのかさっぱりわからないが、Z駅に行きたいようだ。乗っている電車ではZ駅に着かないことを説明しようとするが、何語で話せばよいのかわからない。OL風の人に助けを頼むが、「私もわからない」とどこかへ行ってしまう。とても困っているところで目が覚めた。
	D21	夫とドライブしていた。山道を抜けると海に出た。海沿いの道を走っていると「この辺りはイルカが出る」と夫が言った。イルカを見たいと思い、探していると、突然イルカが2、3匹ジャンプした。道路と海とはとても近いので、私たちの車の方へ寄ってくる。車と同じ速さで泳ぎながらイルカがこっちを見る。私も楽しくなって、車の窓を開けた。風がとても気持ち良くて、イルカと泳ぎたいと思った。

5. 初産婦 E

①妊娠中期

妊娠月数	夢番号	夢の内容
5 か月	D1	海で海水浴をしている。時間帯は夕方。あまり天気が良くないが、曇りというほどでもない。楽しく遊んでいたが、海の潮の流れが強く自分の行きたい方向ではないほうへ流される。不思議なことに、海の深いほうへ流されている。一緒に来ていた夫が止めてくれたので、そのままどんどん沖へ流されることはなかった。
	D2	なぜか中学生か高校生に戻って実家にいる。朝、学校へ行く支度をしているが、かなりばたばたして遅刻しそうになっている。
	D3	学校のような質素な建物にいる。そこは中国のショッピング街だと思っている。ほとんど身動きが取れないぐらいに人が沢山いる。洋服など売り物も沢山あるが、人が多すぎてゆっくり買い物を楽しむどころではない。一緒に来ているのは夫だと思う。そのうちに夫とはぐれてしまう。とにかく人が多すぎて自分の思うように動けない。このままはぐれたままだったらどうしようかと心配になるが、そのうち会えるだろうと楽観的である。
	D4	現実にある小学1・2年生のクラスで、座ってレッスンを受けることが出来ず、ごそごとしたり、うろうろ歩き回っている生徒がいる。注意するが効果なく、いらいらしている。クラスの人数は、実際は7人だけど、この夢では10人ぐらいに増えていた。
	D5	看護師として夜勤をしている。一緒に働いている人は以前勤めていた病院で同僚だった2人だった。ある患者さんの点滴の針が抜けてしまったのと、尿の管が取れてしまったので忙しくしている。どちらも急いでやらないと、と思いつ焦っている。どちらにも取り掛かることなく目が覚めた。
	D6	海に入っている。海水浴をしていたのか良く分からない。波が高い。魚が水面近くをジャンプしながら泳いでいる。夕方近いのか曇りなのかやや薄暗い。登場人物はいなかった。
	D7	バレーボールをしている。ボールが自分のところへ来てもうまく返せない。チームメイト、対戦相手ともに全く見覚えがない人たちだった。
7 か月	D8	自分の英語教室にいて、何人かの生徒さんがレッスンをしているのではなくて遊んでいる。生徒の一人がどこへ出かけたなどの話をしていてそれを穏やかな気持ちで聞いている。なぜか身長を測ってあげた。
	D9	ボーリングをしているが、普通のボーリング場ではなくてレストランのような場所。しかもボーリングのボールは普通の2倍ぐらいの大きさ。一応ボーリングのレーンらしきものはあるがその直ぐ先では誰かがテーブルについて食事しているもう少しでレーンを越えてその人たちにボールが当たるところだった。

6 月に報告された夢はなかった。

②妊娠後期

8 か月	D10	高校生になっていて、文化祭のような行事に参加している。途中中学時代の友人に出会い、一緒に歩いている。途中その友人とはぐれてしまい、建物の外に出て運動場のようなところへ行く。人が沢山いて運動をしたり、凧揚げなどしている。結局その友人とは会えなかった。そのうちに行事が終わりになるようでみんなが列を作っていたので私もその列の中に加わった。
	D11	美術館のようなところで、地下室にいる。絵などが飾ってあるのを眺めている。そのうちにそこは危険な場所だと言うことがわかって逃げなくてはいけないと思うが、思うように体が動かさず怖い、と思っている。
9 か月	D12	自分は中学生に戻っている。お祭りに行っていて何か食べ物を買おうと思っているが、屋台に人がいなくて買うところがなく、どうしようかと思っている。中学時代の同級生を何人か見かけたが、一緒には行動せず、特に話もしなかった。ただ、お祭りのなかをしばらく歩いていた。

10 か月に報告された夢はなかった。

あとがき

山口大学大学院東アジア研究科博士課程に進学し、調査・研究を重ね、学位論文を完成させることができました。これは、数多くの方々のご理解とご支援のお陰にほかならなりません。以下、記して感謝を申し上げたいと思います。

とりわけ、本研究の調査に協力してくださったAさん、Cさん、Dさん、Eさんに深く感謝します。忙しいなか、そして体調がすぐれないなか、調査に協力してくださり誠にありがとうございました。広島大学大学院時代からの私のよき理解者であるAさんが妊娠中に、修士課程の授業で出された夢に関する課題に快く協力してくださり、出産後も体調がすぐれないなか夢を報告してくれました。それが、本研究の大きなはじまりでした。Aさんは私の研究に対して深く理解してくださり、Cさんを紹介してくれました。重ねてお礼申し上げます。また、Dさんを紹介してくださった、広島大学大学院時代の敬愛する先輩に心からお礼申し上げます。加えて、Eさんを紹介してくださった山口大学大学院東アジア研究科の河合可南子さんにお礼申し上げます。研究に対する皆様のご理解とご協力があったからこそ、ここまで研究を進めることができました。重ねてお礼申し上げます。

Bは私本人ですが、修士課程2年生のときに妊娠し、あまりに印象的な夢を見たので指導教官の名島潤慈先生にそれらの夢を報告したのが博士課程に進学する大きなきっかけとなりました。修士課程での論文指導のさいには、修士論文のみならず、私の夢を分析してくださいました。本当に感謝しております。また、名島潤慈先生は私の稚拙な論文を忍耐強く何度も添削してくださいました。修士2年からの5年間、育児、仕事、そして第2子の出産と本研究を断念しそうに何度もなりましたが、名島先生が叱咤激励してくださり、ときに私の研究を高く評価してくださったお陰でここまで研究することができました。心理臨床家として、研究者として、そして指導者として心から尊敬しております。重ねて感謝申し上げます。

加えて、副指導教官である福田隆眞先生と藤原マリ子先生に感謝申し上げます。福田先生も藤原先生も私の研究の意義を認めてくださり、くじけそうになっている私を常に励ましてくださいました。福田先生と藤原先生のご指導のお陰で妊娠期の母性という難しいテーマをここまでまとめることができました。心からお礼申し上げます。また、東アジア研究科の諸先生方には基盤演習や基盤演習プロジェクト等でご指導していただきまして誠にありがとうございました。また、教育学研究科学校臨床心理学専修の諸先生方には修士時代から研究に対するご指導や励ましをいただきました。心から感謝申し上げます。また、東アジア研究科の学務のみなさまには、休学や学位申請などで丁寧に対応してくださったばかりでなく、折に触れ励ましのお言葉をかけてくださいました。誠に感謝しております。

本研究では、名島先生のゼミ生であった、河合可南子さん、八田有加さん、佐藤直弘くん、渡邊ふくみさん、藤井優子さんが妊娠期の夢についての展望論文や、母性に関する展望論文などで本研究に協力していただきました。本当にありがとうございました。みなさまと研究をともにできたことは大きな喜びでした。記して感謝を示すとともに、みなさまの益々のご発展をお祈り申し上げます。

広島大学大学院ではアメリカ文学を研究しておりましたが、諸事情により研究を断念しました。それから、子どもを生み、育てたいという強い欲求から結婚を機に山口に移り住

み、臨床心理士を目指すために山口大学大学院に進学しました。「私には博士論文は書けない」と思っていた私が、妊娠期の夢に現れた母性というテーマで博士論文を書き上げたということは信じがたいことです。人生の不思議さ、面白さを感じます。

東アジア研究科の入学試験のさいには長男はまだ生後一月半ほどで、教育学部の院生室で河合さんと渡邊さんが長男を見ていてくれました。その長男は現在4歳になり、また長女が平成21年秋に誕生し、1歳になりました。臨床心理士として仕事をしながら、育児をしながらの研究は非常に険しい道でした。しかし、おそらく私の人生のなかで非常に意義深い4年間になるだろうと思います。この4年間で培ったものを無駄にせぬよう、研究をさらに発展させ、妊産婦の支援、そして母親・父親の育児支援に尽力したいと思います。

最後に、高校卒業後から国内外合わせて5つの大学・大学院で16年間学ぶ、モラトリアムな私をいつも温かく見守ってくれた両親、妊娠期の夢という研究のテーマと母親としての喜びをプレゼントしてくれた私の子どもたち、そして研究、育児、仕事という3足のわらじでよたよたと倒れそうな私をいつも支えてくれた夫に深く感謝します。